

千葉大学

大学院看護学研究院 年報 2023

〔2023. 4～2024. 3〕

Annual Report 2023
Graduate School of Nursing / School of Nursing
Chiba University



CHIBA
UNIVERSITY



目 次

I. 組織	1
1. 教員組織と構成員（2023年4月1日～2024年3月31日までの在職者）	1
2. 学部生数および大学院生数	2
1) 学部生数	2
2) 大学院生数	2
II. 教育	3
1. カリキュラム	3
1) 看護学部看護学科	3
2) 大学院看護学研究科	6
2. 令和5年度教育の取り組み	11
1) 看護学部 生活者との交流実習	11
2) 大学院看護学研究科 博士後期課程新カリキュラムの評価	13
3) 事業名称 グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 (Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP)	16
4) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター	17
3. 研究科学位論文一覧	18
III. 研究	23
1. 教員の研究業績（講座別）	23
2. 科研費・競争的資金取得一覧	66
1) 文科科研・厚労科研	66
2) その他研究助成金	69
3. 共同研究	72
1) 国際共同研究	72
2) 民間共同研究	72
IV. 社会貢献活動	74
1. 学協会等への貢献	74
2. 国及び地方公共団体等への貢献	74
1) 国の機関等	74
2) 地方公共団体等の機関等	74
3. メディア・報道等を通じた貢献	75
4. 公開講座	75
V. 国際交流	77
1. 海外への渡航者数	77
2. 海外からの来訪者数	77
3. 海外の大学との協定	77

1) 大学間協定	77
2) 部局間協定	78

I. 組織

1. 教員組織と構成員（2023年4月1日～2024年3月31日までの在職者）

研究部門	講 座	教授	准教授	講師	助教・助手	特任／技術
先端実践看護学	高度実践看護学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
		富岡 晶子	佐藤 奈保		仲井 あや 中水流 彩	
		眞嶋 朋子			楠 潤子	(特任研究員) 國武由香里
		増島麻里子			佐野 元洋	(特任講師) 田崎 牧子
						(特任研究員) 佐藤 睦
						(特任研究員) 金城 芽里
						(特任研究員) 臼井 智子
		酒井 郁子			佐伯 昌俊	(特命助教) 西宮 岳
	高齢社会実践看護学	正木 治恵	石橋みゆき		佐々木ひろ	(特任助教) 石井 彩
						(特任助教) 山崎由利亜
						(特任助教) 姚 利
		黒田久美子				
生活創成看護学	健康増進看護学	小宮山政敏		雨宮 歩		(特任助教) 田原裕希恵
		大内 基司				
		森 恵美	前原 邦江		木村佳代子	(特任研究員) 吉見 萌々
					遠山 房絵	
		北池 正 池崎 澄江				
	地域創成看護学	田上美千佳			鈴木 美央	(特任助教) 片山 直子
						(特任助教) 田原 郁恵
						(特任助教) 川上 奈々
		宮崎美砂子				
		石丸 美奈		岩瀬 靖子	坂井 文乃	(国際高等研究基幹 特任助教) 佐藤 太一
						(特任助教) 吉田 靖代
						(特任助教) 俵 麻紀
						(特任助教) 角田由紀子
		諏訪さゆり	飯田貴映子		湯本 晶代	(特任助教) 犬山 彩乃
						(特任研究員) 上元 達仁
		文化創成看護学	文化看護学		齊藤しのぶ	
					ニヤマザオ アモス ティナシ	
					宇田川友佳	
専門職育成学			井出 成美		カズノブ ダビッド	(特任講師) 孫 佳茹
	中山登志子				(助手) 植田満美子	
				野崎 章子		(特任准教授) 天井 響子
看護政策・管理学	和住 淑子		銭 淑君	高木 夏恵		(特任教授) 島田 陽子
			杉田由加里	飯野 理恵		
	手島 恵					
附属看護実践・教育・研究 共創センター		センター長 (和住 淑子)				
附属専門職連携 教育研究センター		センター長 (酒井 郁子)	(井出 成美) (特任准教授) 下井 俊典	(特任講師) (孫 佳茹)		
計		18	10	6	17	24

2. 学部生数および大学院生数

(2023 年 4 月現在)

1) 学部生数

学 部 (入学定員)		在校生 (留学生再掲)	卒業生累計 (2022 年度迄)
看護学部看護学科 総数 (80 名 + 若干名)		330 (3)	3732
在 校 生 内 訳	1 年	84	
	2 年	89	
	3 年	81	
	4 年	76 (3)	

2) 大学院生数

カリキュラム	専 攻	課 程 (入学定員)	在校生 (留学生・外国人学生再掲)	修了生累計 (2022 年度迄)
大学院生 総数			157 (9)	1330
旧カリキュラム	看護学	博士前期課程 (25 名)	1 (0)	873
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0	(内数) 5
		博士後期課程 (12 名)	24 (1)	250
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	(内数) 4
	看護システム 管理学	修士課程 (12 名)	1 (0)	181
	共同災害 看護学	5 年一貫制博士課程 (2 名)	6 (0)	3
新カリキュラム	看護学	博士前期課程 (40 名)	77 (5)	23
		国際プログラム 博士前期課程 (若干名)	0 (0)	0
		博士後期課程 (15 名)	48 (6)	0
		国際プログラム 博士後期課程 (若干名)	0 (0)	0

Ⅱ. 教育

1. カリキュラム

1) 看護学部看護学科

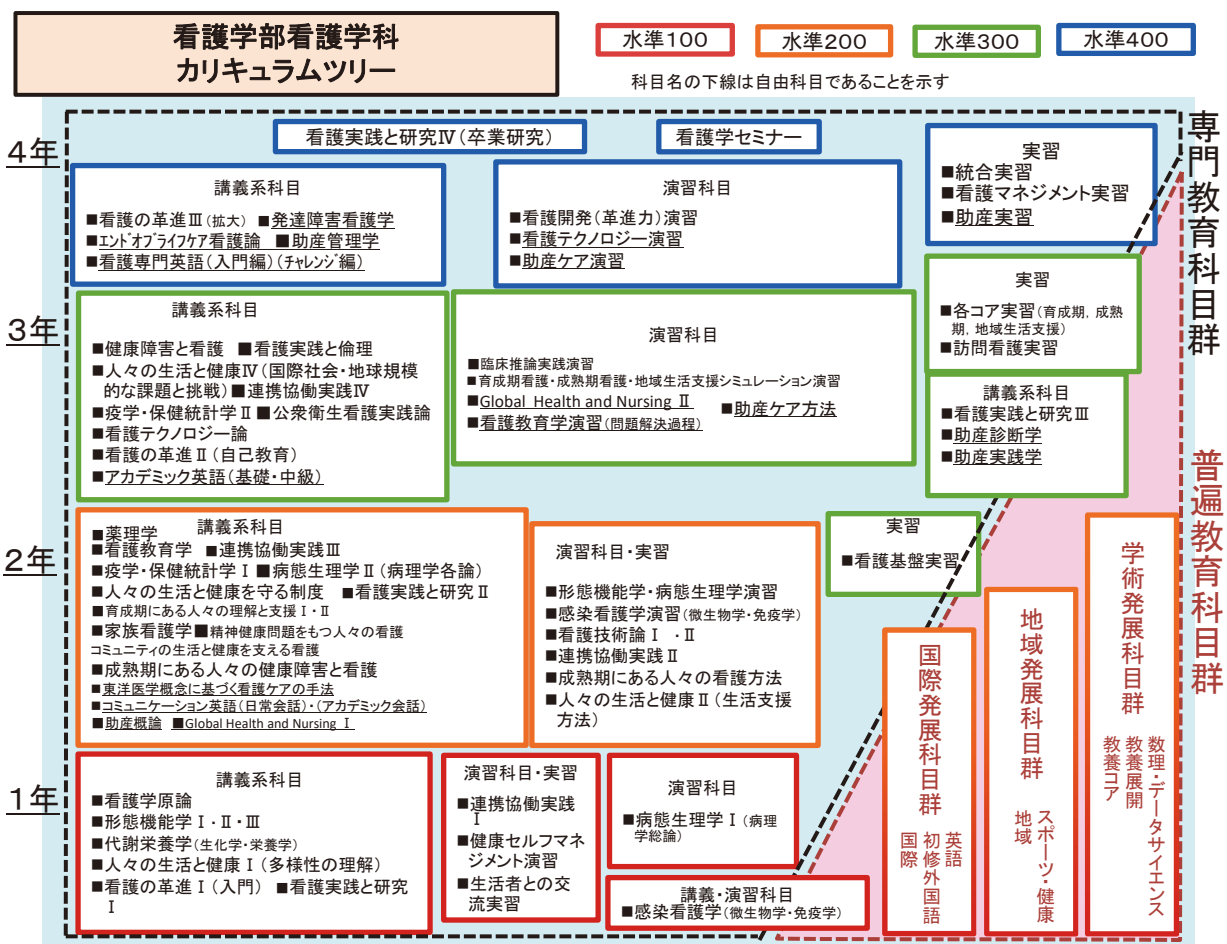
(1) 看護学科の教育課程の構成と特徴

本学科の4年間の教育課程は、看護学の基礎を教授するという観点から、次のように授業科目を体系的に整えている。すなわち、看護学の専門分野を紹介・導入し、博士課程への準備を整えるための専門科目とこれらの基礎となる専門基礎科目から構成される「専門教育科目」をおく。更に、看護専門職に不可欠な、深い人間理解につながる能力、広い視野を持つ判断能力、科学的問題解決能力ならびにこれらの学習を支える基礎学力の育成のために「普遍教育科目」をおく。

卒業時には、「学士（看護学）」の学位が授与され、保健師、看護師の国家試験受験資格が、また一部所定の科目を履修した場合、助産師の国家試験受験資格が与えられる。

本年度は、以下の新しいカリキュラムが始まった初年度であり、1年次に提供された。新カリキュラムにおける卒業時到達目標は、①看護実践能力②研究能力③革進力④連携協働力⑤倫理的実践能力⑥自己教育力の6つであり、これに基づく科目構成となっている。

本年度に提供した新科目としては、1年次からの実習「生活者との交流実習」（年報11ページ参照）や、革進力の涵養を目指した講義「看護の革新Ⅰ（入門）」が行われた。



(2) 臨地実習協力施設一覧

<病院>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・千葉県こども病院
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター
- ・千葉メディカルセンター
- ・船橋中央病院
- ・船橋市立医療センター
- ・山王病院
- ・東京かつしか赤十字母子医療センター
- ・木村病院
- ・千葉市立海浜病院
- ・千葉県がんセンター
- ・弁天メンタルクリニック
- ・国立国際医療研究センター国府台病院

<高齢者施設>

- ・JCHO 千葉病院附属介護老人保健施設
- ・介護老人保健施設おゆみの

<助産所>

- ・おおた助産院
- ・NPO 法人お産子育て向上委員会 若草助産院

<診療所>

- ・有秋台医院
- ・東京はくと医療生活協同組合【浮間診療所】
- ・ファミリー産院ちば
- ・医療法人 成和会 山口病院
- ・柏の葉診療所

<市町村>

- ・市原市保健センター
- ・白井市健康福祉部健康推進課
- ・鎌ケ谷市
- ・千葉市中央保健福祉センター
- ・千葉市花見川保健福祉センター
- ・千葉市緑保健福祉センター
- ・千葉市美浜保健福祉センター
- ・千葉市若葉保健福祉センター
- ・千葉市稲毛保健福祉センター
- ・白子町

<県>

- ・安房健康福祉センター
- ・君津健康福祉センター
- ・印旛健康福祉センター
- ・習志野健康福祉センター
- ・市原健康福祉センター

<訪問看護ステーション>

- ・なごみの陽訪問看護ステーション
- ・緑が丘訪問看護ステーション
- ・花見川訪問看護ステーション
- ・みやのぎ訪問看護ステーション
- ・土気訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションかがやき
- ・訪問看護ステーションゆうこう
- ・白十字訪問看護ステーション
- ・いちかわ訪問看護ステーションサテライトみなみはま
- ・いちかわ訪問看護ステーション
- ・てんだい訪問看護ステーション
- ・ふたわ訪問看護ステーション
- ・さわやか訪問看護ステーション
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション稲毛
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーションさくら
- ・看護協会ちば訪問看護ステーション
- ・訪問看護ステーションあすか
- ・まくはり訪問看護ステーション
- ・訪問看護サボテン
- ・訪問看護ステーションコスモス
- ・かしわど訪問看護ステーション
- ・匝瑳市訪問看護ステーションつばきの里
- ・生活クラブ風の村訪問看護ステーション Arica
- ・千葉メディカルセンター訪問看護ステーション
- ・船橋中央病院訪問看護ステーション

<地域包括支援センター>

- ・医療法人社団 慶勝会 館山市地域包括支援センター いちご
- ・社会福祉法人うらら 十条高齢者あんしんセンター

<小中学校>

- ・千葉市立さつきが丘東小学校
- ・千葉市立稲丘小学校
- ・千葉市立稲浜中学校
- ・千葉市立稲毛第二小学校
- ・千葉市立寒川小学校
- ・千葉市立宮野木小学校
- ・千葉市立検見川小学校
- ・千葉市立高洲小学校
- ・千葉市立高洲中学校
- ・千葉市立轟町小学校
- ・千葉市立轟町中学校
- ・千葉市立小中台小学校
- ・千葉市立上の台小学校
- ・千葉市立真砂西小学校
- ・千葉市立大森小学校

<保育園>

- ・たいよう保育園
- ・みつわ台保育園
- ・旭ヶ丘保育園
- ・若竹保育園
- ・今井保育園
- ・稲毛保育園
- ・幕張海浜こども園
- ・千葉寺保育園

- ・千葉市立都賀中学校
- ・千葉市立幕張東小学校

<その他>

- ・NPO 法人けやきと仲間
- ・NPO 法人山友会
- ・あやめ台住宅管理組合
- ・生活クラブ風の村スペースびあ茂原
- ・森永エンゼル 110 番
- ・千葉市子育て支援館
- ・モーハウス
- ・公益財団法人 ちば県民保健予防財団
- ・生活クラブ風の村重心通所さくら
- ・おやこふれいすちるる
- ・ビュートゾルフ柏・みんなのたまり場
- ・かがやき会
- ・ハッピーニューライフ東船橋
- ・夏見のおうち子ども食堂
- ・千葉市社会福祉協議会東千葉地区部会
- ・いしいさん家

(敬称略、順不同)

2) 大学院看護学研究科

本研究科のミッションは、看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、我が国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすためにカリキュラムを全面的に見直し、2021 年度より教員組織体制を改革すると同時に、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。

(1) 看護学専攻：博士前期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、2 年間の教育課程であり、教育・研究者の育成を主眼とした「看護学コース」、および、卓越した能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成する「看護実践学コース」に大別され、さらに「看護実践学コース」には『看護管理学プログラム』『高度実践看護学プログラム』『特定看護学プログラム』が含まれる。

「看護学コース」においては、社会の要請にこたえる新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者を育成することを目指す。

「看護実践学コース」においては、課題やニーズの分析及び看護理論やモデルの実践的検証に必要な研究力、看護実践の質向上や組織変革に必要となるリーダーシップを発揮する能力を備えた高度実践者・看護管理者を育成することを目指し、以下 3 つのプログラムごとに特徴を記す。『看護管理学プログラム』では、組織変革のためのリーダーシップが発揮できる人材を育成する。修了者は認定看護管理者の受験資格を得ることができる。『高度実践看護学プログラム』では、科学的根拠に基づくケア改善のリーダーシップが発揮できる人材、研究能力のある専門看護師を育成する。本プログラムはがん看護専門看護師ならびに小児看護専門看護師の教育課程として、日本看護系大学協議会から認定を受けている。『特定看護学プログラム』では、根拠に基づいた特定行為を含むケア提供のためのクリニカルリーダーシップが発揮できる人材を育成する。本プログラムは、2021 年度に新設され、厚生労働省が定める特定行為研修と連動している。

2021 年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として、研究方法や研究倫理等に関わる科目を含む「研究学術モジュール」、看護学革新力の基礎や看護管理学等に関わる科目を含む「実装モジュール」、臨床推論や臨床病態学、地域包括ケア論等を含む「実践モジュール」の 3 つの科目群を設置し、大学院生は各プログラムの特性に応じて指定された必須・選択科目を履修し、その後の専門関連科目や研究科目を学修する。特に、共通基盤科目においては、看護学コース等、他コースや他プログラムの大学院生も履修することから、背景の異なる大学院生が共に会し、意見交換をすることによる学修を促すことも意図している。

国際プログラムは「看護学コース」のみであり、英語による独立したカリキュラムである。

〔看護学コース〕 修了要件：30単位以上

研究:12単位	必修	演習:6単位	必修	専門科目:主専攻の2単位	選択必修
看護実践に必要な諸理論、知識、方法を修得し、問題を解決する能力を涵養する		専門分野の深い学識を、問題解決に活用するための実践的考察		社会や人々を多様な視座からとらえ、自己の専門分野における研究開発の必要性を検討する	
●理論開発特別研究(12)		●看護研究演習(6)		●先端実践看護学Ⅰ(1)	●生活創成看護学Ⅰ(1)
				●先端実践看護学Ⅱ(1)	●生活創成看護学Ⅱ(1)
				●文化創成看護学Ⅰ(1)	
				●文化創成看護学Ⅱ(1)	

共通基盤科目：研究学術モジュール5単位、実装モジュール1単位、実践モジュール4単位を含む10単位以上

研究学術モジュール	実装モジュール
●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1)	●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(1) ●プロジェクト・マネジメント(1) ●看護管理学(2) ●看護教育学(2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)
アカデミックコミュニケーションⅠ(1)	
アカデミックコミュニケーションⅡ(1)	
アカデミックコミュニケーションⅢ(1)	
実践モジュール	
●看護理論(1) ●看護倫理(1) ●e-learning演習臨床推論(1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1)	●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題解決演習(2) ●コンサルテーション(1) ●看護専門職論(1) ●ナーシングフィジカルアセスメント(2) ●臨床病態学(2) ●臨床薬理学(2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント(1) ●e-learning演習臨床病態生理学(1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(1) ●e-learning演習臨床薬理学(1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(1) ●看護政策(1)

〔看護実践学コース看護管理学プログラム〕 修了要件：30単位以上

研究:12単位	必修	演習:6単位	必修	専門科目:主専攻の2単位	選択必修
自組織の課題を解決するためのプロジェクト型研究を行うことで高度な探究能力を涵養する ●看護管理課題研究 (12)		職場の課題解決のための情報活用や解決能力を修得する ●看護管理学演習 (6)		保健医療システムの変化や、医療の高度化、多様化、国際化した看護について深い学識を修得する ●先端実践看護管理学Ⅰ (1) ●生活創成看護管理学Ⅰ (1) ●先端実践看護管理学Ⅱ (1) ●生活創成看護管理学Ⅱ (1) ●文化創成看護管理学Ⅰ (1) ●文化創成看護管理学Ⅱ (1)	
共通基盤科目：研究学術モジュール4単位、実装モジュール4単位、実践モジュール2単位を含む10単位以上					
研究学術モジュール			実装モジュール		
●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1)			●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(1) ●プロジェクト・マネジメント(必修1) ●看護管理学(2) ●看護教育学(2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)		
●アカデミックコミュニケーションⅠ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ(1)					
実践モジュール					
●看護理論(1) ●看護倫理(1) ●e-learning演習臨床推論(1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1)			●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題解決演習(2) ●コンサルテーション(1) ●看護専門職論(1) ●ナーシングフィジカルアセスメント(2) ●臨床病態学(2) ●臨床薬理学(2) ●e-learning演習 フィジカルアセスメント(1) ●e-learning演習臨床病態生理学(1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(1) ●e-learning演習臨床薬理学(1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(1) ●看護政策(1)		

〔看護実践学コース高度実践看護学プログラム〕修了要件：54単位以上

研究:12単位 必修 高度実践を行う際にエビデンスを活用するだけでなく、自らエビデンスを生み出す問題解決能力を涵養する ●専門看護特別研究(12)	演習・実習:14単位 必修 複雑な健康問題をもつ対象にケアとキューアを統合し役割を担う能力を修得する ●看護学実習Ⅰ-Ⅲ(10) ●看護学演習(4)	専門科目:主専攻の10単位 選択必修 保健医療福祉のシステムの変化や高度実践に必要な役割を学び、ケアシステムの改善に向けた幅広く深い学識を修得する 小児看護専門看護師 10単位 ●小児看護学A・B ●小児と環境の査定 ●小児の病態 ●小児の保健・医療制度 がん看護専門看護師 10単位 ●成人看護学A・B ●臨床腫瘍学概論 ●腫瘍医療ケアコーディネーション ●エンドオブライフケア看護学
--	--	--

共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上

研究学術モジュール ●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ(1)	実装モジュール ●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(1) ●プロジェクト・マネジメント(1) ●看護管理学(必修2) ●看護教育学(必修2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)
実践モジュール ●看護理論(必修1) ●看護倫理(必修1) ●e-learning演習臨床推論(1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1) ●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題解決演習(2) ●コンサルテーション(必修1) ●看護専門職論(1) ●ナースングフィジカルアセスメント(必修2) ●臨床病態学(必修2) ●臨床薬理学(必修2) ●e-learning演習フィジカルアセスメント(1) ●e-learning演習臨床病態生理学(1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(1) ●e-learning演習臨床薬理学(1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(1) ●看護政策(必修1)	

〔看護実践学コース特定看護学プログラム〕修了要件：41単位以上

研究:6単位 必修 自組織の課題や専門職連携の障壁の分析、特定行為の効果・検証を行う能力を涵養する ●特定看護課題研究(6)	演習・実習:10単位 必修 特定行為を看護と統合して提供するため専門職連携・問題解決能力を涵養する ●特定看護実習(6) ●特定看護演習(4)	専門科目:7単位～29単位 選択必修 特定行為を患者・利用者の価値を尊重して実践し、地域包括ケアシステムを推進するために必要となる深い学識と確かな技術を修得する ●特定看護実践論Ⅰ(1) ●特定看護実践論Ⅱ(1) ●特定行為研修区分別科目(5～27) コンフォートケア科目群(5) リハビリケア科目群(8) ロングタームケア科目群(6) クリティカルケア科目群(8)
--	--	---

共通基盤科目：研究学術モジュール3単位、実装モジュール5単位、実践モジュール10単位を含む18単位以上

研究学術モジュール ●看護学研究Ⅰ(必修1) ●看護学研究Ⅱ(必修1) ●看護学研究Ⅲ(必修1) ●看護学研究Ⅳ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅠ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅡ(1) ●アカデミックコミュニケーションⅢ(1)	実装モジュール ●看護革新力の基礎(必修1) ●EBP実装(必修1) ●プロジェクト・マネジメント(1) ●看護管理学(2) ●看護教育学(2) ●専門職連携教育論(1) ●専門職連携実践論(1)
実践モジュール ●看護理論(1) ●看護倫理(1) ●e-learning演習臨床推論(必修1) ●専門職連携基礎(1) ●専門職連携実践1(1) ●専門職連携実践2(1) ●Cultural Competency and Cultural Humility(1) ●社会課題解決基礎(1) ●社会課題解決応用(1) ●専門職間社会課題解決演習(2) ●コンサルテーション(1) ●看護専門職論(1) ●ナースングフィジカルアセスメント(2) ●臨床病態学(2) ●臨床薬理学(2)	●e-learning演習フィジカルアセスメント(必修1) ●e-learning演習臨床病態生理学(必修1) ●e-learning演習疾病臨床病態学(必修1) ●e-learning演習臨床薬理学(必修1) ●組織マネジメント論(1) ●e-learning医療安全学(必修1) ●災害看護活動論(復旧・復興)(1) ●災害マネジメント論(1) ●災害時専門職連携演習(1) ●地域包括ケア論(必修1) ●看護政策(1)

② 臨地実習協力施設一覧

<病院・診療所>

- ・千葉大学医学部附属病院
- ・成田赤十字病院
- ・東京女子医科大学附属八千代医療センター
- ・生協浮間診療所
- ・千葉県こども病院
- ・おゆみのクリニック
- ・綾瀬循環器病院
- ・弁天メンタルクリニック

<その他>

- ・訪問看護ステーションフレンド
- ・相馬広域こころのケアセンター なごみ
- ・千葉市地域活動支援センター けやきと仲間
- ・千葉市保健福祉局
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター

(敬称略、順不同)

(2) 看護学専攻：博士後期課程・国際プログラム

① 教育目的および特徴

博士前期課程は、3年間の教育課程であり、社会の要請に応える新領域の研究を理論開発の面から推進すると共に、看護学と看護実践の往還を具現化する研究力を有する教育・研究者、及び学際的な視点をもつ理論やモデルを創出・検証する研究者を育成する。

2021年度からの新カリキュラムでは、共通基盤科目として学際研究や看護革新力の展開等に関わる科目、専門科目として研究テーマに応じた看護特論、コンソーシアム科目として災害マネジメント論等の科目が開講される。

国際プログラムは、英語による独立したカリキュラムである。

〔博士後期課程〕修了要件：12単位以上

研究:5単位 研究の進捗管理について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ● 特別研究(5)	必修	演習:2単位 研究課題の設定、研究計画の策定について、研究倫理に則り学生が主体的に取り組む能力を涵養する ● 特別演習(2)	必修	専門科目:主専攻の2単位 専門性の高い研究領域における新しい知見や価値の創造に向けた考察 ● 先端実践看護学特論(2) ● 生活創成看護学特論(2) ● 文化創成看護学特論(2)	選択必修
共通基盤科目:3単位以上 選択必修 ● 学際研究Ⅰ(導入)(必修1) ● 看護革新力の展開(必修1) ● Academic Writing(必修1) ● グローバル演習(1) ● 学際研究Ⅱ(発展)(1) ● 看護イノベーション特論(1) ● Systematic Review(1) ● ジョブ型研究インターンシップ(1)					

2. 令和5年度教育の取り組み

1) 看護学部 生活者との交流実習

令和5（2023）年度の入学生より新たに開講された、実習科目（1単位）について報告する。本科目の特徴は、1年次生が地域の多様な実習フィールドに出向いて施設の利用者と交流することと、看護学研究院の全教員が実習担当教員として関わっていることである。

(1) 実習目標および実施方法

【実習目標】

地域で生活するあらゆる健康状態にある様々な発達段階の人々を生活者として理解する。

【実習方法】

● 実習時期等

T3～T6中の、連続あるいは断続的な5日間とした。施設の都合に合わせて実習日程を組めるようにすることと、学生が海外留学等を含む他の履修科目と日程が重ならないようにするため、T3やT6も含めた長期間の実習期間とした。また、実習前（T1～T2）に「連携協働実践Ⅰ」「人々の生活と健康Ⅰ（多様性の理解）」「看護学原論」等の科目を履修し、実習の準備性を高められるようにした。

● 実習場所

協力の得られた、千葉県内の12か所の施設とした。

（重症心身障害児・者対象の通所施設、子育て支援施設、生きがい活動支援通所施設、など）

● 実習方法

実習構成は、上記の5日間のうち、実習グループ毎に、1日目は施設毎のオリエンテーションを含む学内実習とし、2～4日目は施設実習、5日目は、実習施設毎に目標に沿って振り返りを行う学内実習とした。全対象学生に向けた全体オリエンテーションは、オンデマンドで実施した。

2日目～4日目の現地実習は、基本的に学生のみで行うこととして、各実習グループの担当教員による現地への同行、施設でのオリエンテーションや振り返りへの参加等は各教員の指導法として各担当教員に一任した。その他、実習施設からの要望や担当教員が同行の必要があると考えた場合は、教員も同行した。

日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
内容	・実習オリエンテーション（オンデマンド） ・実習施設に関する説明・事前学習（実習施設毎に対面またはオンライン）	現地実習（1か所に3日） ・実習日時は、実習場所によって異なる ・到達目標の達成にむけて、積極的・主体的に実習施設で話を聞いたり、できることを手伝ったりして見学・参加する			・実習施設毎に、実習目標達成に向けてグループワーク ・最終課題の作成と提出

● 評価：

態度、グループワークへの参加状況、学びの状況、最終レポートの評価

(2) 実施体制

● 実習施設担当者と連絡担当教員との連携体制

実習施設ごとに実習施設との連絡担当教員1～2名と、担当教員を3～4人を配置し、他の実習・講義・演習等と本科目が重なったとしても連絡担当教員・担当教員同士で調整し対応できるように体制を整えた。連絡担当教員は、実習前に担当する実習施設の担当者と実習目的・方法・プログラムに関する十分な打ち合わせを行い、実習中は、教員が携帯電話を常時携帯し、

実習施設担当者と指導に関する相談ができる体制を整えた。実習後に実習施設担当者より学生の実習状況等を確認し、実習指導に反映できるようにした。また、学生の最終レポートを専任教員から送付し学生の学びを実習施設担当者にフィードバックを行った。

- 実習中の安全管理体制等（SNS による個人情報流出対策を含む）

実習中の安全管理について、原則として千葉大学看護学部教務委員会作成の「看護実習における安全管理マニュアル」を遵守するように指導した。実習前オリエンテーション（オンデマンド）にて、感染症予防について、個人情報保護についての内容も含めた。また、Moodle を活用し実習前に「安全管理のための行動確認表チェック33項目」を確認することを徹底した。事故発生時、学生は専任教員と実習施設担当者に迅速に連絡し、教員と実習施設担当者が緊密に連携して対応できるようにした。

(3) 教員指導体制



- 実習目標である看護学生としてのマナーや学生自身の健康管理、実習地への往復時の学生の安全については、実習施設ごとに確認と対応を一任した。実習初日の朝、担当教員が現地集合場所に出向き、出席・体調・服装の確認と対応を行った実習施設や、実習終了後に実習施設担当者と担当教員でメールや電話で確認した実習施設など様々であった。

(4) 来年度にむけて

- 評価について

実習施設によって利用者の健康状態や発達状態が異なり、かつ実習内容も言語による意思伝達が困難な重度心身障害者とのコミュニケーション、幼児の食事介助、高齢者と一緒に体操を実施する等、様々であった。そのため、学習成果の比較や一律の成績評価基準の設定は困難と考え、令和6年度より合格または不合格で評価するようにした（全学の学部教育委員会にて承認された）。

- 到達目標の追加

学生は、実習施設までの往復、実習施設担当者や利用者への挨拶、実習レポート作成・提出等、実習に関わる多くの貴重な経験を得ていた。この経験は、2年次生以降の実習（基盤実習、訪問看護実習、コア実習など）にむけた実習に取り組む姿勢や姿勢につながると考え、来年度より到達目標に「看護学生としての実習に対する姿勢や態度を身につける」を追加する予定である。

2) 大学院看護学研究科 博士後期課程新カリキュラムの評価

看護学研究科は、次に示すミッションを持つ。それは、看護学の新領域の研究および先進的教育プログラムの開発により、わが国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成すること、看護系大学の教育を担う教育研究者養成の日本における最大規模の拠点としての役割を果たすことである。このミッションを確実に果たすために、2021 年度に教員新体制の始動とともに、博士前期・後期課程の新カリキュラムを稼働した。2023 年度は博士後期課程新カリキュラムの完成年度となったため、博士後期課程新カリキュラムの評価を行った。

(1) 看護学研究科博士後期課程新カリキュラム評価の経緯

看護学研究科は、旧来の3専攻（看護学専攻、看護システム管理学専攻、共同災害看護学専攻）から、2021 年度より看護学専攻1専攻に統合した。これを機に博士後期課程（区分制博士課程）のカリキュラムを改正した。

カリキュラム改正に至った背景には、大学院生が多様な視点から指導を受けられる体制の必要性、教員の削減に伴い限りある人員による効果的なカリキュラム運営、教員組織と教育組織の分離に関わる課題が生じたことがある。これらの課題に対応すべく、教育改革・改善、学位授与の方針および教育課程編成・実施の方針に基づく人材育成を目指し新カリキュラムが編成された。新カリキュラムでは、全員必修の共通基盤科目3単位（学際研究Ⅰ（導入）、看護革新力の展開、Academic Writing）を新たに設置し、専門領域毎に担っていた看護学特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を研究部門単位による運用に変更した。

(2) 新カリキュラムの評価方法

新カリキュラムの評価は、大学院教務委員会教務部会カリキュラム評価班を中心とした組織が計画し実施した。令和5年度の大学院教務委員会は以下の通りである。

◎石橋みゆき、*○中山登志子、○杉田由加里、酒井郁子、北池正、小宮山政敏、
宮崎美砂子、増島麻里子、富岡晶子、佐野元洋
(◎委員長、○副委員長、下線は教務部会カリキュラム評価班、*カリキュラム評価班長)

(1)カリキュラム評価の目的・必要性

- ①学生が授業の学修目標を達成するために、カリキュラムは有効であったかを確認する
- ②教育内容や指導方法における改善点を明確にする
- ③教員の科目担当のあり方など、運用方法を検討する
- ④教員へのフィードバックに用いる
- ⑤教育業績の評価に用いる
- ⑥社会からのニーズに応えられるカリキュラムの開発・構築に生かす

(2)カリキュラム評価の方法

新カリキュラムの形成的評価として、教員を対象に2023年11月にワークショップを開催した。また、総括的評価として、2023年度博士後期課程修了生および在学生を対象に2024年3月にワークショップを開催し、広く意見を集約した。

(3)カリキュラム評価の実施と結果

①教員を対象に実施したワークショップ

- ◆日時：2023年11月29日
- ◆目的：新カリキュラム運用に関する現状分析、新カリキュラム運用上の課題認識、課題解決の方向性に関する意見集約
- ◆対象：全教員
- ◆方法：下記の論点に沿って小グループによる意見交換を行い、終了後、ワークシートを用いて意見を集約

＜論点＞

1-1:新カリキュラムとなり、学生の学習が向上した内容

1-2:新カリキュラムとなり、学生の負担や学習内容における課題

2-1:カリキュラムを担当する教員の負担

2-2:カリキュラムを担当する教員への教育支援や運用方法の改善点

◆結果

新カリキュラムの目的を概ね達成しており、現行の授業や教育体制に大きな変更を必要としないことを確認した。次年度に向け、検討を必要とする内容を以下に記す。

1. 各研究部門に所属する学生数の相違による影響

- ・学生の人数が多い場合は、それに比して教員の人数が少ない。
- ・学生が1名の場合は、学生間のディスカッションができない。

2. 研究部門毎の授業運営

授業運営の方法が部門により異なっており、全員参加必須や不参加可など多様である（指導教員は必ず出席することになっており、授業回数が増え負担増）。

今後、参加する回を分担するなど、教員の負担を考慮し運用方法を工夫する。また、他研究部門の授業運営方法等を共有する機会を設ける。

3. 大学院生間の交流

社会人学生が増えたことにより院生室が不在となることが多く、院生間の交流が減少した。

上級学生とインフォーマルに交流する機会が減り、教員が説明しなければならないことが増えた。

4. 施設設備

学内から同時双方向のオンライン授業に参加可能な部屋を準備する必要がある。

5. 長期的なカリキュラム評価

論文執筆後にも評価し、長期的かつ総合的に評価する。特に、「イノベーション」、「イノベーター」としてのあり方、留学による効果と経済的負担など。

②大学院生を対象に実施したワークショップ

◆日時：2024年3月14日

◆目的：博士後期課程修了時の目標達成状況の評価、新カリキュラムの改善点、大学院生間の相互交流環境等に関する意見集約

◆対象：修了生4名（新カリキュラム3名、旧カリキュラム1名）、在学生3名
合計8名（レポート提出者1名を含む）

◆方法：ワークショップの目的説明後、論点に基づくディスカッション

＜論点＞

1：新カリキュラムにより変更した授業に関する効果

2：博士論文を作成する過程で困難に感じたことと必要な支援

3：学習環境の活用、課題と改善点

4：大学院生間の相互交流の実態、課題と改善点

5：育成する人材像に向けた成長への自己評価

◆結果

新たに設定した共通基盤科目のうち、学際研究、Academic Writingは、一定の効果が得られたことを確認した。また、新カリキュラム修了生による自己評価を通して、育成する人材像（下記参照）に概ね到達できていたと評価する。次年度に向け、検討を必要とする内容を以下に記す。

1. 必修3科目と看護学特論の関連性を考慮し、両科目を学生が関連づけることを通して自己の研究活動に活かすための各科目の履修時期について検討の余地がある。また、ガイダンス等を活用し、共通基盤科目と各自の博論研究の関連性、共通基盤科目の活用等について説明の機会を設ける。

2. Academic Writingの開講時期や内容について、大学院生の学修ニーズ（前期に副論

文の投稿に合わせた内容)を考慮し検討する余地がある。

3. 大学院生間の学術的交流や大学院生の研究活動の促進を考慮した便宜を図るために、大学院生室のより効果的な活用方法(席の自由化、個人空間の確保、大学院生間の意見交換等)を検討する。
4. 大学院生間で授受する情報の信頼性について問題視する発言があった。大学院生にとって必須の情報を整理するとともに、情報管理を強化する。
5. 「イノベーション」、「イノベーター」としてのあり方や留学による効果等、長期的な視点を持ち継続的にカリキュラム評価を行う必要がある。

***参考:看護学研究科博士後期課程(看護学専攻) 学位授与の方針**

●「自由・自立の精神」

自立した研究者として研究倫理を身につけ、看護学の学的基盤の発展に貢献する研究を遂行できる。

●「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

自己の国際経験を生かし、学術的視点および国際的視点をふまえ、文化を考慮に入れた看護支援方法の研究・開発を行い、成果を学際的・国際的に発信すると共に、教養を高めて、持続的発展が可能な教育・人材育成に貢献できる。

●「専門的な知識・技術・技能」

看護学にかかわる創造性に富む高度な研究・開発能力と豊かな学識を身につけ、関連分野の研究グループに参加し、組織的な研究活動を推進できる。

●「高い問題解決能力」

看護学の専門性に根ざした課題に対し創造性豊かな研究・開発を行い、専門領域の情報・知識を統合し、多様な人々と協調・協働しながら健康社会を支える新たな知見や価値を創出することができる。

3) 事業名称 グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成

(Global & Regional Interprofessional Education Plus Program : GRIP)

(1) 担当教員

酒井郁子 飯田貴映子 天井響子 石橋みゆき 井出成美 野崎章子

(2) 概要

世界中の多様な、地域特有の健康に関連する社会課題に取り組み、それぞれの現場での最適解を導き出す人材の育成を目標として、2022 年度より大学の世界展開力強化事業の助成を得て開始した。本学で 2007 年から実施している医薬系学部を横断した「専門職連携教育プログラム-亥鼻 IPE」を全学に発展させ、さらに複数の国の複数の専門領域の学生がお互いに学びあう、本学と提携大学間での学生交換プログラムである。JV-Campus 等を活用した事前学習ののち現地演習を経て、バーチャルワークショップで成果を共有する。また、本学における全学副専攻プログラムである大学院国際実践教育に位置づけ、GRIP 関連 7 科目（8 単位）を全学共通科目として開講する。

(3) 本年度の取り組み

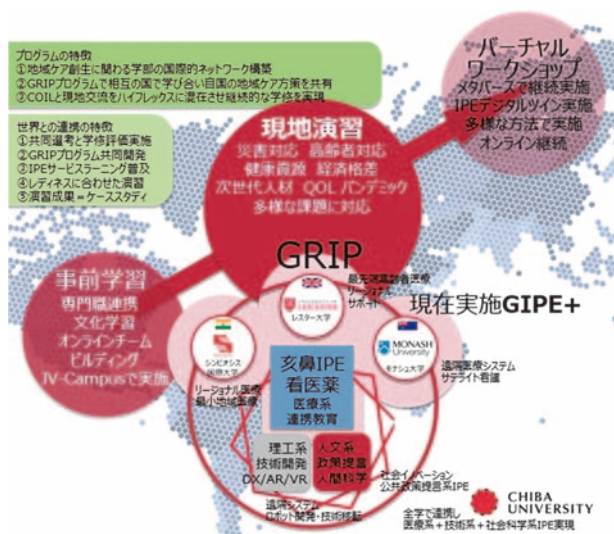
GRIP 関連科目である専門職間社会課題解決演習 Interprofessional Service Learning は学生が海外提携大学に赴き現地演習を行うものであり、本学ならびに提携大学間にて学生交換を行う。本学からは、インドにあるシンピオシス国際大学およびイギリスのレスター大学に計 15 名の学生を派遣した。学生の所属等は工学部 5 名、法政経学部 1 名、国際教養学部 3 名、教育学部 1 名、看護学部 2 名、医学部 1 名、看護学研究科 2 名であった。派遣先では、困難な状況にある子どもへの支援、ホームレス支援等の社会課題解決に取り組んだ。受入では、上記のシンピオシス国際大学 10 名、レスター大学 5 名の計 15 名を受け入れ、所属等はデザイン専攻 3 名、商業学専攻 3 名、看護学専攻 4 名、助産学専攻 2 名、医学専攻 3 名であった。受入学生は両大学学生の混合チームとして、日本のホームレス支援、災害準備、ソーシャルキャピタル創出の 3 つの社会課題を主題として演習を行った。また、派遣・受入ともに現地渡航前後にオンラインでの共同学習を実施した。

2023 年度後期より GRIP 関連の 7 科目を全学共通科目として開講し、大学院副専攻の履修プログラムとして「大学院国際実践教育 GRIP」の提供を開始した。同 7 科目のうち 6 科目を学部先行履修科目とした。

2024 年度のオーストラリア・モナシュ大学との学生交換開始に向け、現地視察およびリモートによるミーティングを実施した。

(4) 資金

大学の世界展開力強化事業 2 千万円



4) 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

あらゆる分野でこれまでのしくみや制度を覆すような深淵かつ広域な変化に直面する中、教育においても、分野を問わず、教育の目標や方法を根本的に見直す動きが始まっています。看護をとりまくヘルスケア分野においても、次々にイノベーションが生まれ、医療・介護をとりまく環境は激変しています。

このような激変の時代の中、看護実践・教育・研究共創センターは、看護学分野唯一の文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点として、今年度4期目の認定を受けることができました。これは、これまで当センターを利用してくださった8,000名以上の全国の看護職者の皆様との協働なくしては成しえなかった成果であり、深く感謝申し上げます。

4期目の認定を機に、当センターでは、「次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点」事業に取り組んでいます。この事業は、環境変化に創造的に適応する看護職育成を実現する先進的・体系的FDプログラムの提供と大学間共同利用システム構築を通して、看護系大学の次世代育成力（①環境変化を分析する力、②環境変化に適応する力、③教育内容を変革する力、④主体的学びを促進する力、の4つの力が統合された力）を強化することを目的としています。

本事業は、看護系大学教員を目指す大学院生から管理的立場にある看護系大学教員まで、あらゆる立場にある看護系大学教員のFDニーズに応える5段階のレベル別体系的FD研修を提供し、我が国全体の看護系大学の次世代育成力を重層的に強化する、我が国初の先進的取組となります。新規の研修事業は、令和6年度より受講者の募集を開始する予定で、現在鋭意準備を進めています。

次世代育成力強化のための看護系大学FD推進拠点

看護系大学教員の次世代育成力を重層的に強化する先進的・体系的FDプログラム

医療・介護分野の急激なテクノロジーの進歩 → 多様な力をテクノロジーと結び付け個人・社会のwell-beingを実現する看護の新たな役割



千葉大学看護学研究院および附属看護実践・教育・研究共創センターの資源と実績

2020- 「"Society5.0看護"創出拠点」⇒看護職の新たな役割発揮の方向性をFD研修により全国の看護系大学と共有
2016- 「看護学教育の継続的質改善(CQI)モデルの開発と活用促進」⇒各看護系大学の教育質改善のFD 次世代育成力強化に向けた自大学内FD充実
2011- 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」⇒FDマザーマップの公表・利用FD デジタル教材・看護AI開発に必要な人的・物的環境
2010- 「教育-研究-実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」⇒医療現場との連携実績の向上
1982- センター設置全国向け研修開始
1975- 国立大学唯一の看護学部 3,600名の卒業生を輩出 多くが全国の大学教員 先進的教育・研究により我が国の看護学教育を先導、看護先進・体系的FDの実施

3. 研究科学位論文一覧

令和5年度千葉大学大学院看護学研究科学位論文一覧

〔博士論文（甲号）〕

研究題目（論文題目）	氏 名	指導教員
子宮頸部前がん病変と診断された女性の体験するスティグマへのコーピングに向けた看護支援モデルの開発	おおつか ともこ 大塚 知子	眞嶋教授
高齢者ケア施設のケア提供者に向けた「認知症高齢者のセルフケアを捉える」ための e-learning 教材の開発	ふかざわ ゆり 深澤 友里	正木教授
再発・転移がん治療で手術を受ける患者に対する初発がん罹患・治療の体験を活用した看護支援プログラムの開発	こにし み 小西美ゆき	眞嶋教授
高齢者におけるせん妄発症予測モデルの構築 －生体情報と環境情報に着目して－	さわだ さちほ 澤田 幸穂	諏訪教授
看護師の水分摂取行動の変容に向けた介入の効果検証	かせ りゅうたろう 加瀬 竜太郎	小宮山教授
第1子出産に向けたオンライン産前教育プログラムの開発 －COVID-19 流行下の家族レジリエンスに着目して－	こさか まい 小坂 麻衣	森教授
医療的ケアが必要な幼児の保育の場における育ちを支援する保育士と看護師の協働指針の開発	こしば りえ 小柴 梨恵	佐藤准教授
ポジティブな出産体験につながるバースプラン作成への看護実践モデルの開発	しまざき あさな 島崎 あさな	森教授
日本の病院における高齢者のエンドオブライフケア質評価票の開発	だん ぎょうなん 段 暁楠	正木教授
認知症高齢者の排泄における生活障害とケアの知識の構造化 －AI によるケア提供者支援に向けて－	いししか はるな 石坂 晴奈	諏訪教授
急性期病院における認知症高齢者の Shared Decision-Making 看護実践モデルの開発	さいとう たねこ 齋藤 多恵子	正木教授
意思の疎通が困難な集中治療室患者のその人らしさを支え続けるケア指針の開発	よだ きとみ 依田 智未	増島教授
遺伝性早老症ウェルナー症候群における潰瘍予防ケア開発を見据えた足部評価	きたがわ ゆうか 北川 柚香	雨宮講師
生活復興拠点としての避難所運営モデルの検討 －避難所運営委員会に焦点を当てて－	せきぐち たかえ 関口 貴恵	宮崎教授

〔博士論文（乙号）〕

研究題目（論文題目）	氏 名	指導教員
再就職を目指す潜在看護師の経験 －再就職を実現した潜在看護師の経験と実現していない潜在看護師の経験のメタ統合－	うえだ まみこ 植田満美子	中山教授
出生後早期から修正月齢2か月における後期早産児とその母親の母子相互作用とその影響要因	きむら かよこ 木村佳代子	森教授

〔修士論文〕

看護学コース

修士論文題目	氏 名	指導教員
地域在住の認知症高齢者が退院後に自身の暮らしやすさを再獲得していく様 Aspect of older people with dementia living in the community re-build a sense of comfort in their own lives after being discharged from hospital	みほ けん 三保 健	石橋准教授
急性期病院における入院前面談を行う看護師の高齢緑内障患者への支援 Nursing support for old glaucoma patients through pre-admission interviews by nurses at an acute hospital	いしまる あきこ 石丸 晃子	石橋准教授
手術室看護師における地球環境問題に対する認識と実践の関連 Relationship between operating room nurses' awareness and their practices of environmental issues	かせ まさみ 加瀬真紗美	池崎教授
中国における第Ⅱ期心臓リハビリテーションを受ける冠動脈疾患患者に対する看護支援 Nursing Practice for Patients with Coronary Heart Disease Undergoing Phase II Cardiac Rehabilitation in China : A Qualitative Research	きゅう かくなん 宮 赫男	眞嶋教授
前回帝王切開術で出産した経産妊婦の出産に対する態度 Maternal Attitudes Towards Childbirth Among Multiparous Pregnant Women with Caesarean Section in Preceding Childbirth	くろかわ ゆうき 黒川 有来	森教授
急性期病院における院内デイケアの認知症高齢者と看護師への影響 ー病棟看護師の視点からー Investigating the impact of in-hospital day care on the work of ward nurses and the care for elderly patients with dementia in acute care settings	しゅう しけん 周 子妍	正木教授
脳卒中発症後回復期にある高齢者が体験する自我発達の様相 Aspects of Ego Development Experienced by Older People in Post-stroke Recovery Period.	すがわら ななみ 菅原 七海	石橋准教授
初回訪問における訪問看護熟練者の視覚情報の収集と思考のプロセス How Expert Home-Visiting Nurses Collect Visual Information and Think during the Initial Visit	すぎむら みひろ 杉村 美広	諏訪教授
双極性障害患者の男性配偶者が抱える日常生活上の困難とその対処 Burden and coping strategies of male spouse caregivers for women with bipolar disorder	たかの しおり 高野 葉里	田上教授

修士論文題目	氏 名	指導教員
慢性疾患をもつ中長期在日中国人高齢患者の外来受診体験 Outpatient experience with chronic diseases among older Chinese living in Japan in the medium and long term	ちょう 張 せい 穎	正木教授
骨転移に対する緩和的放射線療法を受ける進行がん患者の認識と対処 Cognition and Coping Strategies of Advanced Cancer Patients Undertaking Palliative Radiotherapy for Bone Metastases	つじもと 辻本あかね	増島教授
在宅認知症者と家族が認識している薬物療法に関する困難と取り組み Difficulties and Endeavors Related to Pharmacotherapy of People with Dementia and Their Families at Home	はらだ ちきと 原田 千聡	諏訪教授
第1子誕生後に育児休業を取得した男性の父親役割適応過程の体験 Experiences of Paternal Adaptation Process in Men Taking Childcare Leave Post-Birth of Their First Child	やました みお 山下 美緒	森教授
地域包括支援センター保健師が在宅認知症高齢者の個人の文化的側面を捉えて援助する様相 Integration of Personal-Cultural Practices into the Nursing Care of Older Patients with Dementia at Home by Public Health Nurses Working in Community Support Centers.	よしだ かよ 吉田 佳世	石橋准教授

看護実践学コース高度実践看護学プログラム

修士論文題目	氏 名	指導教員
リンパ浮腫モニタリングのための Tape measure による四肢周径測定方法の検討 Limb Circumference Measurement Using a Measuring Tape for Lymphedema Monitoring	うめだ 梅田ゆめな	増島教授
造血幹細胞移植をうける子どもの血縁ドナーとなった親の体験 ー血縁ドナーに決まってから造血幹細胞採取までを焦点にあててー The Experience of Parents as Consanguineous Donors of Children Undergoing Hematopoietic Stem Cell Transplantation: Focusing on the Period from the Decision to Become a Consanguineous Donor until the Hematopoietic Stem Cell Transplantation Procedure	こばやし ひろみ 小林 弘美	富岡教授
NICU に入院経験があり医療的ケアを必要とする子どもの家族が在宅移行期に活用したインフォーマルサポート Informal Support Utilized by Families of Children with Medical Care Needs During the Transition from NICU to Home: A Qualitative Study	まえだ か 前田はる香	佐藤准教授

〔修士研究報告書〕

看護実践学コース看護管理学プログラム

修士研究題目	氏 名	主査
ケアミックス病院における整形外科患者転棟の仕組み作り	たぐち かずみ 田口 和美	杉田准教授
看護人材の確保と働き続けられる職場づくり ー地域密着型ケアミックス病院におけるシニア世代の働く環境改善ー	こやなぎ たかこ 小柳 貴子	手島教授
専門実践モデルの評価と活用 ー卓越した看護を持続的に提供するための価値観共有のしくみづくりー	いがらし よしえ 五十嵐由衣	手島教授
地域に根差した緩和ケアの充実-がん終末期患者のその人らしさを大切にしたい意思決定支援	なるせ みわ 成瀬 美和	手島教授
慢性期から終末期にある認知症高齢者とその家族のコンフォートを目指す多職種によるケア提供体制の構築 ー患者を地域に受け渡す機能と終末期医療の機能を持つ有床診療所における退院支援ー	たや みえ 田谷 美枝	石橋准教授
先駆的高度医療を提供する ICU におけるリソースナースの活用と評価	ときひろ あきこ 時廣 亜希子	手島教授
大規模化した訪問看護ステーションにおけるケアの質保証に向けた学び合う組織づくり	おかだ ともえ 岡田 智恵	杉田准教授
部署の安全文化を共創する取り組み ー看護師間のコミュニケーションの向上に焦点をあててー	おざわ ともこ 小澤 朝子	黒田准教授
患者の力を前提とした看護の自律的判断に基づき医療安全策を考えられるスタッフの育成	なかやま あきこ 中山 章子	和住教授
急性期地域中核病院における退院支援の質向上プロジェクト ー病棟日勤リーダー看護師への個別学習支援ー	よしだ ひとみ 吉田 仁美	黒田准教授

看護実践学コース特定看護学プログラム

修士研究題目	氏 名	主査
難治性足病変と共に生きる患者のウェルビーイングの向上を目指した特定行為を組み入れた看護実践	すずき ゆか 鈴木 由加	正木教授
脳卒中急性期患者に対する特定行為を組み込んだ人工呼吸器離脱プロトコルを使用した看護支援の効果	ねもと かおり 根本 かおり	眞嶋教授
救急支援病棟に緊急入院する認知機能低下が疑われる高齢患者の苦痛を最小限にするための特定行為を含む看護実践の効果	ひろつ ちえこ 廣津 智英子	酒井教授
救急外来で脳卒中を疑う患者に対し脳の損傷を最小限にすることを旨とする特定行為を組み込んだ看護の効果	ふじひら あやか 藤平 彩加	酒井教授
ポストアキュート機能を有する高齢者施設における特定行為を組み込んだ看護実践による身体拘束縮小に向けた取り組み	ほそかわ のぶやす 細川 信康	酒井教授
在宅療養中の心不全患者への特定行為を組み込んだ緩和ケアの効果	よしの くみこ 吉野 久美子	酒井教授

Ⅲ. 研究

1. 教員の研究業績（講座別）

※本研究院に所属している研究者の業績については下線を引いてあります。

（教員：実線、大学院生：点線、学部生：波線）

高度実践看護学

〔原著〕

1. 橋爪由樹, 小西美ゆき, 増島麻里子 (2023). がん診断前から再発・転移前におけるエンドオブライフに向けた患者と家族の対話のあり様ー遺族を対象とした振り返りー, 千葉看護学会誌, 29(1), 1-9.
2. 水流添秀行, 小野智子, 増島麻里子 (2023). 永久的消化管ストーマを造設したがん患者の就労に関わる体験ーストーマ造設前から就労再開前後における時期別の体験ー, 日本がん看護学会誌, 37, 166-176, 2023. https://doi.org/10.18906/jjscn.37_166_tsuruzoe
3. Sano, M., Okada, S., Majima, T., Kobayashi, Y. (2023). Health-related quality of life of patients with heart failure using noninvasive telemonitoring systems with and without visiting nursing support: A longitudinal observational study. *Journal of International Nursing Research*, 1-7. <https://doi.org/10.53044/jinr.2023-0007>
4. 藤田冬子, 村松真澄, 辻村真由子, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子 (2023). 特別養護老人ホーム入居者のエンドオブライフにおけるケアニーズの構造化. 老年看護学, 28(1), 62-71. 2023. 7 月.
5. Kusunoki, J., Ikezaki, S., & Majima, T. (2023) Factors associated with nursing practice for cancer patients using complementary and alternative medicine. *Collegian*, 30(5), 668-675. <https://doi.org/10.1016/j.colegn.2023.08.001>
6. Tsuchiya, M., Tazaki, M., Fujita, R. et al (2023). A mixed-method systematic review of unmet care and support needs among Japanese cancer survivors. *Journal of Cancer Survivorship*. <https://doi.org/10.1007/s11764-023-01439-5>
7. 山本武志, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 山本則子, 酒井郁子 (2023). 特定行為研修を修了した看護師の導入・配置に関わる要因 全国 300 床以上の病院の看護管理者を対象とした横断的研究. 日本看護管理学会誌 (Web), 27(1), 61-70. 9 月.
8. Saiki, M., Tomotaki, A., Fukahori, H., Yamamoto, T., Nishigaki, M., Yasuda, E., Matsuoka, C., & Sakai, I. (2023). Reliability and Validity of the Japanese version of the Implementation Leadership Scale for Nurse Managers and Staff Nurses. *Journal of Nursing Management*, DOI 10.1155/2023/4080434 (査読有・国際誌, 2023. 10 月)
9. 酒井佳織, 佐藤奈保, 中村伸枝 (2023). 幼児期にある早産児を持つ親の子どもの生活や発達上の気がかりと対処. 千葉看護学会誌, 45-55.
10. 寺田智美, 佐藤奈保, 宮崎美砂子 (2023). 被災した認知症高齢者の家族の発災から災害中長期における生活上の困難. 日本看護科学会誌, 43, 429-438. <https://doi.org/10.5630/jans.43.429>
11. 土屋沙織, 高橋衣 (2023). 在宅で医療的ケアを受ける重症心身障害児(者)の青年期きょうだいのライフイベントに伴う体験ー幼少期から家族に対して頂いていた思いに焦点を当てて. 日本小児看護学会誌, 32, 335-43, 2023.
12. 高橋沙織, 富岡晶子 (2024). 骨形成不全症をもつ思春期患者の身体活動における体験. 日本小児看護学会誌, 33, 54-61. https://doi.org/10.20625/jschn.33_54

〔論文等(査読あり)〕

13. 中村伸枝, 水野芳子, 奥朋子, 川西智美, 眞嶋朋子, 仲井あや (2023). 10 年以上の活動経験をもつ専門看護師の認定後 5 年目以降の活動の変化と認識する専門看護師の役割. 日本 CNS 看護学会誌, 10, 1-8. https://doi.org/10.32164/jpncns.10.0_1
14. 小柴梨恵, 佐藤奈保, 中水流彩 (2023). 日本国内の保育所/幼稚園における医療的ケアを要する幼児に対する保育・看護: スコーピングレビュー. 日本小児看護学会誌, 32, 203-212. https://doi.org/10.20625/jschn.32_203
15. 内山優花, 松下あかね, 平田結真, 内海加奈子, 小暮貴代, 佐藤奈保 (2023). 在宅腹膜透析管理の子どもを持つ養育者の在宅移行後のライフイベントによる思いやストレスの変化. 日本小児腎不全学会雑誌, 3, 167-172.
16. 佐野元洋, 東辻朝彦*, 金城芽里, 依田智未, 臼井智子, 藤澤沙耶香, 眞嶋朋子 (2023). 成人看護学実習における学生によるハイブリッド実習の評価. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌, 11, 71-76, 2023.
*博士後期課程修了
17. 永田絵里香, 佐野元洋, 眞嶋朋子 (2023). 慢性心不全患者に対する慢性心不全看護認定看護師による意思決定支援. 日本看護研究学会雑誌, 46(4), 647-655, 2023.
18. 高取充祥, 眞嶋朋子, 山内英樹 (2023). 救急医療施設に搬送された患者の蘇生処置に立ち会うことを選択した家族の体験, クリティカルケア. 19. https://doi.org/10.11153/jaccn.19.0_234
19. 増島麻里子, 田崎牧子, 依田智未, 佐藤睦, 橋爪由樹, 秋田新介, 武居昌宏. エンドオブライフ期にある患者の浮腫/リンパ浮腫治療とケア: マッピングレビュー, 日本リンパ浮腫治療学会雑誌, 6(1), 18-23, 2023.
20. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., Okumura-Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence-Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing open*, 10(6), 3719-3727. 2023 年 6 月.
21. 松本暢平, 小野寺みさき, 朝比奈真由美, 酒井郁子, 伊藤彰一 (2023). 医学生 of 在学中のとりくみと知識・スキルの習得感・習得度との因果に関する構造方程式モデリングによる検討. 医学教育, 54 (Suppl.), 279. 2023. 7 月.
22. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素 管理者へのインタビューによる質的研究. 日本看護管理学会誌, 27(1), 1-9. 9 月
23. Saiki, M., Takemura, Y., & Kunie, K. (2024). An Intervention to Enhance Recognition of Nursing Assistant Roles and Enhance Information-Sharing. *JONA: The Journal of Nursing Administration*, 54(2), E8-E12.
24. Saiki, M., Nishimiya, G. Gotoh, T., Hirota, K., Sakai, I. (2023). Experiences and attitude of task shifting and task sharing of physicians, nurses, and nursing assistants in hospitals: a qualitative systematic review protocol. *JBI Evidence Synthesis*, Ovid Technologies (Wolters Kluwer Health). DOI10.11124/jbies-23-00140.2023.11.27
25. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura-Hiroshige, A. 2023 年度看護学研究賞 論文要旨: Factors Affecting the Critical Appraisal of Research Articles in Evidence-Based Practices by Advanced Practice Nurses. *A Descriptive Qualitative Study*. 日本私立看護系大学協会会報, 50, 14-15. 一般社団法人 日本私立看護系大学協会. (2023 年 11 月)

〔論文等(査読なし)〕

26. 酒井郁子 (2024). 特集 1 日本老年看護学会第 28 回学術集会: 会長講演 老年看護の Journey, 老年看護学 28(2), 5-8.
27. 酒井郁子 (2024). 12 プライマリ・ケアの理論と実践 第 191 回 2024 年に期待するプライマリ・ケア 【3】. 日本医事新報, No.5211, 3(2).

〔報告書〕

28. 中村伸枝: 地域包括ケア時代に専門看護師に求められる役割と評価指標. 2019～2022年度科学研究費補助金 基盤研究(C)報告書, 2023.
29. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 天井響子, 下井俊典, 孫佳茹, 富永嘉子, 高野佳奈, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 5 年度事業報告書, 2023.
30. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 高野佳奈: グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 Global & Regional Interprofessional Education Plus (GRIP) 年次報告書 2022 令和 5 (2023)年 7 月.

〔単行書〕

31. 富岡晶子: AYA 世代のがん患者へのケア. 日本小児がん看護学会小児がん看護テキスト作成ワーキンググループ(編), 小児がん看護テキストブック, 杏林書院, 37-44, 2023.
32. 丸光恵, 櫻井育穂, 富岡晶子: 小児期発症慢性疾患患者の発達課題. 日本プライマリ・ケア連合学会, 日本家族看護学会, 思春期看護研究会(編), 小児期から成人期への移行支援: 家族をユニットとした看護, 南山堂, 36-41, 2023.
33. 岡田忍: 3. 病態症候論 3-8. 倦怠感, 3-15. 浮腫. 山内豊明(編). 疾病の成り立ちと回復の促進①病態生理学, 第 7 版, メディカ出版, 303-304, 322-324, 2023.
34. 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美: これからの IPE(専門職連携教育)ガイドブック, 南江堂, 2023 年 6 月.
35. 岡田忍: 第 X 章 3. 感染対策. 石垣和, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編). 看護学テキスト NiCE 地域・在宅看護論 I 総論 改訂第 3 版, 南江堂, 296-301, 2023.
36. Suwa, S., Majima, T.: The Impact of Culture and Faith in Dementia Care-Psycho-Social-Spiritual Healing, Dementia Care and Religion, Spirituality, Culture-Based Nursing in Japan. Michael Silberman and Ann Berger (Ed). Cambridge Scholars Publishing, 462-475, 2023.

〔学会発表抄録〕

37. 松澤明美, 吉澤剛, 鳥本靖子, 眞崎由香, 佐藤奈保 (2023, 6. 16-18). 障がいのある子どもの父親の子育て観 混合研究法を用いた予備的研究. 第 70 回日本小児保健協会学術集会, 川崎. (査読あり・国内学会)
38. 小川俊子, 伊藤眞知子 (2023, 6. 16-18). COVID-19 流行下における医科・歯科診療所の感染対策に関する困難感と, 対応方法を探る質問紙調査. 第 34 回日本老年歯科医学会総会・学術大会 Page [P69] (2023. 06). (査読あり・国内学会)
39. 相川理沙*, 西宮岳, 佐伯昌俊, 酒井郁子 (2023, 6. 16-18). 医療療養病棟において中心静脈栄養中の高齢者のコンフォートを促進する看護援助の効果ー特定行為を組み込んだ看護援助の患者にとっての意味を考えるー. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 218. (査読あり・国内学会) (6/16-8/31)
*修士課程修了
40. 出穂麻智子*, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 (2023, 6. 16-18). 肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期看護の効果. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 219. (査読あり・国内学会)
*修士課程修了
41. Tomioka, A., Maru, M., Iijima, K. (2023, June 20-23). *Perceptions of communication on sexual and reproductive issues between health care professionals and AYA cancer patients in Japan.* 5th Global Adolescent and Young Adult Cancer Congress 2023, Long Beach, USA. (査読あり・国際学会(海外))
42. Nyamadzawo, AT, Okada, S., Nishio, J., Inuyama, A., Iida, K., Yumoto, A., Yu, W., Suwa, S. (2023, July 1-5). *Considering Requirements for Implementing Autonomous Robots in Nursing Homes.* International Council of Nurses 2023 Montréal, Montréal, Canada. (査読あり・国際学会(海外))
43. Nyamadzawo, AT., Nishio, J., Ogawa, T., Okada, S. (2023, July 1-5). *Oxidative Stress as a*

Marker of Diabetic Foot Ulcer Severity; a Case-Series Study. International Council of Nurses 2023 Montréal, Montréal, Canada. (査読あり・国際学会(海外))

44. 中水流彩 (2023, 7. 6-8). 先天性心疾患手術を受ける幼児のレディネス発達を促進する学習材の有効性の評価. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 会長要望ワークショップ, 横浜. (査読あり・国内学会)
45. 遠藤健司*, 中村伸枝, 佐藤奈保, 仲井あや (2023, 7. 15-16). 発達に特別な支援が必要なアトピー性皮膚炎の幼児・学童前期の子どもの養育者の困難と工夫. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
46. 下山京子, 土屋沙織, 三浦尚平 (2023, 7. 15-16). 看護学生 2 年生を対象とした小児看護学でのシミュレーション教育(報告 1) 演習前の事例説明とシムジュニア使用の効果. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜. (査読あり・国内学会)
47. 下山京子, 三浦尚平, 土屋沙織 (2023, 7. 15-16). 看護学生 2 年生を対象とした小児看護学でのシミュレーション教育(報告 2) デブリーフィングとデスカッションの効果. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜. (査読あり・国内学会)
48. 中村伸枝, 薬師神裕子, 野本美佳, 金丸友 (2023, 7. 17). 小児糖尿病キャンプスタッフが認識するオンラインキャンプの効果とキャンプ継続に向けた感染症対策, 第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 59, 大阪市. (査読あり・国内学会)
49. 薬師神裕子, 中村伸枝, 野本美佳, 金丸友 (2023, 7. 17). コロナ禍における 1 型糖尿病患者のセルフケアと抑うつとの関連, 第28回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会プログラム・抄録集, 57, 大阪市. (査読あり・国内学会)
50. 中村伸枝, 薬師神裕子, 野本美佳, 金丸友 (2023, 7. 22-23). キャンプスタッフがとらえた糖尿病キャンプの中止による子どもの糖尿病自己管理と糖尿病療養指導への影響, 第10回日本糖尿病協会年次学術集会抄録集, 116, 京都市. (査読あり・国内学会)
51. 薬師神裕子, 中村伸枝, 野本美佳, 金丸友 (2023, 7. 22-23). コロナ禍における小児 1 型糖尿病患者のセルフケアの変化と小児糖尿病キャンプの意義, 第10回日本糖尿病協会年次学術集会抄録集, 117, 京都市. (査読あり・国内学会)
52. 岡田忍, 西尾淳子, ニヤマザオ・アモス, 犬山彩乃, 飯田貴映子, 湯本晶代, 諏訪さゆり (2023, 7. 20-22). 高齢者施設における自走式消毒ロボット導入の検討. 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会抄録集, 86, 横浜市. (査読あり・国内学会)
53. Nakazuru, A., Nakamura, N., & Sato, N. (2023, August 27-September 1). *Changes in preschool children and parents who used learning material for congenital heart disease: A Single group pre-post test.* The 8th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, Washington D.C., U.S. (査読あり・国際学会(海外))
54. Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., Asahina, M., Nakaguchi, T., Sekine, Y., Ishibashi, M., Iida, K., Casenove, D., Nakai, A., Ishikawa, M., Ito, S., Kasai, H., Yamauchi, K., Shikino, K., Iwasaki, Y., Nakamura, E., Usui, I., Sakai, I. (2023, November 6-9). *GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program.* All Together Better Health Conference 2023, Doha, Qatar. (査読あり・国際学会(海外))
55. 花山遥香*, 小川俊子, 岡田忍 (2023, 8. 26-27). 特別養護老人ホームにおける足白癬および爪白癬の罹患状況とケアについての実態調査. 第 23 回日本感染看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
56. 黄瀬有香, 宮崎美砂子, 佐藤奈保 (2023, 9. 2-3). 高齢者介護施設における新型コロナウイルス感染症クラスター発生の実態と課題. 日本災害看護学会第 25 回年次大会, 姫路. (査読あり・国内学会)
57. 佐野元洋, 佐伯昌俊, 犬山彩乃, 前原邦江, 飯田貴映子, 仲井あや, 齊藤可紗, 齊藤しのぶ (2023, 9. 9). 周術期実習における高機能シミュレーターを使用した演習の効果と課題. 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 27. (査読あり・国内学会)

58. 柴田三衣奈*, 佐野元洋, 楠潤子, 増島麻里子, 眞嶋朋子 (2023, 9. 9). ストーマ造設術を受けた認知機能の低下がある患者・家族に対する看護の実際と看護師の抱える困難感. 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 28. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
59. 高橋幸子*, 臼井智子, 佐野元洋, 眞嶋朋子 (2023, 9. 9). 慢性心不全患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの意思表示支援における患者の語りの記録と共有. 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 31. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
60. 柳下晴香*, 楠潤子, 佐野元洋, 眞嶋朋子, 増島麻里子 (2023, 9. 9). 看護系大学生におけるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する思いと実践. 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 32. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
61. 松澤明美, 吉澤剛, 鳥本靖子, 眞崎由香, 佐藤奈保 (2023, 9. 9-10). 病気・障がいのある子どもの父親の子育て観の探索 Q 方法論によるアプローチ. 日本家族看護学会学術集会第 30 回学術集会, 大阪. (査読あり・国内学会)
62. 曾エイ, 佐野元洋, 眞嶋朋子 (2023, 9. 16). 後期回復期心臓リハビリテーションに参加している心不全患者の身体活動の調整. 第 20 回日本循環器看護学会学術集会プログラム集, 31. (査読あり・国内学会)
63. 佐野元洋, 東辻朝彦*, 金城芽里, 池田結, 臼井智子, 曾エイ (2023, 10. 6-8). 心不全患者の移行期支援において必要とする情報の職種間差異. 第 27 回日本心不全学会学術集会抄録集, 343. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
64. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ, 飯野理恵, 平田慎之介, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step1 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 37. (査読あり・国内学会)
65. 下井俊典, 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). 低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価の変化—千葉大学亥鼻 IPE-Step1-2 の開講形式のパターン別分析. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 38. (査読あり・国内学会)
66. 孫佳茹, 下井俊典, 井出成美, 臼井いづみ, 関根祐子, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step2 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 39. (査読あり・国内学会)
67. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 下井俊典, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). 看護学部のカリキュラム改変が IPE 受講学生に与えた効果～学生の記述の分析から. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 40. (査読あり・国内学会)
68. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき, 朝比奈真由美, 山内かつ代, 関根祐子 (2023, 11. 26). グローバル IPE “グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成” GRIP プログラム 2022 年度実践報告. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 70. (査読あり・国内学会)
69. 齊藤可紗, 犬山彩乃, 佐伯昌俊, 飯田貴映子, 佐野元洋, 仲井あや, 前原邦江, 斉藤しのぶ (2023, 12. 9-10). DX 技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
70. 山崎啓子, 水野芳子, 仁尾かおり, 黒田光恵, 森貞敦子, 栗田直央子, 川上直子, 中村伸枝 (2023, 12. 9-10). 小児科外来における小児期発症慢性疾患患者への成人移行期支援体制の現状—第 2 報—, 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関市. (査読あり・国内学会)
71. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023, 12. 9-10). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果

～看護系大学教員としての能力の変化より～. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)

72. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023, 12. 9-10). 看護管理者および中堅看護者を対象としたオンラインによる課題解決型研修の評価～研修前後の自己評価より～. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
73. 齊藤可紗, 犬山彩乃, 佐伯昌俊, 飯田貴映子, 佐野元洋, 仲井あや, 前原邦江, 斉藤しのぶ (2023, 12. 9-10). DX 技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
74. 松澤明美, 吉澤剛, 鳥本靖子, 眞崎由香, 佐藤奈保 (2023, 12. 9-10). 障がいのある子どもの父親の子育て観 Q 方法論による予備的研究. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
75. 吉見萌々, 宮崎美砂子, 佐藤奈保. (2024, 2. 22-24). 東日本大震災により被災した母親が新生児と共に産後 1 カ月まで被災地で過ごした体験. 第 29 回日本災害医学会総会学術集会, 京都. (査読あり・国内学会)
76. 坂井直子, 藤澤陽子, 塚原宣子, 岡本百合子, 佐伯昌俊, 佐野元洋, 楠潤子, 増島麻里子, 酒井郁子, 眞嶋朋子 (2024, 2. 25). がん薬物療法を受ける患者への看護師による支援の実際, 日本がん看護学会第 38 回学術集会, 神戸, 2024. (査読あり・国内学会)
77. Hashimoto, M. *, Nakamura, N., Sato, N. (2024, 3. 1). *Examining the usefulness of a program to promote health literacy in social eating situations for adolescents with food allergies*. 第 5 回国際ケアリング学会. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
78. Ichihara, M., Araki, A., Kumagai, T., Kawakami, C., Sato, N. and Nishida, M. (2024, March. 5-7). *Needs and outcomes of advanced practice nurse interventions/program development I pediatric nursing: A literature review*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars. Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))
79. Maru, M., Tomioka, A., Iijima, K. (2024, March 5-7). *An Analysis of Relationship Scales for Sexual Health in Adolescent and Young Adult Cancer Survivors*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference, Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
80. Tsujimoto, A., Kusunoki, J., Masujima, M. (2024, March. 5-7). *How Patients with Advanced Cancer Perceive Palliative Radiotherapy for Bone Metastases*. Abstract No.909, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))
81. Yoda, S., Masujima, M. (2024, March. 5-7). *Current Status and Future Prospects of the Use of Electrodermal Activity in Nursing Research: A Mapping Review*. Abstract No.1397, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))
82. Saiki, M., Fujisawa, Y., Sakai, N., Tsukahara, N., Okamoto, Y., Sano, M., Kusunoki, J., Masujima, M., Sakai, I., Majima, T. (2024, March. 5-7). *Supports for Cancer Patients and Interprofessional Collaboration between Nurses, Physicians, and Pharmacists in Japan: A Descriptive Cross-Sectional Study*. The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference. Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
83. Zeng, R., & Majima, T. (2024, March 5-7) *A Literature Review on Psychosocial Interventions in Nurse-Coordinated Outpatient Cardiac Rehabilitation for Heart Failure Patients*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference, Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
84. 佐野元洋, 東辻朝彦*, 金城芽里, 池田結, 臼井智子, 曾エイ (2024, 3. 8-10). 心不全患者の移行期支援において必要とする情報の施設間差異. 第 88 回日本循環器学会学術集会抄録集, 210. (査読あり・国内学会)

*博士後期課程修了

〔シンポジウム・招聘講演〕

85. 中村伸枝 (2023). 第 31 回日本医学会総会シンポジウム 柱 3 人生 100 年時代に向けた医学と医療「少子化と子どもの健康－社会医学・看護系の視点から」, 子どもの成長発達を支援する看護, 東京.
86. 酒井郁子 (2023). 第 31 回日本医学会総会 柱 4-4 「医療人の教育の現状と今後の在り方」特定行為研修は医療者教育の在り方にどのような影響を与えるのか 2023 東京学術プログラム集, 82. 東京.
87. 酒井郁子 (2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会 会長講演「老年看護の Journey」オンデマンド配信, 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 45-46, 老年看護学 28(2), 5 横浜.
88. 佐伯昌俊 (2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会交流集会 15 特定行為研修修了看護師による老年看護の実際と課題. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 165. 横浜.
89. 佐伯昌俊 (2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会教育セミナー3 高齢者ケアの質の向上を目指した特定研修修了者の配置と活用 特定行為研修修了看護師の活動の基盤づくりと高齢者看護の質向上. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 113. 横浜.
90. 西宮岳 (2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会教育セミナー3 高齢者ケアの質の向上を目指した特定研修修了者の配置と活用, 特定行為研修修了者の活動ビジョンと組織的配置・活用の発展過程. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 114-115. 横浜.
91. 藤沼康樹, 酒井郁子 (2023, 6. 16-18). 日本老年看護学会第 28 回学術集会 教育セミナー4 (対談) 医療者が患者とともに老いるということ. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 119. 横浜.
92. 酒井郁子, 森みさ子, 齋藤大輔, 山内典子 (2023). 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 パネルディスカッション 5 今求められる多職種連携. 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会.
93. 中水流彩 (2023). 多領域パネルディスカッション 先天性心疾患をもち治療を受ける子どもの家族看護. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会電子抄録集, 横浜.
94. 酒井郁子 (2023). 第 35 回日本看護学校協議会学会 特別講演② これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について. 第 35 回日本看護学校協議会学会.
95. 富岡晶子 (2023). 第 42 回日本思春期学会学術集会シンポジウム 2: 特別な健康ニーズをもつ若者の性の健康をめぐる現状と課題 AYA 世代がん経験者とのセクシュアリティに関するコミュニケーション. 第 42 回日本思春期学会学術集会抄録集, 東京.
96. 岡田忍 (2023). 第 23 回日本感染看護学会会長講演: 特定行為と感染看護実践. 第 23 回日本感染看護学会学術集会講演集, 7, オンライン.
97. 佐伯昌俊 (2023). 第 23 回日本感染看護学会学術集会特別講演: 特定行為も実施しながら地域で暮らす人々の生活を支援する高度実践者の育成. 第 23 回日本感染看護学会学術集会講演集, 8, オンライン.
98. 秋田新介, 三川信之, 増島麻里子 (2023). 症例登録による LVA の臨床的有効性の証明の可能性, 第 7 回日本リンパ浮腫治療学会学術総会プログラム・抄録集, 61, 2023. (査読あり・国内学会)
99. 酒井郁子 (2023). 第 45 回日本手術医学会総会 特別講演 3 これからの看護職の価値と働き方. 第 45 回日本手術医学会総会. 日本手術医学会誌, 44(Suppl), 53. (査読あり・国内学会) (11/24)
100. 酒井郁子 (2023). 東総地区不眠症診療 WEB セミナー. 旭中央病院 しおさいホール.
101. 酒井郁子 (2024). 日本プライマリ・ケア連合学会研修会 薬剤師と看護師の協働の推進. (オンライン)
102. 酒井郁子 (2024). 内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・看護系学会等社会保険連合 2) 看保連における 2024 年度(令和 6 年度) 診療報酬・介護報酬の評価. (オンライン)
103. 酒井郁子 (2024). 回復期リハビリテーション病棟協会第 43 回研究大会 教育講演 6 回復期リハ病棟におけるこれからの生活の再構築と自立支援(対面)

〔受賞(国内・国外)〕

104. 2023 年度千葉看護学会表彰論文
小熊亜希子, 岡田忍, 飯野理恵 (2023). 介護老人保健施設入所者の誤嚥性肺炎の包括的ケアを促す看護モデルの開発. 千葉看護学会会誌, 28(2), 71-80. (国内・学会)
105. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞
看護学研究院附属専門職連携教育研究センター. (国内)
106. 千葉大学医学部附属病院, 令和 5 度病院長表彰 金賞, 包括的せん妄ケアチーム(国内)

〔その他〕

107. 酒井郁子 (2023, 5. 22). 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 質管理Ⅰ.
108. 酒井郁子 (2023, 7. 11). 岩手県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 組織管理論Ⅱ 講師.
109. 酒井郁子 (2023, 7. 14). 千葉県看護協会 令和 5 年度生涯教育計画に基づく研修会 高齢者を支える看護と高齢者虐待予防研修. (オンライン)
110. 来生奈巳子, 岩崎美和, 佐藤奈保, 西田志穂, 山田咲樹子, 野村智実 (2023, 7. 15-16). [テーマセッション 10] 若手教員の語り場 第 2 弾～あなたは どうして？小児看護の教育・研究・キャリア形成～. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜.
111. 市原真穂, 荒木暁子, 及川郁子, 川上智香, 熊谷智子, 小林瑞穂, 佐藤奈保, 西田みゆき, 伊藤由香 (2023, 7. 15-16). [テーマセッション 13] 子どもとその家族のケアニーズとケアの場の拡がりに応じた高度実践看護のエビデンス蓄積に向けて. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜.
112. 仁尾かおり, 西田みゆき, 野間口千香穂, 及川郁子, 小柴梨恵, 安真理, 相原優花, 菅野芳美 (2023, 7. 15-16). [テーマセッション 18] 小児慢性疾患をもつ子どもたちの保育園・幼稚園への就園支援～「これならできる！」を目指して～. 日本小児看護学会第 33 回学術集会, 横浜.
113. 酒井郁子 (2023, 7. 31). 多職種連携教育(IPE)を理解する・始める. 順天堂大学医療看護学部 FD 講演会.
114. 酒井郁子 (2023, 8. 23). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. 専門職連携の基礎知識.
115. 酒井郁子 (2023, 8. 23). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. IPE カリキュラムマネジメント基礎編.
116. 酒井郁子 (2023, 8. 23). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. IPE と組織改革.
117. 酒井郁子 (2023, 9. 11). 千葉県看護協会 第 22 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル 統合演習Ⅱ.
118. 酒井郁子 (2023, 9. 23). 青森県看護協会令和 5 年度介護施設看護力推進事業 介護施設の為の看護力推進研修 高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント. (オンライン)
119. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023, 10. 10). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編① 職種間の理解. (オンライン)
120. 酒井郁子 (2023, 10. 16). 宮城県看護協会 高齢者ケア施設で働く看護管理者研修. (オンライン)
121. 酒井郁子 (2023, 10. 17). 青森県立八戸北高等学校 講師の専門分野に関する模擬講義.
122. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023, 10. 24). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編② チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン)
123. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). 令和 5 年度 新規採用者研修. (年度中途採用者向け)「専門職連携(IPW)」学内
124. 酒井郁子 (2023, 11. 1). 回復期リハビリテーション病棟協会 2023 年度回復期リハ看護師認定コース 第 16 期 講師「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」. (オンライン)
125. 酒井郁子 (2023, 11. 24). 千葉県看護協会 第 22 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル「ヘルスケアシステム論Ⅱ」.
126. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023, 11. 28). IPERC 主催 IPE ベーシック

研修実践編④ 多職種カンファレンス. (オンライン)

127. 酒井郁子 (2023). : 神奈川県看護協会 令和 5 (2023, 12. 6)年度介護保険施設等看護研修Ⅲにおける講師「介護保険施設での看護管理者としての役割と責務」.
128. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023, 12. 12). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン)
129. 酒井郁子 (2023, 12. 23). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.
130. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
131. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. チームについて.
132. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
133. 眞嶋朋子 (2023). 千葉県心不全ネットワーク, 地域連携について.
134. 増島麻里子 (2023). NPO 法人がん体験者コーディネーター養成講座, アドバンス・ケア・プランニング.
135. 増島麻里子 (2023). 一般財団法人ライフ・プランニング・センター 2023 年度リンパ浮腫研修, リンパ浮腫予防指導.
136. 増島麻里子 (2023). 第 10 回関東地区リンパ浮腫連携検討会, リンパ浮腫に対する日常生活指導の統一.
137. 酒井郁子 (2023, 11. 29). 東総地区不眠症診療 WEB セミナー. 旭中央病院 しおさいホール. (11/29)
138. 酒井郁子 (2024, 1. 29). 千葉県看護協会 看護師の特定行為研修制度と研修修了者の実践.
139. 酒井郁子 (2024). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
140. 酒井郁子 (2024, 2. 4). 日本プライマリ・ケア連合学会研修会 薬剤師と看護師の協働の推進. (オンライン)
141. 酒井郁子 (2024). 医療安全と不眠症診療セミナー 身体拘束縮小に向けた取り組みと不眠症診療の治療の向上. (オンライン)
142. 酒井郁子 (2024). 印旛地区医療安全セミナー 身体拘束縮小と不眠症治療薬の適正使用—当院での取り組みの実際と効果.(オンライン)
143. 酒井郁子 (2024). 不眠症診療 Web セミナー in 船橋 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果—不眠症治療薬の適正使用を含めて—. (対面)
144. Suzuki, Y., Hayashi, Y., Yamaguchi, M., Sato, N., Seki, T., Aizumi, I. and Nakaguchi, H. (2024, 2. 20). *Current status of family nursing for families of foreign residents with health problems living in Japan: A literature review*. Joint webinar of IFNA Australia New Zealand Chapter and JARFN.

高齢社会実践看護学講座

〔原著〕

1. 江藤祥恵, 河田萌生, 綿貫茂明, 坂井志麻, 石橋みゆき, 立原怜, 小長谷百絵, 菅原峰子, 金盛琢也, 亀井智子 (2023). 認知症及び認知機能低下を有する入院高齢者への多職種退院支援の有効性. 老年看護学, 27(3), 35-46.
2. 西村多寿子, 高橋宙矢, 福島宥平, 小松正, 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江 (2023). シャドーイング演習を含むオンライン学習によるリスニング不安の低減効果. *Journal of Medical English Education*, 22(1), 41-42.

3. 張平平, 黒田久美子, 正木治恵, 松元毅 (2023). 高齢者の慢性腰痛改善を目指した経穴刺激セルフケア方法の開発. 文化看護学会誌, 15(1), 1-10.
4. 近藤絵美*, 正木治恵 (2024). 一般病棟看護師に対する「豊かな存在としての高齢者のあり様」に着目したリフレクションシートの有用性の検討. 千葉看護学会誌, 29(2), 77-87.
*博士後期課程修了

〔論文等(査読あり)〕

5. [資料] 須釜淳子, 石橋みゆき, 大田えりか, 鎌倉やよい, 才藤栄一, 真田弘美, 中山健夫, 野村岳志, 山田雅子, 仲上豪二郎, 佐藤直子, 柴田斉子, 長谷剛志, 深田順子, 三鬼達人, 有田弥棋子, 浦井珠恵, 大川洋平, 北村言, 臺美佐子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 飛田伊都子, 野口博史, 松本勝, 三浦由佳, 向井加奈恵, 麦田裕子, 吉田美香子, 倉知雅子, 白坂誉子, 山根由起子 (2023). 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン. 日本看護科学学会会誌, Vol.42, 790-810.
6. Szczepura, A., Masaki, H., Wild, D., Nomura, T., Collinson, M., Kneafsey, R. (2023): Integrated Long-Term Care 'Neighbourhoods' to Support Older Populations: Evolving Strategies in Japan and England, *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 20(14): 6352. doi: 10.3390/ijerph20146352.
7. [研究報告] 正木治恵, 天野薫, 中島麻紀, 田村由美, 佐々木久美子, 外菌由紀, 石橋佳子 (2023): 新型コロナウイルス感染症拡大状況下で教育を受ける看護学生の声, 日本看護学教育学会, 33(2-1): 15-27, https://doi.org/10.51035/jane.33.2-1_15
8. 段曉楠, 河井伸子, 山崎由利亜, 小野年弘, 正木治恵 (2023). 高齢者ケアにおけるセンサーと IoT 機器の使用に関する文献検討ー日本語, 英語, 中国語のデータベースを用いてー. 日本看護科学会誌, 43, 28-37.
9. Yao, L., Masaki, H. (2024). Older Chinese people's experiences of relocation to long-term care facilities: A literature review of qualitative studies. *Journal of International Nursing Research*. (in press)

〔論文等(査読なし)〕

10. 小野年弘, 段曉楠, 正木治恵 (2023) 高齢者ケア施設への介護ロボットおよび AI 導入に関する倫理的・法的・社会的課題に関するー 考察 国内外のガイドラインの検討を通して. 老年看護学, 28(1), 36-40.
11. [寄稿] 正木治恵 (2024): 老年看護の本質を考えるー「老いを生きる」対象の理解と「豊かな生」の創出・支援, 看護教育のための情報サイト「NurSHARE」, 南江堂.
12. 石井彩 (2024). 外来だからできる! 高齢糖尿病患者のセルフケアのためのアセスメントと支援, 29(1), 55-62.
13. 原田和子, 桃坂真由美, 梶野美保, 高橋良恵, 橋本祐子, 佐藤果苗, 森小津恵, 正木治恵 (2023). 委員会報告 高齢糖尿病患者の課題の明確化と対策の提案ー超高齢社会に向けた基盤整備ー, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 27(2), 33-37.

〔単行書〕

14. 石橋みゆき(診療ガイドライン統括委員会委員). 日本看護科学学会監修 看護ケア開発・標準委員会編, 公益社団法人. 看護ケアのための便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン, 南江堂, 2023.

〔学会発表抄録〕

15. Yang, JW., Kuroda, K., Sasaki, C., Masaki, H. (2023, June 12-14). Role Performance and Associated Factors Among Gerontological Nurse Specialists in China. The 12th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2023 (IAGG-AOR 2023), Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))

16. Yao, L., Masaki, H. (2023, June 12-14) Verification of the feasibility of an education program on aging-related preparation through videoconferencing for older Chinese migrants in Japan. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
17. Haida, K.*, Masaki, H. (2023, June 12-14) The meaning of home among older people living with chronic illnesses receiving home care. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
*博士後期課程修了
18. Yang, H.*, Masaki, H., Sasaki, C. (2023, June 12-14) Applying information and communication technology and nursing care robots in Japanese elderly care from the perspectives of care providers. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023. Yokohama, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
*本研究院教員
19. 内海香子, 原田和子, 佐藤果苗, 橋本祐子, 梶野美保, 高橋良恵, 桃坂真由美, 黒田久美子, 中村美幸, 金本純子 (2023). 地域で生活するインスリン療法を行う糖尿病をもつ高齢者の問題と支援. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 154. (査読あり・国内学会)
20. 姚利, 正木治恵, 呉小玉 (2023, 6. 16-18). 在留中国人高齢者の老いへの準備教育プログラムの有用性の検討. 第 33 回日本老年学会総会, 横浜市. (査読あり・国内学会)
21. Ishibashi, M., Sasaki, C., Kogure, M., Kuzuta, K., Imai, S., Furukawa, S. (2023, July 1-5). Transitional Care Competencies Common to Nurses, Social Workers, and Physical Therapists: Discharge Planning for a Severe COVID-19 Patient. Council of International Neonatal Nurses Conference 2023, Montreal, Canada. (査読あり・国際学会(海外))
22. 佐々木ちひろ, 石井優香, 石橋みゆき (2023). 急性期病院のプライマリナースによる退院支援に内在する臨床知識 病棟看護師への半構造化インタビューを通して. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 236. (査読あり・国内学会)
23. 高木若菜*, 正木治恵, 石橋みゆき, 石井彩 (2023). 高齢糖尿病患者の低血糖の経験から肯定的側面を引き出すための看護師の関わり. 日本糖尿病教育・看護学会誌 27 巻特別号, 146. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
24. 黒田久美子, 清水安子, 内海香子 (2023). 年 1 回の特定健診時を活用した認知症検査の意義や実現可能性—担当看護師のインタビューより. 日本糖尿病教育・看護学会誌 27 巻特別号, 146. (査読あり・国内学会)
25. 秋川恵子*, 黒田久美子 (2023, 8. 26). 急性期ケアミックス型病院における認定看護師の役割—指導・相談能力向上に向けたアクションリサーチからの示唆—. 第 27 回日本看護管理学会学術集会, (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
26. 西村多寿子, 石橋みゆき, 池崎澄江, 中山登志子 (2023, 8. 26). 看護英語教育の新しい形—「やさしい日本語」+「英語 4 技能の向上」で外国人患者対応力を育む—. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市. 【日本看護学教育学会第 33 回学術集会優秀演題賞: 発展部門(口演)】 (査読あり・国内学会)
27. 内海恵美, 大塚知子, 大内美穂子, 坂本明子, 田口智恵美, 三枝香代子, 浅井美千代 (2023, 8. 26). コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市. (査読あり・国内学会)
28. 中山瑠理*, 黒田久美子 (2023). 妊娠前から産後 1 か月における関節リウマチ女性の困難とその対処に関する経験. 第 17 回日本慢性看護学会学術集会, 川崎市. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
29. 拝田一真*, 正木治恵 (2023). HOME の意味に着目する訪問看護実践の理論的枠組みの開発—慢性疾患と共に生きる独居高齢者に着目して—, 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 33. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了

30. 檀上知子*, 石橋みゆき, 正木治恵 (2023). サクセスフルエイジングを実現するために向老期にある日本人に求められる能力の概念分析, 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 36. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
31. 石丸晃子, 佐々木ちひろ, 石橋みゆき (2023). 緑内障患者の病いを通した体験に関する文献検討, 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 37. (査読あり・国内学会)
32. 菅原七海, 辻育恵, 石橋みゆき (2023). 老年期に脳卒中を発症した人の体験－国内外の文献検討から－, 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 38. (査読あり・国内学会)
33. 石井彩, 青木美智子 (2023). インスリン療法・血糖自己測定・持続皮下グルコース測定を導入した 80 代後半の高齢者への外来看護援助, 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 40. (査読あり・国内学会)
34. 雨宮有子, 齋藤多恵子, 熊谷忠和, 諏訪部高江, 石橋みゆき (2023, 9. 10). 認知機能低下・心不全増悪で救急再入院した高齢の母と同居する独身の息子からなる家族への Transitional Care における看護師とソーシャルワーカーに共通するコンピテンシー. 日本家族看護学会第 30 回学術集会, 大阪市. (査読あり・国内学会)
35. 伊藤隆子, 平野和恵, 林弥生, 木暮みどり, 古川誠一郎, 葛田衣重, 今井正太郎, 石橋みゆき (2023). 看護師・ソーシャルワーカー・理学療法士に共通する退院支援技術 閉塞性胆管炎を併発した肝臓患者が緩和ケアのため自宅退院に至った特定機能病院における事例検討. 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 208. (査読あり・国内学会)
36. 正木治恵, 姚利, 山崎由利亜, 楊恵晴* (2023, 12. 9-10). リアルタイム生活情報を収集する ICT 機器導入による高齢者ケア現場の変様. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 山口県下関市. (査読あり・国内学会)
*元研究院教員
37. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果～看護系大学教員としての能力の変化より～. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 山口県下関市. (査読あり・国内学会)
38. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023). 看護管理者および中堅看護師を対象としたオンラインによる課題解決型研修の評価～研修前後の自己評価より～. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. 山口県下関市. (査読あり・国内学会)
39. Chen, TT., Ono, T., Masaki, H. (2023, December), Difficulties Encountered by Novice Nurses in Providing Care for Older People with Dementia in Acute Care Settings. 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science. (査読あり・国内学会)
40. Ishibashi, M., Amamiya, Y., Ito, R., Saito, T., Kogure, M., Hayashi, Y., Sasaki, C., Kumagai, T., Kuzuta, K., Furukawa, S., Imai, S., Takeuchi, Y., Tanaka, Y., Suwabe, T., Hirano, K., (2024, March 6-7). *Transitional Care Competencies Common to Nurses, Social Workers, and Physical Therapists*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024), Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
41. Yang, JW., Kuroda, K., Sasaki, C., Masaki, H. (2024, March 6-7). Role of Gerontological Nurse Specialists in China: A Literature Review. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference, Hong Kong, China. (査読あり・国際学会 (海外))
42. Sugawara, N., Ishibashi, M.: Aspects of Ego Development Experienced by Older People in the Post-Stroke Recovery Period. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS 2024), Hong Kong, China. (査読あり・国際学会 (海外))
43. 吉田佳世, 石橋みゆき, 石井彩, 正木治恵 (2024). 地域包括支援センター保健師が在宅認知症高齢者の個人の文化的側面を捉えて援助する様相－1 保健師の援助の分析－. 文化看護学会第 16 回学術集会, 滋賀. (査読あり・国内学会)

44. Szczepura, A., Masaki, H., Wild, D., Nomura, T., Collinson, M., Kneafsey, R. (2023, 10. 30). Comparative Analysis of Integrated Long-Term Care Strategies in an Ageing Population: England and Japan. 3rd International Webinar on European Healthcare & Hospital Management. (査読あり・国際学会 (海外)) (オンライン)

〔シンポジウム・招聘講演〕

45. 石橋みゆき (2023, 6. 18). 合同シンポジウム 1 地域包括ケアにおける在宅看護の役割と展開 地域包括ケアにおける看護の役割と展開－急性期病院から住み慣れた暮らしの場への移行支援－. 第 33 回日本老年医学会総会, 横浜市.
46. 石橋みゆき (2023, 8. 19). シンポジウム モデル・コア・カリキュラム同時改訂と多職種連携教育への期待と課題 ④看護教育立場から. 第 8 回日本薬学教育学会大会. 熊本市.
47. [招聘講演] 正木治恵: 日本における高齢者向けのスマート用品, 第五回全国看護産業発展フォーラム, 中華看護協会主催, 2023, 9. 15, 成都 (中国).

〔受賞(国内・国外)〕

48. 姚利, 正木治恵, 吳小玉 (2023, 6. 16-18) 在留中国人高齢者の老いへの準備教育プログラムの有用性の検討. 第 33 回日本老年学会総会, 横浜市. 【第 33 回日本老年学会総会合同ポスター (老年看護学会部門)優秀演題賞】 (国内学会)
49. 西村多寿子, 石橋みゆき, 池崎澄江, 中山登志子 (2023, 8. 26). 看護英語教育の新しい形－「やさしい日本語」＋「英語 4 技能の向上」で外国人患者対応力を育む－. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市. 【日本看護学教育学会第 33 回学術集会優秀演題賞: 発展部門 (口演)】 (国内・学会)
50. 内海恵美, 大塚知子, 大内美穂子, 坂本明子, 田口智恵美, 三枝香代子, 浅井美千代 (2023, 8. 26). コロナ禍の新人看護師の困難体験と看護基礎教育課程で身につけておくべきと考えた看護実践能力. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡市. 【日本看護学教育学会第 33 回学術集会優秀演題賞: 育成部門 (ポスター)】 (国内・学会)
51. 高木若菜*, 正木治恵, 石橋みゆき, 石井彩 (2023, 9. 24). 高齢糖尿病患者の低血糖の経験から肯定的側面を引き出すための看護師の関わり. 第 28 回日本糖尿病教育看護学会学術集会, 岡山市. 【第 27 回日本糖尿病教育看護学会 28th JADEN AWARD】 (国内・学会)

*看護学部卒業

〔その他〕

52. 正木治恵: 2023 年度千葉県看護協会研修. No.30 地域における看取りを考える～在宅・介護施設における看取り～.
53. 黒田久美子: 2023 年度千葉県看護協会研修. 第 22 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 組織管理論Ⅱ.
54. 黒田久美子: 2023 年度東京都看護協会研修. 看護にいかすりフレクシオンー リフレクシオンで看護の質を向上させる.
55. 今井陽子, 田崎悠希, 渡邊朋, 京増紗輝, 比田井理, 交流集会1. 自己の看護実践を振り返ることによる看護師の成長とその支援について考える. 千葉看護学会誌, 29(2),126.

健康増進看護学

〔原著〕

1. Takahashi, M., Yamaguchi, T., Ito, A., Francisco-J., Renero-C., Amemiya, A., Tsumura, N., & Iijima, N. (2023). Pulse wave measurement system by rPPG from multiple human sites by including the sole. *Optics Continuum*. 2(12). <https://doi.org/10.1364/OPTCON.504168>
2. Mashida, Y., Fukahori, H., Ikezaki, S., & Fukui, S. (2023). Patterns of visiting nurse services

- for older adults in Japanese residential facilities: A latent class analysis. *Geriatrics and Gerontology International*. 2023 May; 23(5): 326-333. <https://doi.org/10.1111/ggi.14570>
3. Kusunoki, J., Ikezaki, S., & Majima, T. (2023). Factors associated with nursing practice for cancer patients using complementary and alternative medicine. *Collegian*, 30(5), 668-675. 2023. <https://doi.org/10.1016/j.colegn.2023.08.001>
 4. Kuwabara, M., Fukuuchi, T., Aoki, Y., Mizuta, E., Ouchi, M., Kurajoh, M., Maruhashi, T., Tanaka, A., Morikawa, N., Nishimiya, K., Akashi, N., Tanaka, Y., Otani, N., Morita, M., Miyata, H., Takada, T., Tsutani, H., Ogino, K., Ichida, K., Hisatome, I., & Abe, K. (2023). Exploring the Multifaceted Nexus of Uric Acid and Health: A Review of Recent Studies on Diverse Diseases. *Biomolecules*, 13(10), 1519. <https://doi.org/10.3390/biom13101519>
 5. Shibasaki, I., Otani, N., Saito, S., Ogawa, H., Masawa, T., Tsuchiya, G., Takei, Y., Tezuka, M., Kanazawa, Y., Kanno, Y., Yokoyama, S., Hirota, S., Niitsuma, K., Matsuoka, T., Konishi, T., Ogata, K., Ouchi, M., Toyoda, S., & Fukuda, H. (2023). Overview of mechanical circulatory support for the management of post-myocardial infarction ventricular septal rupture. *Journal of Cardiology*, 81(5), 491-497. <https://doi.org/10.1016/j.jjcc.2022.12.001>
 6. Otani, N., Hoshiyama, E., Ouchi, M., Takekawa, H., & Suzuki, K. (2023). Uric acid and neurological disease: a narrative review. *Frontiers in Neurology*, 14, 1164756. <https://doi.org/10.3389/fneur.2023.1164756>
 7. Otani, N., Ouchi, M., Mizuta, E., Morita, A., Fujita, T., Anzai, N., & Hisatome, I. (2023). Dysuricemia: A New Concept Encompassing Hyperuricemia and Hypouricemia. *Biomedicines*, 11(5), 1255. <https://doi.org/10.3390/biomedicines11051255>
 8. Shibasaki, I., Otani, N., Ouchi, M., Fukuda, T., Matsuoka, T., Hirota, S., Yokoyama, S., Kanazawa, Y., Kato, T., Shimizu, R., Tezuka, M., Takei, Y., Tsuchiya, G., Saito, S., Konishi, T., Ogata, K., Toyoda, S., Fukuda, H., & Nakajima, T. (2024). Utility of growth differentiation factor-15 as a predictor of cardiovascular surgery outcomes: Current research and future directions. *Journal of Cardiology*, 83(3), 211-218. <https://doi.org/10.1016/j.jjcc.2023.08.013>
 9. Tahara, Y., Amemiya, A., Kitagawa*, Y., Arimatsu, N., Kawasumi, C., Nagasawa, T., Koike, R., & Tsumura, N. (2024). Stress reduction effects of two types of robots on adults living alone. *The Society for Nursing Science and Engineering*, 11, 100-105. https://doi.org/10.24462/jnse.11.0_100
*博士後期課程修了
 10. Tahara, Y., Amemiya, A., Kase, R.*, Kitagawa, Y.*, Ogasawara, S., Kato, N. & Komiyama, M. (2024). Relationship between hand-foot skin reaction and external force on patients with hepatocellular carcinoma: A cohort study, *European Journal of Oncology Nursing*, <https://doi.org/10.1016/j.ejon.2024.102576> (pre-proof)
*博士後期課程修了
 11. 森恵美, 前原邦江, 岩田裕子, 齋藤明香, 小坂麻衣, 木村佳代子, 遠藤俊子, 坂上明子 (2023). 保健医療専門職による妊娠期から産後の超高齢妊産婦に対する多職種連携の経験. 日本母性看護学会誌, 24(1), 23-30. https://doi.org/10.32305/jjsmn.24.1_23
 12. 姫野雄太, 北池正, 池崎澄江 (2023). 術前不安と術前管理に着目した周術期外来ケアガイドの検証. 日本看護研究学会誌, 46(2), 165-175.
 13. JIANGDAN, 北池正 (2023). 在日中国人看護師の看護実践能力の課題. 千葉看護学会誌, 29(2), 57-66.
 14. 上元達仁, 大西麻未 (2023). 訪問看護師を対象とした職場環境測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌, 43, 143-153.
 15. 玉井勇二, 石崎順子, 大久保菜穂子 (2023). 大学生を対象としたオンライン型 BLS 講習会の教育効果に関する基礎的研究. 蘇生, 42(2), 74-79.
 16. 西村多寿子, 高橋宙矢, 福島宥平, 小松正, 石橋みゆき, 中山登志子, 池崎澄江 (2023). シェドーイング演習を含むオンライン学習によるリスニング不安の低減効果. *Journal of Medical English*

Education, 22(1), 41-42.

17. 永田亜希子, 池崎澄江 (2024). 夜勤・交代制勤務に従事する看護師の疲労と対処. 千葉看護学会誌, 29(2), 67-75.
18. 森田亜希子, 森恵美 (2024). 初めて親となる男性の父親役割適応を促す出生前看護介入プログラムの検証 ―一緒に参加をした妻への効果―. 日本母性看護学会誌, 24(2), 1-8.
https://doi.org/10.32305/jjsmn.24.2_1

〔論文等(査読あり)〕

19. 芥田ゆみ*, 池崎澄江 (2023). 病院に所属する日本の高度実践看護師らによる在宅移行支援の実践 ―事例報告を用いた文献検討―. 千葉看護学会誌, 29(1), 31-40.
*博士後期課程修了
20. 福尾ゆかり, 原広一郎, 大内基司, 加瀬浩二, 目澤守人, 秀野武彦: 精神疾患患者の糖尿病治療における血糖コントロール状況と精神科の現場に求められること―比較調査と糖尿病治療医へのアンケートから―. 精神科治療学, 39(1), 99-107.

〔論文等(査読なし)〕

21. 池崎澄江 (2023). 【虚弱高齢者の終末期ケア】特別養護老人ホームでの看取り実践. 医療と社会, 33(1), 13-24.
22. 池崎澄江 (2023). 新型コロナウイルス感染症流行下の訪問看護提供に関する調査研究事業. 全国訪問看護事業協会 訪問看護ステーションニュース, 173, 10-11.
23. 森田亜須可, 藤田朋恵, 大庭建三, 安武正弘, 安西尚彦, 大内基司 (2023). 1,5-アネヒドログルシトールに関する基礎研究の遷移. 消化と吸収, 45(2), 96-99.
24. 雨宮歩, 松村彩 (2024). 看護理工学アプローチによるケア機器開発. 電子情報通信学会誌, 107(1), 55-59.
25. Amemiya, A., & Matsumura, A. (2024). <Technical Survey> Development of Care Device Using the Nursing Science and Engineering Approach. *Journal of IEICE*, Vol. 107, No. 1.

〔単行書〕

26. 池崎澄江: 第V章 5. 諸外国の在宅医療・訪問看護制度. 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編), 看護学テキスト Nice 地域・在宅看護論 I 総論, 改定第3版, 南江堂, 197-199, 2023.
27. 池崎澄江: 特別養護老人ホームでの看取り実践. 公益財団法人医療科学研究所(監), 虚弱高齢者の終末期ケア ―様々な場における課題と対応―, 医研シリーズ6, 新刊, 法研, 19-37, 2023.
28. 大塚裕介, 大内基司: 第2章 症候と疾病編 1 E 糖尿病性腎症. 藤村昭夫(監), 柏木哲也, 酒井行直(編), 腎臓病診療がわかる現場の教科書, 新刊, じほう, 88-97, 2023.
29. 大内基司 腎領域・分担執筆(日本生理学会 監修, 日本生理学会用語委員会 編): 生理学用語ハンドブック, 丸善出版, 2024年03月
30. 森恵美: 6. 高齢女性の不妊治療と看護. 日本生殖看護学会 (編), 生殖看護ガイドブック, 医学書院, 174-179, 2023.
31. 森恵美: 9-3 親役割獲得に向けた看護. 日本生殖看護学会 (編), 生殖看護ガイドブック, 医学書院, 226-233, 2023.

〔報告書〕

32. 有松夏子 (2023). 第11回看護理工学会学術集会. 旧第二外科・先端応用外科 同門会会誌.
33. 小宮山政敏: 前腕における皮神経の位置を体表から推定する方法の開発―安全な点滴注射のために. 令和3年度～令和5年度 科学研究費助成事業(基盤研究C)研究成果報告書, 2024.

〔学会発表抄録〕

34. 石井柚衣, 森恵美, 前原邦江 (2023). オンライン面会における NICU/GCU 児とその親に対するボンディング形成に向けての看護実践. 第25回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集,

62. (査読あり・国内学会)

35. 小坂麻衣, 森恵美, 前原邦江 (2023). COVID-19 流行下に第1子を出産した夫婦が産後1ヵ月間に認知した家族レジリエンス. 第25回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集, 83. (査読あり・国内学会)
36. 結城ちなみ*, 森恵美, 前原邦江 (2023). 分娩介助シミュレーション教育における教員のデブリーフィングの経験. 第25回日本母性看護学会学術集会プログラム・抄録集, 87. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了
37. 大西遥子*, 森恵美, 木村佳代子 (2023). 在日外国人女性の妊娠・出産に関する支援ニーズ: 文献レビュー. 第41回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
38. 吉見萌々 (2023). 令和元年房総半島台風に妊娠中に被災した母親の経験. 第41回千葉県母性衛生学会学術集会抄録集, 4. (査読あり・国内学会)
39. 有松夏子, 雨宮歩, 早野康一, 村上健太郎, 豊住武司, 松本泰典, 藏田能裕, 松原久裕 (2023, 6. 10-11). 外来化学療法中の上部消化器がん患者の低活動予測スコア. 第11回看護理工学会学術集会, 神戸. (査読あり・国内学会)
40. 田原裕希恵, 雨宮歩, 北川柚香, 加瀬竜太郎, 小笠原定久, 加藤直也, 小宮山政敏 (2023). 外反母趾・扁平足と足底せん断応力の関連の探索的検討. 第11回看護理工学会学術集会 プログラム・抄録集, 16. (査読あり・国内学会)
41. 佐野元洋, 佐伯昌俊, 犬山彩乃, 前原邦江, 飯田貴映子, 仲井あや, 齊藤可紗, 斉藤しのぶ (2023, 9. 9). 周術期実習における高機能シミュレーターを使用した演習の効果と課題. 千葉看護学会第29回学術集会, 千葉. (査読あり・国内学会)
42. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果 ～ 看護系大学教員としての能力の変化より ～. 第43回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 57. (査読あり・国内学会)
43. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 銭淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の効果 ～ 研修前後のコンピテンシーの変化より ～. 第43回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 70. (査読あり・国内学会)
44. 齊藤可紗, 犬山彩乃, 佐伯昌俊, 飯田貴映子, 佐野元洋, 仲井あや, 前原邦江, 斉藤しのぶ (2023). DX 技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果. 第43回日本看護科学学会学術集会プログラム集, 176. (査読あり・国内学会)
45. 雨宮歩, 木村八恵, 松村彩, 有松夏子, 押味千紘, 箕輪隆城, 市田誠, 山初和也. (2023, 9.19-21). 認知機能低下を有する高齢者が点滴等の自己抜去に至る状況の実態調査. 第38回ライフサポート学会大会 (LIFE2023), 新潟. (査読あり・国内学会)
46. 北川柚香, 雨宮歩, 田原裕希恵, 緒方英之, 加藤尚也, 秋田新介, 前澤善朗, 越坂理也, 三川信之 (2023). 遺伝性早老症ウェルナー症候群の下肢可動域制限と潰瘍形成の実態: 横断観察研究. 第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 228. (査読あり・国内学会)
47. 池崎澄江 (2023). 在宅医療, 訪問看護の質評価 高齢者施設におけるデータに基づく質の評価: 日本の現状と海外での取り組み. 第5回日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集, 162. (査読あり・国内学会)
48. 西村多寿子, 石橋みゆき, 池崎澄江, 中山登志子 (2023). 看護英語教育の新しい形ー「やさしい日本語」+「英語4技能の向上」で外国人患者対応力を育むー. 日本看護学教育学会第33回学術集会プログラム集, 39. (査読あり・国内学会)
49. 石田ゆかり, 池崎澄江, 大橋優紀子, 光本篤史 (2023). 自治体で行われている国民健康保険医療費分析の現状と課題～年齢調整医療費に着目して～. 第63回全国国保地域医療学会抄録集, 167. (査読なし・国内学会)
50. 池崎澄江 (2023). コロナ禍の訪問看護ステーションにおける自治体等からの支援要請と対応状況,

- 第 61 回日本医療・病院管理学会学術総会抄録集, 34. (査読あり・国内学会)
51. 加瀬真紗美, 池崎澄江 (2023). 医療機関における環境に配慮した取り組み 未使用品廃棄の回避の実践と職種・部署間の連携. 第 61 回日本医療・病院管理学会学術総会抄録集, 23. (査読あり・国内学会)
 52. 芥田ゆみ*, 池崎澄江 (2023, 8. 25-26). 在宅移行困難な患者のための専門看護師・認定看護師による入退院支援を促進するプログラム」の開発と検証. 第 27 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 203, 東京. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
 53. 大内基司, 森田亜州華, 佐藤慶太郎, 寺田節, 鈴木達也, 大庭建三, 安武正弘, 安西尚彦, 藤田朋恵 (2023). オルガニバス実験系を用いた 1,5-アンヒドログルシトールの膵臓における作用評価. 第 77 回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集, 172. (査読あり・国内学会)
 54. 森田亜州華, 大内基司, 寺田節, 大庭建三, 清水章, 藤田朋恵 (2023). 血中 1,5-アンヒドログルシトール高濃度誘導モデルマウスにおける血糖およびインスリン値の変化. 第 77 回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集, 172. (査読あり・国内学会)
 55. 小林未果, 森田亜州華, 藤田朋恵, 大内基司, 本間知夫 (2023). マウス摘出小腸における 1,5-アンヒドログルシトールおよびグルコースの吸収. 第 77 回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集, 188. (査読あり・国内学会)
 56. 原広一郎, 目澤守人, 福尾ゆかり, 渡邊ゆきの, 中村千賀子, 星文禎, 藤川大輝, 大内基司, 秀野武彦 (2023). 精神疾患合併糖尿病症例に対する週 1 回投与 GLP-1 受容体作動薬の有用性. 糖尿病, 66(Suppl), S-162. (査読あり・国内学会)
 57. 福尾ゆかり, 原広一郎, 大内基司, 目澤守人, 加瀬浩二, 秀野武彦 (2023). 認知症患者の糖尿病治療状況と精神科の現場に求められるもの. 日本老年医学会雑誌, 60(Suppl), 164. (査読あり・国内学会)
 58. 黒崎祥史, Nielsen, RL., Weyer, K., 大内基司, 森田亜州華, Mollet, G., 井本明美, 川上文貴, 石井直仁 (2023). 近位尿細管においてエンドサイトーシス受容体による脂肪酸結合アルブミンの取込みは細胞老化を促進する. 基礎老化研究, 47(2), 86. (査読あり・国内学会)
 59. 竹井元, 堀端康博, 外山史, 林啓太郎, 森田亜須可, 大内基司, 藤田朋恵 (2023). タウリントランスporter (TauT) を介したヒポタウリンの取り込みによるハムスター精子の抗酸化機構. 第 97 回日本薬理学会年会抄録集, 142. (査読あり・国内学会)
 60. 森田亜須可, 黒崎祥史, 安西尚彦, 大内基司 (2024). ヒト尿細管培養細胞における生理的濃度の尿酸の役割 ―グルコース類似体との相互作用の観点から―. 第 57 回日本痛風・尿酸核酸学会総会. (査読あり・国内学会)
 61. 霊園良恵, 大内基司, 安西尚彦, 竹下浩平 (2024). AlphaFold2 を用いた尿酸／有機酸トランスporter MCT9 (SLC16A9) の多選択性基質認識部位の解明. 第 57 回日本痛風・尿酸核酸学会総会. (査読あり・国内学会)
 62. Maehara, K., Iwata, H., Mori, E., & Tamakoshi, K. (2024, March 6-7). *Effectiveness of an Online Antenatal Education Program on Postpartum Adaptation Among Older Primiparous Couples: A Randomized Controlled Trial*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
 63. Yoshimi, M., Mori, E., Iwata, H., Maehara, K., Kimura, K., & Toyama, F. (2024, March 6-7). *Needs Assessment of Online Prenatal Education for First-Time Expectant Fathers*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))
 64. Arimatsu, N., Amemiya, A., Hayano, K., Murakami, K., Toyozumi, T., Matsumoto, Y., Kurata, Y., Tsumura, N., & Matsubara, H. (2024, March 6-7). *Need for sleep support in patients with upper gastrointestinal cancer experiencing cachexia*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS2024), Hong Kong, China. (査読あり・国際学会(海外))

〔シンポジウム・招聘講演〕

65. 前原邦江 (2023). 第 64 回日本母性衛生学会総会・学術集会 シンポジウム 1 高年妊産婦支援の未来: 高年出産後の子育て支援～エビデンスを味方に～. 母性衛生, 64(3), 80. (国内学会)
66. 森恵美 (2023). 第 64 回日本母性衛生学会総会・学術集会 令和 5 年度学会指定研修プログラム B 研究の基礎編: エビデンスに基づく実践 ―母子保健・リプロダクティブヘルスの向上にむけて. 母性衛生, 64(3), 72. (国内学会)
67. 大内基司 (2023). JPS 特別企画 『クスリがわかる』シリーズ 2 腎・泌尿器系 痛風・高尿酸血症治療薬の基礎と臨床 (臨床担当) 第 97 回日本薬理学会年会抄録集, 137. (国内学会).
68. 大内基司 (2024). 痛風・尿酸核酸領域のアップデート～最近の論文まとめ読み～. 糖尿病, 第 57 回日本痛風・尿酸核酸学会総会. (国内学会)

〔受賞 (国内・国外)〕

69. 2023 年度看護理工学会奨励賞
Matsumura, A. & Amemiya, A. (2023). Verification of the feeling of heat and stuffiness in a medical full wig using each material inner cap: A randomized crossover trial. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 1-10. (国内・論文)
70. 第 11 回看護理工学会学術集会研究奨励賞
有松夏子, 雨宮歩, 早野康一, 村上健太郎, 豊住武司, 松本泰典, 藏田能裕, 松原久裕 (2023, 6. 10-11), 外来化学療法中の上部消化器がん患者の低活動予測スコア. 第 11 回看護理工学会学術集会, 神戸. (国内・学会)
71. 2023 年度千葉大学先進学術賞
雨宮歩 (2023, 10. 12). 高齢者の尊厳を守るための生体センシングとシステム開発. (国内・学内)
72. 第 4 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会優秀演題賞
北川柚香, 雨宮歩, 田原裕希恵, 緒方英之, 加藤尚也, 秋田新介, 前澤善朗, 越坂理也, 三川信之 (2023). 遺伝性早老症ウェルナー症候群の下肢可動域制限と潰瘍形成の実態: 横断観察研究. 第 4 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 228. (国内・学会)

〔その他〕

73. 松村彩, 雨宮歩 (2023). 次世代エースみつけた! 医療・介護現場の声を実現化! 看護学×工学 自己抜去を防ぐ接触検知システムの開発. トラ技 Jr 冬号, CQ 出版社, 56. (印刷中)

〔特許〕

74. Yamashita (Amemiya), A., Sugawara H., Ichida M., Minowa T., & Sugawara, Y.: Biocontact Detection Sensor and Biocontact Detection Device using same. 特開 4180081 (欧州).
75. 山下歩, 菅原久純, 市田誠, 箕輪隆城, 菅澤泰久: 生物体接触検出センサー及び使用该生物体 接触検出センサーの生物体接触検出装置. 特開 115989055 (中国).
76. 山下(雨宮)歩, 松村彩, 井上真緒, 市田誠: 脱衣センサ装置, 及びそれを利用した脱衣検知方法. 特願 2024-006441.

地域創成看護学講座

〔原著〕

1. 澤田幸穂, 諏訪さゆり (2023). 訪問看護師による非がん疾患を有する在宅高齢者のせん妄への介入. 千葉看護学会誌, 29(1), 11-19.
2. 石坂晴奈, 諏訪さゆり, 西村拓一, 押山千秋 (2023). 認知症高齢者の排泄における生活障害とケアに関する知識の構造化. 千葉看護学会誌, 29(1), 21-30.
3. 湯本晶代, 諏訪さゆり (2023). レビー小体型認知症療養者への訪問看護ケア指針の開発 デルファイ法による妥当性の検証. 日本認知症ケア学会誌, 22(2), 361-374.

4. Ide, H., Suwa, S., Akuta, Y., Kodate, N., Tsujimura, M., Ishimaru, M., Shimamura, A., Kitinoja, H., Donnelly, S., Hallila, J., Toivonen, M., Bergman-Kärpijoki, C., Takahashi, E., Yu, W. (2023). Developing a model to explain users' ethical perceptions regarding the use of care robots in home care: A cross-sectional study in Ireland, Finland, and Japan. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 105137-105137
5. Zhou, L., Suwa, S. (2023). Association among cognitive function, daytime activities, and nighttime sleep in older adults in a long-term care facility. *Japan Journal of Nursing Science* <https://doi.org/10.1111/jjns.12571>
6. 壺田智美, 佐藤奈保, 宮崎美砂子 (2023). 被災した認知症高齢者の家族の発災から災害中長期における生活上の困難. 日本看護科学学会誌, 43, 429-438.
7. 鈴木美央, 田上美千佳, 森千鶴 (2023). 統合失調症者の「心の理論」における他者の意図の推論機能と精神症状の関連. 日本看護科学学会誌, 43, 520-528.
8. 増田文月, 諏訪さゆり (2024). 重度認知症患者デイケアの専門職がケースカンファレンスを通して行動・心理症状を有する認知症の人への理解を深めていく様相. 日本認知症ケア学会誌, 22(4), 673-685.
9. 松浦めぐみ, 石丸美奈, 鈴木悟子*, 岩瀬靖子 (2024). 在宅で生活する青年期にある医療的ケア者の日常生活の自立に向けた意思決定の経験. 千葉看護学会誌, 29(2), 21-32.
*元研究院教員
10. 井口紗織* (2024). 自然災害を経験した市町村保健師の災害時保健活動経験に対する肯定的意味づけを促す外傷後成長指標の作成. 千葉看護学会誌, 29(2), 89-99.
*博士後期課程修了

〔論文等(査読あり)〕

11. 石坂晴奈, 諏訪さゆり (2023). 在宅認知症高齢者の排泄に関する生活障害と家族介護者によるケアの実態. 日本認知症ケア学会誌, 22(2), 413-424.
12. Kodate, N., Obayashi, K., Maeda, Y., Yu, W., O'Shea, D., Sakata, N., Suwa, S., Masuyama, S. (2023). Care Professionals' Experience of Deploying an Original Non-Autonomous Air Purification Robot in Residential Care Homes in Ireland and Japan. HORA 2023 5th International Congress on HUMAN-COMPUTER INTERACTION, OPTIMIZATION AND ROBOTIC APPLICATIONS.
13. Sakai, A., Ishimaru, M., Iwata, H., Iwase, S., & Suzuki, S.* (2023). Health literacy and parenting infants at home: protocol for a qualitative systematic review of parents' experiences. *JBIC evidence synthesis* 22(1) 90-96, DOI: 10.11124/JBIES-23-00017
*元研究院教員
14. 鈴木美央, 森千鶴 (2023). 入院中の統合失調症をもつ人の心の理論とワーキングメモリを高めるプログラムの開発と有用性の検証. 精神障害とリハビリテーション, 27(1), 55-64.

〔論文等(査読なし)〕

15. 諏訪さゆり (2023). Society 5.0 の本質から認知症ケアを探究する. 日本認知症ケア学会誌, 22(1), 74-74.
16. 島村敦子, 辻村真由子, 諏訪さゆり (2023). ロボティクス, AI, ICT と在宅ケア実践への適用 高齢者のための見守りロボットの在宅ケア実践への適用と倫理的課題. 日本在宅ケア学会誌, 27(1), 7-13.
17. 宮崎美砂子, 関口貴恵 (2023). 日本の災害と公衆衛生 過去・現在・未来 第10回避難所, 在学避難者. 公衆衛生, 87(8), 827-832.
18. 宮崎美砂子 (2023). 特集 With コロナ時代に求められる公衆衛生人材 公衆衛生看護の人材育成—保健師の人材育成. 公衆衛生, 87(9), 867-874.
19. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2024). 新型コロナウイルス感染症流行初期における認知症対応型通所介護の事業運営. 法政大学多摩論集, 40, 131-148.

〔報告書〕

20. 中野(鶴本)有美, 小野寺麻紀, 小田心火, 天賀谷要子, 金井美智恵, 田上美千佳, 中山洋子 (2023). 地域で暮らす精神障害者の日常を長期的・継続的に支えるケアの技術の明確化. 第 53 回三菱財団研究・事業報告書, pp.1-17.
21. 宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 花井詠子, 井口紗織 (2024). 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)令和 5 年度総括・分担研究報告書(研究代表者 宮崎美砂子).

〔単行書〕

22. Suwa, S., Majima, T.: DEMENTIA CARE AND RELIGION, SPIRITUALITY, CULTURE-BASED NURSING IN JAPAN. Silberman, M., Berger, A.(編), The Impact of Culture and Faith in Dementia Care: Psycho-Social-Spiritual Healing, Cambridge Scholars Publishing, 2023. (ISBN: 9781527540019) pp.462-475 1st edition
23. 諏訪さゆり, 湯本品代: 第Ⅱ章 3 認知症高齢者への在宅看護 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編). 看護学テキスト NiCE 地域・在宅看護論Ⅱ支援論 改訂第3版. 南江堂, 135-144, 2024.
24. 諏訪さゆり, 湯本品代: 第Ⅳ章 2 デイサービスを利用しながら, 日中の意識状態の改善を目指す B さんへの支援, 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編), 看護学テキスト NiCE 地域・在宅看護論Ⅱ支援論, 改訂第3版. 南江堂, 239-249, 2024.
25. 諏訪さゆり, 湯本品代: 第Ⅳ章 3 レビー小体型認知症により, 在宅での療養が難しくなった C さんへの支援, 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編), 看護学テキスト NiCE 地域・在宅看護論Ⅱ支援論, 改訂第3版. 南江堂, 250-261, 2024.
26. 飯田貴映子: 第Ⅴ章 3 諸外国の在宅医療・訪問看護制度 B 英国. 石垣和子, 上野まり, 徳田真由美, 辻村真由子(編), 看護学テキスト NiCE 地域・在宅看護論Ⅰ総論, 改訂第3版. 南江堂, 199-201, 2024.
27. 石丸美奈: 第1章 発達段階の特性に応じた活動論Ⅱ 成人・高齢者保健福祉活動 1. 健康づくり活動 2. 生活習慣病予防活動. 宮崎美砂子他(編), 最新公衆衛生看護学, 第3版(2024年版)各論 1, 日本看護協会出版会, 84-131, 2024.
28. 宮崎美砂子: 第1章公衆衛生看護学概論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論, 第3版 2024年版. 日本看護協会出版会, 2-24, 2024.
29. 佐藤太一: 事例 1 生活保護を受ける親子の社会生活を豊かにするための保健師の取り組み. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第3版 2024年版, 日本看護協会出版会, 10, 2024.
30. 宮崎美砂子: 第2章地区活動論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第3版 2024年度版, 日本看護協会出版会, 122-145, 2024.
31. 宮崎美砂子: 第4章公衆衛生看護学研究. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学総論. 第3版 2024年版, 日本看護協会出版会, 322-358, 2024.
32. 宮崎美砂子: 第3章公衆衛生看護管理活動論. 宮崎美砂子, 北山三津子他(編), 最新公衆衛生看護学各論 2. 第3版 2024年版, 日本看護協会出版会, 200-223, 2024.

〔学会発表抄録〕

33. 小林信, 神澤尚利, 寺岡征太郎, 寺田美樹, 須藤公裕, 本武敏弘, 則村良, 田上美千佳 (2023. 5.13). 精神力動論を活用した看護ケア. 日本精神保健看護学会第 33 回学術集会. (査読なし・国内学会).
34. 村田涼子, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 6. 9-10). 看護師のストレスを軽減するためのスコーピングレビュー～認知行動療法を用いた介入研究に焦点を当てて～. 第 10 回日本 CNS 看護学会, 77. (査読あり・国内学会)
35. Okamoto, S. (2023, June 12-14). Development of a Nursing Education Program to Prevent

Aggressive Behavior in Patients with Dementia. The International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama. (査読あり・国際学会(国内))

36. 廣島薫留, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 7. 22). COVID-19 が医学系大学生のメンタルヘルスに与えた影響における性別による違い. 千葉県精神科リハビリテーション研究会第 7 回研究発表会. (オンライン)(査読あり・国内学会)
37. 村田涼子, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 7. 22). リエゾン精神看護専門看護師による発達障害特性がある妊産婦への関わりと助産師への支援. 千葉県精神科リハビリテーション研究会第 7 回研究発表会. (オンライン)(査読あり・国内学会)
38. 長野真澄, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 7. 22). 児童精神科に入院した子どもの心理社会的側面を支える支援ー絵を描くことを通してー. 千葉県精神科リハビリテーション研究会第 7 回研究発表会. (オンライン)(査読あり・国内学会)
39. 廣島薫留, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 8. 19-20). COVID-19 による医学系大学生の生活状況とメンタルヘルスの変化. 日本看護研究学会第 49 回学術集会抄録集, 194. (オンライン)(査読あり・国内学会)
40. 高杉碧*, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 8. 19-20). 発達障害をもつ人が障害に気づいた時の気持ちの変化に関する文献検討. 日本看護研究学会第 49 回学術集会抄録集, 231. (オンライン)(査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
41. 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 8. 19-20). 日本におけるクライシスプランを用いた研究動向のスクーピングレビュー. 日本看護研究学会第 49 回学術集会抄録集, 233. (オンライン)
42. 浅田野乃*, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 8. 19-20). メンタルヘルス不調による休職者への産業保健スタッフによる復職支援の文献検討. 日本看護研究学会第 49 回学術集会抄録集, 260. (オンライン) (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
43. Suzuki, M., Tanoue, M., & Mori, C. (2023, 9. 28-10. 1). Effects of Intervention on Communicative Functioning in Patients with Schizophrenia: A Comparison by Working Memory. 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (online) (査読あり・国際学会(Vienna))
44. Suzuki, M., Tanoue, M., Teraoka, S., Katayama, T., Ohukbo, S., Hirabayashi, M., & Watanabe, A. (2023, 9. 28-10. 1). Family Support for Patients with Severe Mental Illness Living in The Community in Japan. 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (online) (査読あり・国際学会(Vienna))
45. Tanoue, M., Suzuki, M., Teraoka, S., Katayama, T., Ohukbo, S., Hirabayashi, M., & Watanabe, A. (2023, 9. 28-10. 1). Family Care with Psychiatric Patients in The Community for Family Recovery in Japan. 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (査読あり・国際学会(Vienna))
46. Watanabe A., Hashimoto Y., & Tanoue, M. (2023, 9. 28-10. 1) A study on grief work for older people with dementia from the perspective of formal and informal caregivers. 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (査読あり・国際学会(Vienna))
47. 中野(鶴本)有美, 小野寺麻紀, 小田心火, 天賀谷要子, 金井美智恵, 田上美千佳, 中山洋子(2023, 12. 2-3). 地域で暮らす精神障害者の日常を長期的・継続的に支えるケアの技術の明確化. 日本精神障害者リハビリテーション学会第 30 回岡山大会.
48. 廣島薫留, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 12. 9-10). COVID-19 による医学系大学生のメンタルヘルスおよび生活状況への影響と楽観性・悲観性との関連. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
49. 鈴木美央, 田上美千佳, 寺岡征太郎, 片山健浩, 大久保豪 (2023, 12. 9-10). 地域で生活する精神疾患をもつ人の家族支援に対する医療従事者の認識. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
50. 田原郁恵, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 12. 9-10). 中規模事業場のメンタルヘルス不調者の職場

復帰における産業看護職による管理監督者支援. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)

51. 柴崎祐美, 湯本晶代 (2023). 湯本コロナ禍における認知症対応型通所介護の実践と役割 管理者インタビューから. 日本認知症ケア学会誌, 22(1), 234. (査読あり・国内学会)
52. 湯本晶代, 柴崎祐美 (2023). コロナ禍において認知症対応型通所介護事業所が高齢者の社会参加に果たした役割. 日本認知症ケア学会誌, 22(1), 235. (査読あり・国内学会)
53. Yamashita, Y., Suwa, S. (2023). Pain Stemming from Immobility in Older People and Providing Care. IAGG Asia / Oceania Regional Congress 2023.
54. 佐野元洋, 佐伯昌俊, 犬山彩乃, 前原邦江, 飯田貴映子, 仲井あや, 齊藤可紗, 齊藤しのぶ(2023). 周術期実習における高機能シミュレーターを使用した演習の効果と課題. 千葉看護学会第 29 回学術集会. (査読あり・国内学会)
55. 佐藤太一, 石丸美奈, 岩瀬靖子, 坂井文乃, 井口紗織*1, 吉田靖代, 鈴木悟子*2 (2023). 協働デザインを用いた認知症を有する人との共生のためのカードゲーム開発からの市民・専門職の学び. 千葉看護学会第 29 回学術集会会誌 30. (査読あり・国内学会)
*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員
56. 湯本晶代 (2023). レビー小体型認知症療養者へのケアにおいてジェネラリストの訪問看護師が経験する困難. 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集, 230. (査読あり・国内学会)
57. 島村敦子, 諏訪さゆり, 兪文偉, 松島英介 (2023). 論文賞受賞講演 奨励論文賞 熟練訪問看護師の眼球運動に基づく観察の特徴－訪問看護熟練者, 初心者, 看護学生の眼球運動の比較. 第 28 回日本在宅ケア学会学術集会抄録集.
58. 齊藤可紗, 犬山彩乃, 佐伯昌俊, 飯田貴映子, 佐野元洋, 仲井あや, 前原邦江, 齊藤しのぶ(2023). DX 技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果. 第 43 回日本看護科学学会学術集会. (査読あり・国内学会)
59. 岡田忍, Nyamadzawo Amos., 犬山彩乃, 飯田貴映子, 湯本晶代, 諏訪さゆり (2023). 高齢者施設における自走式消毒ロボット導入の検討. 日本環境感染学会総会プログラム・抄録集, 38, 323.
60. Nyamadzawo, A., Okada, S., Nishio, J., Inuyama, A., Iida, K., Yumoto, A., Yu, W., Suwa, S. (2023). Considering Requirements for Implementing Autonomous Robots in Nursing Homes. International Council of Nurses, (Montréal, Canada)
61. 井口紗織*, 石丸美奈 (2023). 被災地保健師の外傷後成長促進をねらいとしたリフレクション支援プログラムの有効性－質的・量的評価より－. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 138. (査読あり・国内学会)
*博士後期課程修了
62. 佐藤太一, 石丸美奈(2023). 保健師による支援対象者へのケアリングを促すための職場内教育としての事例検討会モデルの内容妥当性検証. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 146. (査読あり・国内学会)
63. 佐々木康乃*, 石丸美奈, 吉田靖代, 坂井文乃, 岩瀬靖子(2023). 出産前教育におけるヘルスリテラシー向上の教育に関する文献検討. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 156. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程院生
64. 川本佳奈美*, 石丸美奈, 吉田靖代, 坂井文乃, 岩瀬靖子(2023). 成人期にあるひきこもりの人への居場所の提供に関する支援について. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 189. (査読あり・国内学会)
*看護学部卒業
65. 石丸美奈, 牛尾裕子, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 井口紗織*1, 坂井文乃, 斎藤美矢子, 緒方綾乃, 村上祐里香, 鈴木悟子*2 (2023). 認知症を有する人との共生を目指した地域づくり活動の協働方法－自治会連合を対象エリアとした事例の比較－. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 244. (査読あり・国内学会)
*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員
66. 牛尾裕子, 石丸美奈, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 井口紗織*1, 坂井文乃, 斎藤美矢子, 緒方綾乃, 村上祐

里香, 鈴木悟子*2 (2023). 認知症を有する人との共生を目指した地域づくり活動の協働方法—自治体全域を対象エリアとした事例の比較—. 日本地域看護学会第 26 回学術集会講演集, 245. (査読あり・国内学会)

*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員

67. 井口紗織*1, 石丸美奈, 佐藤太一, 吉田靖代, 岩瀬靖子, 坂井文乃, 鈴木悟子*2 (2023). 認知症を有する人との共生を目指したコミュニケーションカードゲームの評価. 第 82 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 517. (査読あり・国内)

*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員

68. Hanai, E., Miyazaki, M., (2023). COVID19 Infection Control Measures for Shikoku Pilgrims in Emergency Situations. 第 82 回日本公衆衛生学会総会, つくば市. (査読あり・国内学会)

69. 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 相馬幸恵, 草野富美子, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2023). 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用の実態(第 1 報). 第 82 回日本公衆衛生学会総会, つくば市. (査読あり・国内学会)

70. 奥田博子, 宮崎美砂子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 相馬幸恵, 草野富美子, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2023). 災害時保健活動マニュアル策定における好事例の検討(第 2 報). 第 82 回日本公衆衛生学会総会, つくば市. (査読あり・国内学会)

71. 雨宮有子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 相馬幸恵, 草野富美子, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2023). 災害時保健活動マニュアル活用促進における好事例の検討(第 3 報). 第 82 回日本公衆衛生学会総会, つくば市. (査読あり・国内学会)

72. 吉川悦子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 岩瀬靖子, 相馬幸恵, 草野富美子, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 井口紗織, 花井詠子 (2023). 大規模自然災害発生時の保健師業務負荷軽減とメンタルヘルス対策の実際と課題(第 5 報). 第 82 回日本公衆衛生学会総会, つくば市. (査読あり・国内学会)

73. 佐藤太一 (2023). 保健師が個人や家族への支援において抱く困難の類型化 文献検討. 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 187. (査読あり・国内)

74. 江波戸和子, 村田涼子 (2023). コンコーダンススキルを用いた精神障がい者の服薬継続への介入の効果と課題 日本における介入研究への文献レビュー. 第 48 回日本精神科看護学会, 55. (査読あり・国内学会)

75. 村田涼子, 江波戸和子 (2023). がん患者をケアする看護師の感情に関する介入研究の動向～国内外の介入研究に焦点をあてた文献検討～. 第 48 回日本精神科看護学会, 197. (査読あり・国内学会)

76. 江波戸和子, 安保寛明, 村田涼子 (2023). コンコーダンスを用いた精神障がい者への服薬継続の介入効果と課題～国海外における介入研究の文献レビュー, 第 30 回日本精神科看護学会専門学術集会, 105. (査読あり・国内学会)

77. 村田涼子, 江波戸和子 (2023). がん領域の看護師の共感疲労への支援の実際～国内外の介入研究に焦点をあてた文献検索～. 第 30 回日本精神科看護学会専門学術集会, 106. (査読あり・国内学会)

78. 斎藤美矢子, 牛尾裕子, 石丸美奈, 坂井文乃, 緒方彩乃, 村上祐里香, 岩瀬靖子, 佐藤太一, 井口紗織*1, 鈴木悟子*2 (2023). 認知症を有する人との共生を目指した地域づくり活動の協働方法—ご近所中心に対象エリアとした事例の比較—第 43 回日本看護科学学会学術集会, 636-637, 下関. (査読あり・国内学会)

*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員

79. Masuda, F., & Suwa, S. (2024, March 6-7). Phases of Daycare Professionals' Deepened Understanding of People with Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia Through Case Conferences. 27th East Asian Forum of Nursing Schoars 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))

80. Lee, H., & Suwa, S. (2024, March 6-7). A report of the increase of the dementia elderly and the role of the dementia treatment ward in Japan. 27th East Asian Forum of Nursing Schoars

2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))

81. Shimizu, T., Tanoue, M., Katayama, T.*, & Suzuki, M. (2024, March 6-7). Actual care conditions using digital technology in psychiatric outpatient departments: A scoping review protocol. 27th East Asian Forum of Nursing Schoars 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(Hong Kong))
*元研究院教員
82. Katayama, N.*1, Shinpo, R.*2, Suzuki, M., & Tanoue, M. (2024, March 6-7). Examination of Community Support from the Perspective of the Lives of Users with Mental Illness Discharged to Group Homes Up to the Present. 27th East Asian Forum of Nursing Schoars 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(Hong Kong))
*1 元研究院教員 *2 看護学部
83. Sato, T. (2024). Factors Contributing to Regular and Effective Implementation of Case Conferences That Encourage Public Health Nurses to Care for Vulnerable Individuals and Families, 27th East Asian Forum of Nursing Schoars 2024, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))
84. Suzuki, Y., Miyazaki, M., (2024). Policy Making for Supporting Disaster Victims in the Event of a Disaster～Derivation of the Concepts～. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong. (査読あり・国際学会)
85. Ishimaru, M., Sato S., Yoshida, Y.*1, Iguchi S.*2, Iwase S., Maejima S. (2024). Co-Designing Card Game for Creating a Sense of Place in a Dementia-Inclusive Community: Changes in Card Contents, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong. (査読あり・国際学会(海外))
*1 博士後期課程院生 *2 博士後期課程修了
86. 植村直子, 宮崎美砂子 (2024). 地域住民主体のグループ活動への支援における保健師のケイパビリティの分析. 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 北九州市. (査読あり・国内学会)
87. 丸山あかね*1, 石丸美奈 (2024). 離島に暮らす人々のケアのあり様に影響する文化的・社会的次元に関する文献レビュー. 文化看護学会第 16 回学術集会. (査読あり・国内学会)
*1 研究生
88. 石丸美奈, 井口紗織*1, 鈴木悟子*2, 佐藤太一, 岩瀬靖子 (2024). 認知症を有する人との共生に資するコミュニケーションカードの内容の分析ーテキストマイニングを用いてー. 文化看護学会第 16 回学術集会. (査読あり・国内学会).
*1 博士後期課程修了 *2 元研究院教員
89. 吉見萌々*, 宮崎美砂子, 佐藤奈保 (2024). 東日本大震災により被災した母親が新生児とともに産後 1 か月まで被災地で過ごした経験. 第 29 回日本災害医学会総会・学術集会, 京都市. (査読あり・国内学会)
*博士前期課程修了

[シンポジウム・招聘講演]

90. Iida, K. (2023, June 12-14). *Geriatrics 1 Symposium: End-of-life Care in Care Facilities. Palliative and End-of-life Care and Education in Japanese Long-term Care Facilities.* The International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2023, Yokohama.
91. 諏訪さゆり (2023). 専門職連携教育の基本から老年精神医学における多職種連携を再考する. 委員会企画シンポジウム I 多職種協働推進委員会. 老年精神医学雑誌, 第 38 回日本老年精神医学会 プログラム・抄録集 34(増刊号 II), 109.
92. 【特別講演】宮崎美砂子 (2023). 地域包括ケアシステムとこれからの地域看護学教育. 第 26 回日本地域看護学会学術集会, 川崎市.
93. 【招聘講演】宮崎美砂子 (2023). 自治体における災害時保健活動の推進に向けて. 厚生労働省主催 令和 5 年度健康危機における保健活動推進会議, オンライン.

〔受賞(国内・国外)〕

94. 石坂晴奈, academist Prize 第2期企業賞発表イベント オーディエンス賞 2023, 5. 24
95. 石坂晴奈, academist Prize 第2期アカデミスト賞発表イベント 第2位 2023, 8. 30
96. 第43回日本看護科学学会学術集会優秀演題ポスター発表賞
田原郁恵, 鈴木美央, 田上美千佳 (2023, 12. 9-10). 中規模事業場のメンタルヘルス不調者の職場復帰における産業看護職による管理監督者支援. 第43回日本看護科学学会学術集会.
97. 日本地域看護学会最優秀演題賞
井口紗織*, 石丸美奈 (2023). 被災地保健師の外傷後成長促進をねらいとしたリフレクション支援プログラムの有効性—質的・量的評価より—. 日本地域看護学会第26回学術集会講演集, 138. (国内・学会)
*博士後期課程修了
98. 千葉看護学会第29回学術集会優秀ポスター賞
佐藤太一, 石丸美奈, 岩瀬靖子, 坂井文乃, 井口紗織*1, 吉田靖代*2, 鈴木悟子*3 (2023). 協働デザインを用いた認知症を有する人との共生のためのカードゲーム開発からの市民・専門職の学び. 千葉看護学会第29回学術集会会誌. 30, 2023. (国内・学会)
*1 博士後期課程修了 *2 博士後期課程院生 *3 元研究院教員

〔その他〕

99. 岡本聡美: 山梨県立大学看護実践開発研究センター認定看護師教育課程(認知症看護). 認知症の人とのコミュニケーション.
100. 吉田靖代*1, 佐藤太一, 後藤智美, 星合裕美*2, 石丸美奈 (2023). 多様な状況にある多世代の人々を支える地域包括ケアと保健医療福祉専門職. 日本地域看護学会第26回学術集会講演集, 130.
*1 博士後期課程院生 *2 博士前期課程院生
101. 蔭山正子, 成瀬昂, 板谷智也, 松永篤志, 松井理恵, 川崎涼子, 石丸美奈 (2023). 次世代育成推進委員会主催「よろず相談会」～キャリア, 研究, 実践など日頃のモヤモヤを共有しませんか?～. 日本地域看護学会第26回学術集会講演集, 136.
102. 佐藤太一, 吉田靖代*1, 星合裕美*2, 石丸美奈 (2023). 看護職が学び育ちあうための組織をどうつくるか. 千葉看護学会第29回学術集会会誌.
*1 博士後期課程院生 *2 博士前期課程院生
103. 佐藤太一: 令和5年度宮崎県中堅保健師研修. 事例検討の進め方, 運営について—困難事例への支援の方向性を見いだすために—.
104. 佐藤太一: 福島県相双保健福祉事務所 令和5年度市町村保健師等現任教育<事例検討研修>. 事例検討に関する講義及び演習のアドバイザー.
105. 佐藤太一: 令和5年度地域看護学実習指導者研修会(愛媛県立医療技術大学). 保健師の職場内教育(OJT)としての事例検討会の意義と方法—当事者からの理解とケアリングを中心に—.
106. 佐藤太一: 令和5年度新任保健師研修会(いわき市). 事例検討～個別支援のスキルアップを目指す～.
107. 佐藤太一: 第1回全方位セミナー「ケアを考える」企画者(講師: 安積遊歩).
108. Ishimaru. M., Sato. T., Iwase. S., Sakai. A., Sasaki. Y.*1: Co-design Card Game for Creating a Place toward Dementia-Inclusive Community. Coventry University との研究交流セミナー, 2023, 6. 15.
*1 博士前期課程院生
109. Sato. T., Iguchi. S.*1, Iwase. S., Yoshida. Y.*2: Learning from Citizens and Professionals from the Development of a Card Game for Inclusive society with People with Dementia Using Co-Design. (Coventry University との研究交流セミナー).
*1 元博士後期課程院生 *2 博士後期課程院生
110. 石丸美奈: 「住みよい地域を皆でつくろう!～コミュニケーションカードゲームを使って世代を超えた交流の場を創る～」, 令和5年度千葉大学大学院看護学研究院公開講座.
111. 岩瀬靖子: 令和5年度新任期Ⅱ保健師研修会. 災害時の保健活動について. オンデマンド.

112. 岩瀬靖子: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会. 災害時の保健活動と平常の保健活動の連動.
113. 岩瀬靖子: 令和 5 年度市原市災害時保健活動対応研修会 1. 避難所における保健活動の基本.
114. 岩瀬靖子: 令和 5 年度市原保健所母子保健従事者研修. あなたの記録は大丈夫? 一支援記録の位置づけと記録を通した個別支援の継続性・包摂性の向上.
115. 岩瀬靖子: 令和 5 年度市原保健所母子保健従事者研修 2. これで記録は大丈夫! 一支援記録の位置づけと記録を通した個別支援の継続性・包摂性の向上.
116. 岩瀬靖子: 令和 5 年度千葉県保健活動業務研究発表会. 発表会分科会の助言者.
117. 石丸美奈: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会(前期). 個別支援と地区診断. オンデマンド.
118. 石丸美奈: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会(前期). 地区組織・関係機関との連携による効果的な保健師活動の展開. オンデマンド.
119. 石丸美奈: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会(前期). 保健師としてのキャリア形成. オンデマンド.
120. 石丸美奈: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会(後期). 住民活動の発展段階と必要な支援. オンデマンド.
121. 石丸美奈: 令和 5 年度新任期Ⅱ保健師研修会(後期). 新任期保健師から中堅期保健師へ. オンデマンド.
122. 村田涼子: 日本臨床医学リスクマネジメント学会. 医療安全管理者養成研修. せん妄と医療事故. (オンライン).
123. 村田涼子: 沖縄県立看護大学 3 年生講義. 精神保健看護Ⅱ. リエゾン精神科チーム活動について.
124. 村田涼子: 沖縄県立看護大学 CNS コース講義. 専門看護師コース・コンサルテーション. リエゾンナースとがん看護専門看護師の協働事例について.
125. 村田涼子: MSD 株式会社 心と体の健康セミナー. 当院の精神科リエゾンチームの取り組み.
126. 村田涼子: 一般社団法人日本精神科看護協会東京都支部研修会. 病棟での睡眠管理に関すること～高齢者の『眠れない』にどう対応するか～.
127. 村田涼子: 社会福祉法人新栄会更生施設ふじみ. 自分の心を守れていますか? 感情のお手入れ方法を紹介します!.
128. 宮崎美砂子: 災害時における県と市町村の連携強化～災害時保健活動マニュアルの策定・活用状況の実態調査結果から～. 千葉県令和 5 年度管理期保健師研修会, 千葉市, 2023 年 7 月 4 日.
129. 宮崎美砂子: 災害時の保健活動～災害発生時に各部署のリーダーとして役割をとるために～. 千葉市 5 年度管理期保健師研修会, 千葉市, 2023 年 7 月 14 日.
130. 宮崎美砂子: これからの保健師責任職に求められること. 令和 5 年度横浜市保健師責任職全体研修, 横浜市, 2023 年 8 月 31 日.
131. 宮崎美砂子: 有事に求められる管理期の役割と平常時の保健活動. 茨城県保健師等人材育成研修レベル 4, オンライン, 2023 年 9 月 21 日.
132. 宮崎美砂子: 災害時の保健活動. 福島県会津保健所令和 5 年度災害対応能力向上研修会. 会津若松市, 2023 年 9 月 15 日.
133. 宮崎美砂子: 災害時における高齢者・母子・障がい者への保健活動. 令和 5 年度特別区専門研修地域保健, オンライン, 2023 年 10 月 12 日.
134. 宮崎美砂子: 事業・施策の展開における管理者のあり方. 令和 5 年度 リーダー保健師・統括保健師研修会, オンライン, 2023 年 10 月 26 日.
135. 宮崎美砂子: 事業・施策の展開における管理者のあり方. 令和 5 年度宮崎市スキルアップ研修, オンライン, 2023 年 11 月 24 日.
136. 宮崎美砂子: これからの保健師に期待すること～災害時の保健活動拠点(県・保健所・市町村)における体制・対応及び連携について～. 令和 5 年度宮崎県中堅保健師研修. オンライン, 2023 年 11 月 25 日.
137. 宮崎美砂子: 災害時の保健活動～発災後 1 週間～1 か月に焦点をあてて～. 令和 5 年度香取保健所管内研究会, 香取市, 2023 年 11 月 30 日.
138. 宮崎美砂子: 災害時保健活動において求められるスタッフ保健師の役割～フェーズ 0～1 の初動に焦点をあてて～. 愛知県令和 5 年度災害時保健活動研修会, 名古屋市, 2023 年 12 月 14 日.

139. 宮崎美砂子: 災害時の初動と受援の体制づくり. 令和 5 年度厚木保健所管内研究会, オンライン, 2023 年 12 月 21 日.
140. 宮崎美砂子: 災害時を見据えた平時からの保健活動. 令和 5 年度安房保健所管内研究会, 館山, 2023 年 12 月 22 日.
141. 石丸美奈, 岩瀬靖子, 佐藤太一: 健康長寿とコミュニケーション. 令和 5 年度東千葉住民フォーラム, 千葉市, 2024 年 3 月 9 日.
142. 石垣和子, 石丸美奈: 日本文化型看護学への序章から次章へ. 文化看護学会第 16 回学術集会前夜祭セミナー(研修会). 京都市, 2024 年 3 月 16 日.

文化看護学

〔原著〕

1. 飛世真理子, 齊藤可紗, 齊藤しのぶ (2023). 看護基礎教育における無菌操作技術の習得に微粒子可視化システムがもたらす学習効果. 日本シミュレーション医療教育学会誌, 11, 34-42. 6 月.

〔論文等(査読あり)〕

2. 河部房子, 齊藤しのぶ, 和住淑子, 栗原幸子, 林恵理子, 山岸仁美 (2023). 看護シミュレーション教育の評価の現状－模擬患者を活用した看護演習の教育評価に関する国内外の文献検討より－. 日本看護シミュレーションラーニング学会誌, 1, 2-11. 8 月.

〔単行書〕

3. Tobise, M. (2023). Development of educational programs for infection prevention techniques in basic nursing education and verification of learning effects. *Impact*, 2023(3), 12-14. <https://doi.org/10.21820/23987073.2023.3.12> 9 月
4. 田中しのぶ, 橋内伸介: 8 章 家族対応, PICS ラウンド, 8-2ICU 日記の実際. 坂本哲也, 黒田泰弘 (監修), 一二三亭, 井上明彦(編), ECPR: そのコツとなぜ? メディカル・サイエンス・インターナショナル 17-20, 2023. 11 月.

〔学会発表抄録〕

5. Tobise, M., Saito, S., & Saito, A. (2023, July 1-5). *The Significance of Using a Microparticle Visualization System for Students Learning Infection Prevention Techniques*. ICN Congress 2023, Montreal, Canada. 7 月.
6. Nyamadzawo, A., Okada, S., Nishio, J., Inuyama, A., Iida, K., Yumoto A, Yu W. & Suwa S. (2023, July 1-5). *Considering Requirements for Implementing Autonomous Robots in Nursing Homes*. ICN Congress 2023, Montreal, Canada. 7 月
7. Nyamadzawo, A., Ogawa, T., Okada, S., & Nishio, J. (2023, July 1-5). *Oxidative Stress as a Marker of Diabetic Foot Ulcer Severity: a Case-Series Study*. ICN Congress 2023, Montreal, Canada. 7 月.
8. 岡田忍, 西尾淳子, ニヤマザオ・アモス, 犬山彩乃, 飯田貴映子, 湯本晶代, 諏訪さゆり (2023). 高齢者施設における自走式消毒ロボット導入の検討. 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会・抄録集, 86. 7 月.
9. 飛世真理子 (2023). 看護基礎教育における無菌操作技術の習得に微粒子可視化システムがもたらす学習効果の検討. 日本看護研究学会第 49 回学術集会講演集, 186. 8 月.
10. 佐野元洋, 佐伯昌俊, 犬山彩乃, 前原邦江, 飯田貴映子, 仲井あや, 齊藤可紗, 齊藤しのぶ (2023). 周術期実習における高機能シミュレーターを使用した演習の効果と課題. 千葉看護学会第 29 回学術集会講演集, 27. 9 月.
11. 飛世真理子 (2023). ナイチンゲールに学ぶ感染対策－第 1 章「換気と保温」・第 11 章「からだの清潔」の読み取りを通して－. 第 43 回ナイチンゲール研究学会講演集, 1-4. 10 月.

12. 河野聡子, 斉藤しのぶ, 飛世真理子, 齊藤可紗 (2023). Virtual Reality 技術を用いた看護基本技術学習の効果－体位変換 VR 教材の有効性評価と課題の抽出. 第 11 回 日本シミュレーション医療教育学会, 33. 10 月.
13. 鈴木未沙, 青木悠, 窪田葉月, 森泰子, 中尾勇祐, 岡麻里奈, 橋内伸介, 加藤佐知子, 梅原直, 小澤美和 (2023). 救急外来でわが子の死を経験する家族へのケアの質向上を目指して ～多職種協働からうまれた家族ケア指針～. 25 回日本救急看護学会学術集会, O3-4. 11 月.
14. 曾我あゆみ, 橋内伸介, 柳澤八恵子, 中尾勇祐, 田中しのぶ, 蛇口貴佳子, 加藤佐知子 (2023). COVID-19 を乗り越えた看護師の自己評価に関する研究～持続可能な救急看護のための問題提起～. 25 回日本救急看護学会学術集会, O23-04. 11 月.
15. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果－看護系大学教員としての能力の変化より－. 第 43 回日本看護科学学会学術集会講演集, O6-2. 12 月.
16. 飛世真理子, 齊藤可紗, 西尾淳子, ニヤマザオ・アモス, 斉藤しのぶ (2023). 医療職者の感染予防行動の実態調査. 第 43 回日本看護科学学会学術集会講演集, O6-5. 12 月.
17. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の効果－研修前後のコンピテンションの変化より－. 第 43 回日本看護科学学会学術集会講演集, O23-4. 12 月.
18. 池田結, 斉藤しのぶ (2023). 看護過程展開の学習の初期段階にある学生が看護計画立案の際に描く患者像の特徴と健康観との関連. 第 43 回日本看護科学学会学術集会講演集, O35-2. 12 月.
19. 齊藤可紗, 犬山彩乃, 佐伯昌俊, 飯田貴映子, 佐野元洋, 仲井あや, 前原邦江, 斉藤しのぶ (2023). DX 技術を活用したシミュレーション演習による看護基本技術修得の効果. 第 43 回日本看護科学学会学術集会講演集, P28-17. 12 月.
20. 金森正悟, 眞鍋佳嗣, 矢田紀子, 齊藤可紗, 飛世真理子, 斉藤しのぶ (2023). モデル人形を使った看護教育 MR システムの検討. 映像情報メディア学会 2023 年冬季大会, 12C-7. 12 月.
21. 島津かおり, 島野奨大, 白崎加純, 村上学, 一二三亨, 田村富美子, 橋内伸介, 大谷典夫 (2024). 当院における PICS 予防・ケアを目的とした退室後訪問及び ICU ダイアリーからみえた現状と課題. 第 51 回日本集中治療医学会学術集会. (印刷中) 3 月.
22. 白崎加純, 一二三亨, 矢花瑠理子, 中尾勇祐, 島津かおり, 田中しのぶ, 橋内伸介, 柳澤八重子, 大谷典生 (2024). 患者および患者家族に対する ICU 日記の有用性と退室後フォローアップにおける問題点. 第 51 回日本集中治療医学会学術集会. (印刷中) 3 月.
23. Tobise, M. (2024, March 6-7). *Actual circumstances of infection prevention behaviors prioritized by Japanese nurses*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024, Hong Kong (In print) 3 月.
24. Tobise, M. (2024, March 6-7). *Factors affecting infection prevention behaviors perceived by Japanese healthcare professionals*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024, Hong Kong (In print) 3 月.
25. Sunakawa, M. (2024, March 6-7). *Literature review on evaluation of students' assessment in nursing process*. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars 2024, Hong Kong (In print) 3 月.

〔シンポジウム・招聘講演〕

26. 斉藤しのぶ (2023). 看護薬理学カンファレンス 2023in 神戸シンポジウム I: 看護学生の看護過程展開における薬理学知識の適用の実際と課題. 看護薬理学カンファレンス 2023in 神戸 抄録集, S1-3. https://doi.org/10.34597/npc.2023.2.0_S1-3

専門職育成学

〔原著〕

1. 山下喬之, 平原大助, 下井俊典 (2023). Virtual Reality の臨場感がもたらす多職種連携教育の可能性 専門職養成課程における VR を用いた具体的教育方略の考案. 理学療法教育, 3(1), 19-27. (2023, 4)
2. Kohara, I., Fujiwara, N., Tamaki, S., Nakahama, H., Nosaki, A., Hosoya, M., Yabuki, M., Yamamoto, M., Kojima, C., & Fujiwara, K. (2023). Development of a Japanese Scale that Evaluates the Level of Nursing Support Provided to Patients for Decision-Making in Cancer Clinical Trials. Journal of cancer education. *the official journal of the American Association for Cancer Education*. 10.1007/s13187-023-02297-6
3. 野崎章子, 野地有子 (2023). 在日ブラジル人の東日本大震災の経験と心理的影響に関する記述的研究. Health Sciences. 39(2), 33-42.
4. Amai, K. (2023). The three-year trajectory of students' school adaptation in secondary school and its longitudinal associations with trust, prospects, and positivity towards stress. *International Journal of Adolescence and Youth*, 28(1). <https://doi.org/10.1080/02673843.2023.2242485>
5. 中山登志子, 舟島なをみ (2023). 看護系大学院の修士論文指導に携わる教員の研究指導経験の概念化. 日本看護研究学会雑誌, 46(2), 189-199.
6. 中山登志子, 舟島なをみ (2023). 「問題診断尺度－看護学研究(修士論文)指導用－」の開発－研究指導の質向上に向けて－. 日本看護学教育学会誌, 33(2-2), 69-80.
7. 伊勢根尚美, 中山登志子, 舟島なをみ (2024). 実習指導役割自己評価尺度－病棟看護師用－を用いた自己評価の有効性の検証. 看護教育学研究, 33(1), 51-64.
8. 植田満美子, 中山登志子, 舟島なをみ, 上國料美香, 横山京子 (2024). 「患者安全のための医療事故防止能力自己評価尺度－手術室看護師用－」の開発. 看護教育学研究, 33(1), 65-78.
9. 山下暢子, 舟島なをみ, 松田安弘, 中山登志子 (2024). 大学院修士課程に在籍する学生が研究指導の良否を決定づける基準. 看護教育学研究, 33(1). 23-37.

〔報告書〕

10. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 天井響子, 下井俊典, 孫佳茹, 富永嘉子, 高野佳奈 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 5 年度事業報告書, 2023.
11. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 高野佳奈: グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 Global & Regional Interprofessional Education Plus(GRIP) 年次報告書 2022. 令和 5 年, 2023.

〔単行書〕

12. 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美(編): これからの IPE(専門職連携教育)ガイドブック. 南江堂, 2023.
13. 中山登志子, 植田満美子, 泉澤清枝, 川俣優子: 看護教育学のススメ vol.4. 千葉大学大学院. 看護教育, 64(6), 776-779, 医学書院, 2023.
14. 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子(編): 最新公衆衛生学, 井出成美: 第 3 章公衆衛生看護活動の展開方法論Ⅳ, 地域ケア体制づくり 3. 地域づくり・まちづくり 2)地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり. 日本看護協会出版会, 2024.
15. 舟島なをみ, 中山登志子, 上國料美香, 服部美香, 鈴木美和, 松田安弘, 宮芝智子, 山下暢子, 山澄直美, 永野光子, 伊勢根尚美, 植田満美子, 金谷悦子: 看護実践・教育のための測定用具ファイル 第 4 版. 医学書院, 2024.

〔学会発表抄録〕

16. Shimoi, T., Takano, Y., Hamachi, N. (2023). Relations Between Conceptions of Learning and Motivation in First-year Physical Therapy Students in Japan. World Physiotherapy Congress

2023, Dubai, UAE, 2-4 June 2023.

17. 菊池信示郎, 森内加奈恵, 野崎章子 (2023, 6. 22). NDB オープンデータを活用した日本における精神科退院前訪問看護の現状. 第 119 回日本精神神経学会学術総会. (査読あり・国内学会)
18. 植田満美子, 中山登志子, 舟島なをみ, 上國料美香, 横山京子 (2023, 8. 19). 「患者安全のための医療事故防止能力自己評価尺度—手術室看護師用—」の開発. 看護教育学研究 (日本看護教育学学会第 32 回学術集会講演集), 32(2), 10-11. (査読あり・国内学会)
19. 須藤栞, 中山登志子 (2023, 8. 19). 学習ニード充足に向けたアセスメントツールと学習ガイドの開発—手術看護に携わる看護師に焦点を当てて—. 看護教育学研究(日本看護教育学学会第 32 回学術集会講演集), 32(2), 14-15. (査読あり・国内学会)
20. 西村多寿子, 石橋みゆき, 池崎澄江, 中山登志子 (2023, 8. 26-27). 看護英語教育の新しい形—「やさしい日本語」+「英語 4 技能の向上」で外国人患者対応力を育む—. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡. (査読あり・国内学会)
21. 松田安弘, 舟島なをみ, 山下暢子, 中山登志子 (2023, 8. 26-27). 「研究指導過程評価スケール—看護系大学院修士課程用—」の開発. 日本看護学教育学会第 33 回学術集会, 福岡. (査読あり・国内学会)
22. Casenove, D., (2023, 10. 8-9). New international layout for the newsletter [Conference presentation]. Chaetognath Research Group, Numazu, Japan. (査読あり・国際学会(国内))
23. Moriuchi, K., Nishiyama, I., Ogawa, S., Nosaki, A. (2023, 10. 13). Effects of inpatient family-based treatment for Anorexia Nervosa using data-sharing with families: A single-case design. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
24. Nosaki, A., Moriuchi, K., & Kohara, I. (2023, 10. 13). Developing Guidelines to Support Pandemic-Resilient Community Living for People with Mental Health Problems in Japan: A Project Agenda. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
25. Yai, M., Nosaki, A., Moriuchi, K. (2023, 10. 13). A Scoping Review Protocol on the Practice of Trauma-Informed Approaches in Japan: Toward Dissemination and Practice Improvement. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
26. Noji, A., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kamishima, S., Okamoto, M. (2023, November 2-3). Dissemination and utilization of internationalization guidelines for hospitals and nursing in Japan: evaluation study development with reference to the U.S. National Standards Evaluation Study for Culturally and Linguistically Appropriate Services. INC2023, South Korea. (査読あり・国際学会(海外))
27. Amai, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., Sakai, I. (2023, November 6-8). GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health, Doha, Qatar. (査読あり・国際学会(海外))
28. 森内加奈恵, 西山育愛, 小川紗央里, 野崎章子 (2023, 11. 17). 精神科病棟における神経性やせ症の家族療法(FBT)の有効性 ケースシリーズ. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
29. 原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵 (2023, 11, 17). 特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
30. 齋藤伊織, 野崎章子, 森内加奈恵 (2023, 11. 17). 日本の「マインドフルネス」の臨床実践に関するスコーピングレビュー: 看護の視点から. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
31. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ, 飯野理恵, 平田慎之介, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step1 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 37. (査読あり・国内学会)
32. 下井俊典, 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁

- 子 (2023, 11. 26). 低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価の変化ー千葉大学亥鼻 IPE-Step1-2 の開講形式のパターン別分析. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 38. (査読あり・国内学会)
33. 孫佳茹, 下井俊典, 井出成美, 臼井いづみ, 関根祐子, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 笠井大, 酒井郁子 (2023). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響ー千葉大学亥鼻 IPE-Step2 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 39. (査読あり・国内学会)
34. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 下井俊典, 笠井大, 酒井郁子 (2023, 11. 26). 看護学部のカリキュラム改変が IPE 受講学生に与えた効果ー学生の記述の分析から. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 40. (査読あり・国内学会)
35. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき, 朝比奈真由美, 山内かづ代, 関根祐子 (2023, 11. 26). グローバル IPE “グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成” GRIP プログラム 2022 年度実践報告. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 70. (査読あり・国内学会)
36. 上國料美香, 舟島なをみ, 中山登志子, 植田満美子, 横山京子 (2023, 12. 9). 「患者安全のための医療事故防止能力自己評価尺度ーICU 看護師用ー」の開発. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
37. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 眞嶋朋子, 中山登志子 (2023, 12. 9). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果ー看護系大学教員としての能力の変化よりー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
38. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023, 12. 9). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の効果ー研修前後のコンピテンシーの変化よりー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
39. 竇田真希*, 中山登志子, 植田満美子 (2023, 12. 10). 看護学実習の教授活動における実習指導者との連携に伴い看護学教員が直面する困難の解明. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
- *博士前期課程修了
40. 山澄直美, 舟島なをみ, 中山登志子 (2023, 12. 10). 院内研修評価モデル運用上の課題の解明ーその洗練と実用化に向けてー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
41. 横山京子, 舟島なをみ, 中山登志子, 植田満美子, 上國料美香 (2023, 12. 10). 「患者安全のための医療事故防止能力自己評価尺度ー小児看護師用ー」の開発. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 下関. (査読あり・国内学会)
42. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原紀子, 吉村健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024, 2. 4-5). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発ーがん専門病院の看護師に対する実施評価有用性ー. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
43. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原紀子, 吉村健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024, 2. 4-5). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加したがん専門病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
44. 矢吹みどり, 玉木秀子, 山本真由美, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024, 2. 4-5). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発ー大学病院の看護師に対する実施評価. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
45. 山本真由美, 玉木秀子, 矢吹みどり, 野崎章子, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024, 2. 4-5). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加した開発ー大学病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術

集会。(査読あり・国内学会)

46. 天井響子, 江見桐子, 塚越菜緒子, 楊柳薔, Tan Yi Ning (2024, 3. 6). 「誰にも頼れない」と感じていた中高生が安心して頼れる友人を得る過程で何が起こったか複線径路等至性モデリングを用いた時系列の語り分析. 日本発達心理学会第 35 回大会.(査読あり・国内学会)

〔シンポジウム・招聘講演〕

47. 井出成美 (2023, 6. 16). 日本老年看護学会学術集会教育セミナー いまさら聞けない IPE のこと 老年看護学との接点 看護学系教育機関における IPE の授業設計.
48. 中山登志子 (2023, 7. 1). 第 16 回全国看護管理・教育地域ケアシステム学会 基調講演. 地域の看護を支える看護専門職者の育成 ―看護学実習に携わる教員, 実習指導者, 学生に焦点をあてて―.
49. Shimoi, T. (2023, 7. 27). Interprofessional Education in Japan. Semahat Arsel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC), Interprofessional Education Workshop.
50. 井出成美 (2023, 7. 29). 学会連携企画 2 モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計 基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPE の哲学に基づく学習到達目標と学習方法. 第 55 回日本医学教育学会, 54(suppl), 147.
51. 中山登志子 (2023, 8. 19). 日本看護教育学会第 32 回学術集会 基調講演. 看護卒後教育研究への着手と継続―研究指導の質向上を目指して―. 看護教育学研究, 31(2), 4-5.
52. 孫佳茹: 岩内町郷土館第三回企画展「岩内少年団下田豊松の功績」シンポジウム『少年団日本連盟設立「100 周年+1 年」企画―初代チーフ・スカウト下田豊松のスカウト運動と岩内少年団―』. 下田豊松と第一回世界ジャンボリー.
53. 天井響子 (2023, 9. 15). 日本心理学会第 87 回大会公募シンポジウム. 援助要請研究の新たな方向性 悩みや問題を認識していない非援助要請者の研究と支援, 日本心理学会第 87 回大会.
54. Amai, K. (2023). Adolescents' mental health problems, teacher support, and school adaptation: A qualitative analysis based on the Trajectory Equifinality Model. Washington State Association of School Psychologists 2023 Fall Conference, 2023 October. (招聘講演)
55. 下井俊典 (2023, 11. 26). 日本保健医療福祉連携 IPE パネルディスカッション 私が実践している多職種連携教育～うまくいっていること, 困っていること～. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 18.
56. 下井俊典 (2023, 12. 9). 日本理学療法教育学会学術大会 教育講演 「学習科学を基にした多職種連携教育―IPE の実装例から考えるインストラクショナル・デザイナー」.

〔受賞(国内・国外)〕

57. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞(国内)
専門職連携教育研究センター (2023). 看護学研究院附属専門職連携教育研究センターの活動. (R5.11/26)
58. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会ポスター賞(国内)
原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵 (2023). 特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究.

〔その他〕(講師名・研修名(セミナー名). 講義タイトル)

59. 下井俊典: 岐阜大学大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程授業. IPC に必要な社会心理学理論と IPE に必要な学習理論. (オンライン)
60. 下井俊典: 公益財団法人テクノエイド協会 福祉用具プランナー管理指導者養成研修. 医学一般専門職の役割と連携・協働のあり方.
61. 天井響子: 市川市教育委員会 養護教諭夏季研修会. 他者に助けを求めない子どもの心の理解と支援.
62. 野崎章子 (2023, 7. 10). 国際保健と看護―多文化社会とヘルスケア―. 茨城県立龍ヶ崎第一高等学校模擬講義.

63. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ: 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター 特定行為研修. チーム医療 多職種協働 演習.
64. 孫佳茹 (2023, 8. 8): スカウティング研究フォーラム. 台湾におけるスカウト運動の現状. (オンライン)
65. 下井俊典 (2023, 8. 23-24): 全国視能訓練士学校協会第 16 回教員研修会. 学生を「巻き込む」授業をどう作るのかー教育設計理論に基づいた授業の設計ー.
66. 孫佳茹 (2023, 8. 23-25): 群馬大学大学院 第 10 回群馬大学 IPE トレーニング 2023: 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース. (オンライン)
67. 井出成美 (2023, 8. 28): 静岡県看護協会 専任教員養成講習会. 看護教育方法論 専門職連携教育「専門職連携教育の基礎知識」.
68. 井出成美 (2023, 8. 28): 静岡県看護協会 専任教員養成講習会. 看護教育方法論 専門職連携教育「カリキュラムへの実装, IPE の教育事例・教育効果」.
69. 井出成美: IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. 対立の解決のためのストラテジー.
70. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023, 10. 10): IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①. 職種間の理解. (オンライン)
71. 下井俊典, 笠井大: 岐阜大学・岐阜薬科大学・平成医療短期大学・岐阜市立女子短期大学・朝日大学・朝日大学歯科衛生士専門学校共同授業. 多職種メディカルケアチーム医療教育(MMeCTE)』. (オンライン)
72. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ: IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②. チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン)
73. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ: 令和 5 年度 新規採用者研修(年度中途採用者向け). 専門職連携(IPW). (学内)
74. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹: IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③. チームワークの促進スキル. (オンライン)
75. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹: 千葉県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル ヘルスケアシステム論Ⅱ. ヘルスケアサービスにおける多職種連携.
76. 井出成美: IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. 授業開発 インストラクショナルデザインと授業設計. (オンライン)
77. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ: IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④. 多職種カンファレンス. (オンライン)
78. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ: IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤. 対立の解決. (オンライン)
79. 孫佳茹: 北京師範大学・オンライン絵本講座. (オンライン)
80. 下井俊典: 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修. カンファレンスの基本動作.
81. 井出成美: 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修. 仕事におけるコミュニケーションー効果的な情報伝達スキル ISBARー.
82. 孫佳茹: 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修. アイスブレイク 私の仕事紹介.
83. Casenove, D.: Students and faculty members consultations for submitting abstracts, posters, and articles for publication.
84. Casenove, D.: Support for seven 4th-year-undergraduate students to submit abstracts for poster presentation at the 13th Hong Kong International Nursing Forum.
85. 中山登志子 (2023, 6. 3): イムス医療従事者生涯教育センター 認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修 人材管理Ⅰ「人事育成の基礎知識」. (対面)
86. 中山登志子 (2023, 8. 17): 岡山県看護協会教育研修 保健師助産師看護師実習指導者講習会 実習指導原理と評価(総論). (オンライン)

87. 中山登志子 (2023, 9. 8): 札幌市立大学大学院講義「継続教育特論」.(オンライン)
88. 植田満美子 (2023, 11. 10): 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻講義「成人看護学「運動器疾患をもつ患者の看護」」.(オンライン)
89. 中山登志子 (2023, 11. 23-27): イムス医療従事者生涯教育センター イムス実習指導者講習会教育評価.(対面)
90. 下井俊典: (2024, 3. 29): 令和健康科学大学 専門職連携教育Ⅲ研修会「IPEにおける教員(教育者)の役割とその背景理論」(オンライン)

看護政策・管理学

〔原著〕

1. 和住淑子, 平山公美子, 阪井和男 (2023). 「生きる力」の自覚と発揮を促す不調自覚の緩和モデル: 少標本で過剰指標をもつデータから因果推定する. 次世代研究, No.3, 7-28.

〔論文等(査読あり)〕

〔論文等(査読なし)〕

2. 手島恵 (2023). 国際女性デージェンダー平等. 日本看護協会機関誌 看護, 75(6). 53.
3. 手島恵 (2023). 第21回アジアワークフォースフォーラム(AWFF). 看護協会機関誌 看護, 75(7). 57.
4. 手島恵 (2023). 第29回ICN大会の開催. 日本看護協会機関誌 看護, 75(12). 53.

〔報告書〕

5. 杉田由加里, 鈴木悟子, 齋藤良行, 田原康玄, 赤松利恵, 中山健夫: 特定健康診査後の保健指導・保健事業に関する実態調査. 令和4年度厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「特定健康診査および特定保健指導における問診項目の妥当性検証と新たな問診項目の開発研究」分担研究報告書, 2023.
6. 和住淑子, 眞嶋朋子, 中山登志子, 黒田久美子, 錢淑君, 斉藤しのぶ, 飯野理恵, 高木夏恵, 仲井あや, 島田陽子: 看護におけるイノベーションが可能な人材育成にむけた教育の方向性を探る. 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター 令和5年度看護学教育シンポジウム+webセミナー報告書, 2024.
7. 和住淑子, 眞嶋朋子, 中山登志子, 黒田久美子, 錢淑君, 斉藤しのぶ, 飯野理恵, 高木夏恵, 仲井あや, 島田陽子: 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター年報 No.41(令和5年度号), 2024.

〔単行書〕

8. 井部俊子, 手島恵 (2023). 人材管理論(看護管理学習テキスト)日本看護協会出版会.
9. 手島恵 (2023). 主体性を高めチームを活性化する! 看護のためのポジティブ・マネジメント 第2版増補版 医学書院.
10. シンシア・M. クラーク (原著), 手島恵 (翻訳). 礼節のコア・コンピテンシー ― ケアするすべての人へ. 日本看護協会出版会.
11. 杉田由加里: 研究方法をみてみよう質的研究. 小林美亜(編), 看護研究, Gakken, 56-68, 2023.

〔学会発表抄録〕

12. 内田智栄, 加藤恵里子, 手島恵 (2023). 新人看護師の教育体制に関する取り組み, 第27回日本看護管理学会学術集会抄録集, 45. (査読あり・国内学会)
13. 嶽肩美和子, 手島恵 (2023). People Centered Careの実現に向けた看護実践の強化. 第27回日本看護管理学会学術集会抄録集, 47. (査読あり・国内学会)
14. 木村美詠, 手島恵 (2023). 急性期病院における看護師長と主任看護師が協働して成長する支援シ

- システムの構築. 第 27 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 50. (査読あり・国内学会)
15. 宇野光子, 下左近寿美, 相馬光代, 松田美智子, 武村雪絵, 手島恵 (2023). 国立大学病院における次世代の看護管理を担う副看護師長の育成. 第 27 回日本看護管理学会学術集会抄録集, 57. (査読あり・国内学会)
 16. 森美香子, 手島恵 (2023). 地域における高齢者の看取りに応える訪問看護ステーションの機能強化と評価. 64. (査読あり・国内学会)
 17. 飯塚貴美*, 杉田由加里 (2023). DPC 対象病院における消化器外科患者の退院支援体制の再構築. 第 27 回日本看護管理学会学術集会 [O20-3], 東京.
*博士前期課程修了
 18. 杉田由加里, 鈴木悟子, 齋藤良行, 田原康玄, 赤松利恵, 中山健夫 (2023). 詳細な質問項目を用いた特定保健指導の問診票の実態. 日本地域看護学会第 26 回学術集会プログラム集, 209.
 19. 鈴木悟子, 杉田由加里, 齋藤良行, 中山健夫, 田原康玄, 赤松利恵 (2023). 特定健康診査後の保健事業の実態調査(第 1 報)ー特定保健指導の終了率向上への取組ー. 第 82 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 388.
 20. 杉田由加里, 鈴木悟子, 齋藤良行, 中山健夫, 田原康玄, 赤松利恵 (2023). 特定健康診査後の保健事業の実態調査(第 2 報)ー前期高齢者対象の特定保健指導ー. 第 82 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 388.
 21. 齋藤良行, 中山健夫, 杉田由加里, 鈴木悟子, 田原康玄, 赤松利恵 (2023). 特定健康診査後の保健事業の実態調査(第 3 報)ー特定保健指導以外の保健事業ー. 第 82 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 388.
 22. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ, 飯野理恵, 平田慎之介, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響ー千葉大学亥鼻 IPE-Step1 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 37.
 23. 下井俊典, 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023). 低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価の変化ー千葉大学亥鼻 IPE- Step1-2 の開講形式のパターン別分析. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 38.
 24. 孫佳茹, 下井俊典, 井出成美, 臼井いづみ, 関根祐子, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 笠井大, 酒井郁子 (2023). IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響ー千葉大学亥鼻 IPE-Step2 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 39.
 25. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 下井俊典, 笠井大, 酒井郁子 (2023): 看護学部のカリキュラム改変が IPE 受講学生に与えた効果ー学生の記述の分析から. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 40.
 26. 杉田由加里, 鈴木悟子 (2024). 特定保健指導に係る記録に関する実態調査, 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集, 298.
 27. Yoshihiro Ogawa, Yoshiko Wazumi (2024, March 6-7). *Possibilities and Future Prospects in Solving Psychiatric Nurses' Dilemmas through The Objective Analysis of Nursing Scenes*, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference, Hong Kong, China.
 28. Akushi Kajiwara, Shu Chun Chien (2024, March 6-7). Comparing the Advance Care Planning developmental differences between Japan and foreign countries, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference, Hong Kong, China.
 29. 高木夏恵, 飯野理恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023). 看護管理者を対象とした課題解決型オンライン研修の効果ー研修前後のコンピテンシーの変化よりー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 山口.
 30. 飯野理恵, 高木夏恵, 池崎澄江, 和住淑子, 黒田久美子, 斉藤しのぶ, 錢淑君, 仲井あや, 中山登志子, 眞嶋朋子 (2023). 看護系大学教員を対象とした課題解決型オンライン研修の効果ー看護系大学教員としての能力の変化よりー. 第 43 回日本看護科学学会学術集会, 山口.

〔シンポジウム・招聘講演〕

31. 手島恵 (2023). 基調講演 新しいICNの倫理綱領：看護職の社会声明として 日本看護倫理学会 第16回年次大会. 日本看護倫理学会年次大会抄録集, 16. 39.
32. 手島恵 (2023). 基調講演 看護管理者が元気にあるポジティブ・マネジメント 2023年第1回認定看護管理者会北海道ブロック・東北ブロック合同研修会.
33. 手島恵 (2023). 激動する世界, 変化する環境の中で研究者はどのように研究に向き合うか? 第22回 JANS セミナー. 日本看護科学学会.
34. 手島恵 (2023). 基調講演 時代からの問いー私たちが向かうべき方向. WHO Global Strategic Direction for Nursing and Midwifery 2021-2025. 第27回日本看護管理学会学術集会, 22.
35. 手島恵 (2023). 特別講演 SDGs とこれからの看護 令和5年度長崎県看護学会学術集会 長崎県看護協会.
36. 手島恵 (2023). 講特別講演 2: 協働の基盤となる信頼・共感についてー倫理の視点からー 第28回聖路加看護学会学術大会. (オンデマンド)
37. 手島恵 (2023). 教育講演 1 看護における Positive Management. 第54回日本看護学会学術集会.
38. 手島恵 (2023). 講演 WHO の看護・助産の方向性と世界の高度実践看護師の同行 将来に向けた高度実践看護師への期待ー高度実践看護師の新たな挑戦にむけて 聖路加看護学会.
39. 手島恵 (2023) No.4 看護職に必要な社会的責務と制度を学ぼうー安心して看護ケアを行うために法令に基づいた行動を知ろうー公益社団法人岐阜県看護協会.
40. Teshima, M. (2024). Pannel, Nurses' Voices Speaker Series' (NVSS)ー'Nurse's Voices from the Western Hemisph, Global Nightingale Institute, Yorku University, Canada, Feb 13, 2024.
41. 手島恵 (2023). 特別講演 あなたの強みを活かしたいいきと働くために. 宮崎県看護研究学会.
42. 杉田由加里 (2023). 標準的な健診・保健指導プログラムの保健指導に関する主な変更点. 第82回日本公衆衛生学会総会抄録集, 137.
43. 島田陽子 (2023). 第41回千葉県看護研究学会 特別講演: 看護にしなやかな発想と創造を.
44. 島田陽子 (2023). 第27回日本看護管理学会学術集会 インフォメーションエクステンジ講演: 保健・医療・福祉政策の動向を上手に把握し, 活用する.
45. 島田陽子, 寛敦夫, 井部俊子, 上泉和子, 鶴田恵子 (2023). 第61回日本医療・病院管理学会学術総会 スポンサーセッション: どうする看護と建築.

〔その他〕

46. 手島恵 (2023). モデレーター 西太平洋地域会議(日本看護協会・国際看護師協会共催)日本看護協会.
47. 杉田由加里: 令和5年度愛媛県リーダー保健師育成研修会. 本研修の背景、目的・目標、リフレクション.
48. 杉田由加里: 令和5年度岐阜県特定健診・特定保健指導実践者研修会. 特定健診・特定保健指導事業の運営ー保健指導の質向上に向けた保健事業を目指してー.
49. 杉田由加里: 令和5年度千葉県特定健診・特定保健指導リーダー専門職研修. 特定保健指導事業の運営ー保健指導の質向上に向けた保健事業を目指してー.
50. 杉田由加里: 令和5年度千葉県保健師管理者能力育成研修. 保健師管理者に必要な機能と能力.
51. 杉田由加里: 令和5年度千葉県保健活動業務研究発表会. 業務研究を活用して実践活動の質を高めるには.
52. 杉田由加里: 令和5年度全国健康保険協会保健師等ブロック研修. 第4期特定健診・特定保健指導事業の実施ー効果の高い保健指導を目指してー.
53. 飯野理恵: 令和5年度千葉県新任保健師研修会. 保健師活動の基本.
54. 飯野理恵: 令和5年度第2回長生管内保健師業務連絡研究会. 災害時保健活動の基本ー避難所運営ゲーム HUG を通して学ぶー.
55. 飯野理恵: 令和5年度第3回松戸管内保健師業務連絡研究会. 事例検討の進め方.

56. 和住淑子, 眞嶋朋子, 中山登志子, 黒田久美子, 錢淑君, 斉藤しのぶ, 飯野理恵, 高木夏恵, 仲井あや, 島田陽子: 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター令和5年度看護系大学教員向け課題解決型研修報告集, 2024.
57. 和住淑子, 眞嶋朋子, 中山登志子, 黒田久美子, 錢淑君, 斉藤しのぶ, 飯野理恵, 高木夏恵, 仲井あや, 島田陽子: 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター令和5年度看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修報告集, 2024.
58. 杉田由加里: 千葉市保健活動業務研究サポート, 令和5年度千葉県保健活動業務研究集録, 2024.
59. 飯野理恵: 千葉市保健活動業務研究サポート, 令和5年度千葉県保健活動業務研究集録, 2024.

看護学研究院附属専門職連携教育研究センター

〔原著〕

1. 山下喬之, 平原大助, 下井俊典 (2023). Virtual Reality の臨場感がもたらす多職種連携教育の可能性 専門職養成課程における VR を用いた具体的教育方略の考案. 理学療法教育, 3(1), 19-27.
2. Kohara, I., Fujiwara, N., Tamaki, S., Nakahama, H., Nosaki, A., Hosoya, M., Yabuki, M., Yamamoto, M., Kojima, C., & Fujiwara, K. (2023). Development of a Japanese Scale that Evaluates the Level of Nursing Support Provided to Patients for Decision-Making in Cancer Clinical Trials. *Journal of cancer education. the official journal of the American Association for Cancer Education*. 10.1007/s13187-023-02297-6
3. 野崎章子, 野地有子 (2023). 在日ブラジル人の東日本大震災の経験と心理的影響に関する記述的研究. *Health Sciences*. 39(2), 33-42.
4. 藤田冬子, 村松真澄, 辻村真由子, 黒河内仙奈, 伊藤裕佳, 福井小紀子, 酒井郁子 (2023). 特別養護老人ホーム入居者のエンドオブライフにおけるケアニーズの構造化. 老年看護学, 28(1), 62-71.
5. Amai, K. (2023). The three-year trajectory of students' school adaptation in secondary school and its longitudinal associations with trust, prospects, and positivity towards stress. *International Journal of Adolescence and Youth*, 28(1).2023.
<https://doi.org/10.1080/02673843.2023.2242485>
6. 山本武志, 佐伯昌俊, 西宮岳, 小松亮, 山本則子, 酒井郁子 (2023). 特定行為研修を修了した看護師の導入・配置に関わる要因 全国 300 床以上の病院の看護管理者を対象とした横断的研究. 日本看護管理学会誌(Web), 27(1), 61-70.
7. Saiki, M., Tomotaki, A., Fukahori, H., Yamamoto, T., Nishigaki, M., Yasuda, E., Matsuoka, C., & Sakai, I. (2023). Reliability and Validity of the Japanese version of the Implementation Leadership Scale for Nurse Managers and Staff Nurses. *Journal of Nursing Management*, DOI 10.1155/2023/4080434 (査読有, 国際誌)

〔論文等(査読あり)〕

8. 佐伯昌俊, 小松亮, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 急性期病院において複数の特定行為研修修了者の活動を支援する管理実践の要素 管理者へのインタビューによる質的研究. 日本看護管理学会誌, 27(1), 1-9.
9. Saiki, M., Nishimiya, G., Gotoh, T., Hirota, K., Sakai, I. (2023). Experiences and attitude of task shifting and task sharing of physicians, nurses, and nursing assistants in hospitals: a qualitative systematic review protocol. *JBIR Evidence Synthesis*, Ovid Technologies (Wolters Kluwer Health). DOI10.11124/jbies-23-00140.2023.11.27
10. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., Okumura-Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence-Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. *Nursing open*, 10(6), 3719-3727.
11. 松本暢平, 小野寺みさき, 朝比奈真由美, 酒井郁子, 伊藤彰一 (2023). 医学生の在学中のとりくみと知識・スキルの習得感・習得度との因果に関する構造方程式モデリングによる検討. 医学教育,

54(Suppl.), 279.

12. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura-Hiroshige, A. 2023 年度看護学研究賞 論文要旨: Factors Affecting the Critical Appraisal of Research Articles in Evidence-Based Practices by Advanced Practice Nurses. *A Descriptive Qualitative Study*. 日本私立看護系大学協会会報, 50, 14-15. 一般社団法人 日本私立看護系大学協会.

〔論文等(査読なし)〕

13. 酒井郁子 (2024). 特集 1 日本老年看護学会第 28 回学術集会: 会長講演 老年看護の Journey, 老年看護学 28(2), 5-8.
14. 酒井郁子 (2024). 12 プライマリ・ケアの理論と実践 第 191 回 2024 年に期待するプライマリ・ケア 【3】 . 日本医事新報, No.5211, 3(2).

〔報告書〕

15. 酒井郁子, 井出成美, 野崎章子, 天井響子, 下井俊典, 孫佳茹, 富永嘉子, 高野佳奈, 佐野朋子: 千葉大学大学院看護学研究院附属専門職連携教育研究センター令和 5 年度事業報告書, 2023.
16. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 高野佳奈: グローバル地域ケア IPE+創生人材の育成 Global & Regional Interprofessional Education Plus (GRIP) 年次報告書 2022 令和 5 年度, 2023.

〔単行書〕

17. 酒井郁子, 井出成美, 朝比奈真由美(編): これからの IPE(専門職連携教育)ガイドブック, 南江堂, 2023.
18. 宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子(編): 最新公衆衛生学, 井出成美: 第 3 章公衆衛生看護活動の展開方法論Ⅳ, 地域ケア体制づくり 3.地域づくり・まちづくり 2)地域住民の相互の助け合い強化によるまちづくり, 日本看護協会出版会, 2024.

〔学会発表抄録〕

19. Shimoi, T., Takano, Y., Hamachi, N. (2023). Relations Between Conceptions of Learning and Motivation in First-year Physical Therapy Students in Japan. World Physiotherapy Congress 2023, Dubai, UAE, 2-4 June 2023.
20. 相川理沙*, 西宮岳, 佐伯昌俊, 酒井郁子 (2023). 医療療養病棟において中心静脈栄養中の高齢者のコンフォートを促進する看護援助の効果ー特定行為を組み込んだ看護援助の患者にとっての意味を考えるー. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 218. (査読あり・国内学会)
*修士課程修了
21. 出穂麻智子*, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 (2023). 肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期看護の効果. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 219. (査読あり・国内学会)
*修士課程修了
22. 菊池信示郎, 森内加奈恵, 野崎章子 (2023). NDB オープンデータを活用した日本における精神科退院前訪問看護の現状. 第 119 回日本精神神経学会学術総会. (査読あり・国内学会)
23. Moriuchi, K., Nishiyama, I., Ogawa, S., & Nosaki, A. (2023). Effects of inpatient family-based treatment for Anorexia Nervosa using data-sharing with families: A single-case design. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
24. Nosaki, A., Moriuchi, K., & Kohara, I. (2023). Developing Guidelines to Support Pandemic-Resilient Community Living for People with Mental Health Problems in Japan: A Project Agenda. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
25. Yai, M., Nosaki, A., Moriuchi, K. (2023). A Scoping Review Protocol on the Practice of Trauma-Informed Approaches in Japan: Toward Dissemination and Practice Improvement. PRCP 2023. (査読あり・国際学会(海外))
26. Noji, A., Nosaki, A., Iijima, S., Mizobe, A., Kamishima, S., & Okamoto, M. (2023). Dissemination and utilization of internationalization guidelines for hospitals and nursing in Japan:

evaluation study development with reference to the U.S. National Standards Evaluation Study for Culturally and Linguistically Appropriate Services. INC2023, November 2,3 in South Korea. (査読あり・国際学会(海外))

27. Amari, K., Nosaki, A., Joshi, S. G., Pimpalekar, S., Ide, N., Sun, J., Sakai, I. (2023, November 6-8). *GRIP: Global & Regional Interprofessional Education Plus Program*. The 11th International Conference on Interprofessional Practice and Education, All Together Better Health, Doha, Qatar. (査読あり・国際学会(海外))
28. 森内加奈恵, 西山育愛, 小川紗央里, 野崎章子 (2023). 精神科病棟における神経性やせ症の家族療法(FBT)の有用性 ケースシリーズ, 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
29. 原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵 (2023). 特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究, 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
30. 齋藤伊織, 野崎章子, 森内加奈恵 (2023). 日本の「マインドフルネス」の臨床実践に関するスコopingレビュー: 看護の視点から. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会. (査読あり・国内学会)
31. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ, 飯野理恵, 平田慎之介, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023): IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step1 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 37. (査読あり・国内学会)
32. 下井俊典, 孫佳茹, 井出成美, 臼井いづみ, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 笠井大, 酒井郁子 (2023): 低年次 IPE プログラムにおける学習者のグループワークに対する自己評価の変化—千葉大学亥鼻 IPE- Step1-2 の開講形式のパターン別分析. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 38. (査読あり・国内学会)
33. 孫佳茹, 下井俊典, 井出成美, 臼井いづみ, 関根祐子, 朝比奈真由美, 飯野理恵, 笠井大, 酒井郁子 (2023): IPE プログラムの開講形式が学習者のグループワークに対する自己評価に与える影響—千葉大学亥鼻 IPE-Step2 における検討. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 39. (査読あり・国内学会)
34. 臼井いづみ, 井出成美, 孫佳茹, 飯野理恵, 関根祐子, 朝比奈真由美, 下井俊典, 笠井大, 酒井郁子 (2023): 看護学部のカリキュラム改変が IPE 受講学生に与えた効果 ～学生の記述の分析から. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 40. (査読あり・国内学会)
35. 酒井郁子, 野崎章子, 天井響子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 石橋みゆき, 朝比奈真由美, 山内かつ代, 関根祐子 (2023). グローバル IPE “グローバル地域ケア IPE+創成人材の育成” GRIP プログラム 2022 年度実践報告. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会, 70. (査読あり・国内学会) (11/26)
36. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原紀子, 吉村健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発—がん専門病院の看護師に対する実施評価有用性—. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
37. 小島千恵美, 中濱洋子, 藤原紀子, 吉村健一, 玉木秀子, 矢吹みどり, 山本真由美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加したがん専門病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
38. 矢吹みどり, 玉木秀子, 山本真由美, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 野崎章子, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発—大学病院の看護師に対する実施評価. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)
39. 山本真由美, 玉木秀子, 矢吹みどり, 野崎章子, 藤原紀子, 吉村健一, 中濱洋子, 小島千恵美, 田代志門, 藤原恵一, 小原泉 (2024). がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムに参加した開発—大学病院の看護師の学びの内容. 第 38 回日本がん看護学会学術集会. (査読あり・国内学会)

40. 天井響子, 江見桐子, 塚越菜緒子, 楊柳薈, Tan Yi Ning (2024). 「誰にも頼れない」と感じていた中高生が安心して頼れる友人を得る過程で何が起こったか複線径路等至性モデリングを用いた時系列の語り分析. 日本発達心理学会第 35 回大会. (査読あり・国内学会)
41. Saiki, M., Fujisawa, Y., Sakai, N., Tsukahara, N., Okamoto, Y., Sano, M., Kusunoki, J., Masujima, M., Sakai, I., Majima, T. (2024). Supports for Cancer Patients and Interprofessional Collaboration between Nurses, Physicians, and Pharmacists in Japan: A Descriptive Cross-Sectional Study.

〔シンポジウム・招聘講演〕

42. 酒井郁子 (2023, 4. 22). 柱 4・4「医療人の教育の現状と今後の在り方」特定行為研修は医療者教育の在り方にどのような影響を与えるのか. 第 31 回日本医学会総会 2023 東京学術プログラム集, 82. (査読あり・国内学会)
43. 酒井郁子 (2023, 6. 16). シンポジウム 9 地域の多職種に必要とされる連携するチカラ, その卓越性. 第 14 回日本プライマリ・ケア学術大会, 14, 111. (査読あり・国内学会) (5/13)
44. 酒井郁子 (2023). 日本老年看護学会第 28 回学術集会 会長講演「老年看護の Journey」オンデマンド配信, 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 45-46, 老年看護学 28(2), 5. (査読あり・国内学会)
45. 井出成美 (2023, 6. 16). 日本老年看護学会学術集会教育セミナー いまさら聞けない IPE のこと 老年看護学との接点 看護学系教育機関における IPE の授業設計.
46. 藤沼康樹, 酒井郁子 (2023, 6. 16). 教育セミナー 4 (対談)医療者が患者とともに老いるということ. 日本老年看護学会第 28 回学術集会抄録集, 119.
47. 酒井郁子, 森みさ子, 齋藤大輔, 山内典子 (2023, 7. 2). パネルディスカッション 5 今求められる多職種連携. 第 19 回日本クリティカルケア看護学会学術集会.
48. Shimoi, T. (2023, 7. 27). Interprofessional Education in Japan. Semahat Arsel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC), Interprofessional Education Workshop.
49. 井出成美 (2023, 7. 29). 学会連携企画 2 モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計 基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPE の哲学に基づく学習到達目標と学習方法. 第 55 回日本医学教育学会. 54(suppl), 147.
50. 酒井郁子 (2023, 8. 3). 特別講演② これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について. 第 35 回日本看護学校協議会学会. (査読あり・国内学会)
51. 天井響子 (2023, 9. 15). 日本心理学会第 87 回大会公募シンポジウム: 援助要請研究の新たな方向性 悩みや問題を認識していない非援助要請者の研究と支援. (査読あり・国内学会)日本心理学会第 87 回大会.
52. 孫佳茹 (2023, 9). 岩内町郷土館第三回企画展「岩内少年団下田豊松の功績」シンポジウム『少年団日本連盟設立「100 周年+1 年」企画ー初代チーフ・スカウト下田豊松のスカウト運動と岩内少年団ー』. 「下田豊松と第一回世界ジャンボリー」.
53. Amai, K. (2023, 10. 20). Adolescents' mental health problems, teacher support, and school adaptation: A qualitative analysis based on the Trajectory Equifinality Model. Washington State Association of School Psychologists 2023 Fall Conference, 2023 October. (招聘講演)
54. 酒井郁子 (2023, 11. 24). 特別講演 3 これからの看護職の価値と働き方. 第 45 回日本手術医学会総会. 日本手術医学会誌, 44(Suppl), 53. (査読あり・国内学会)
55. 下井俊典 (2023, 11. 26). 日本保健医療福祉連携 IPE パネルディスカッション 私が実践している多職種連携教育〜うまくいっていること, 困っていること〜. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 18.
56. 酒井郁子 (2023, 11. 29). 東総地区不眠症診療 WEB セミナー. 旭中央病院 しおさいホール.
57. 下井俊典 (2023, 12. 9). 日本理学療法教育学会学術大会 教育講演 「学習科学を基にした多職種連携教育ーIPE の実装例から考えるインストラクショナル・デザインー」.
58. 酒井郁子 (2024, 2. 4). 日本プライマリ・ケア連合学会研修会 薬剤師と看護師の協働の推進. (オンライン)

59. 酒井郁子 (2024, 3. 5). 内科系学会社会保険連合・外科系学会社会保険委員会連合・看護系学会等社会保険連合 2)看保連における 2024 年度(令和 6 年度)診療報酬・介護報酬の評価. (オンライン)
60. 酒井郁子 (2024, 3. 8). 回復期リハビリテーション病棟協会第 43 回研究大会 教育講演 6 回復期リハ病棟におけるこれからの生活の再構築と自立支援(対面)

〔受賞(国内・国外)〕

61. 第 16 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会学術集会長賞(国内)
看護学研究院附属専門職連携教育研究センターの活動. (R5. 11/26)
62. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会ポスター賞(国内)
原田結菜, 野崎章子, 森内加奈恵, 小早川里絵 (2023). 特定機能病院における性的多様性を有する患者への配慮に関する横断的研究.
63. 令和 5 年度千葉大学医学部附属病院病院長表彰 金賞(国内)包括的せん妄ケアチーム(2024, 3. 18)

〔その他〕

64. 下井俊典 (2023). 岐阜大学大学院医学系研究科医療者教育学専攻修士課程授業. IPC に必要な社会心理学理論と IPE に必要な学習理論. (オンライン)
65. 酒井郁子 (2023). 東京都看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル 質管理 I.
66. 下井俊典 (2023). 公益財団法人テクノエイド協会 福祉用具プランナー管理指導者養成研修. 医学一般 専門職の役割と連携・協働のあり方. (7. 7)
67. 野崎章子 (2023). 国際保健と看護ー多文化社会とヘルスケアー. 茨城県立龍ヶ崎第一高等学校模擬講義.
68. 酒井郁子 (2023). 岩手県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル. 組織管理論Ⅱ講師.
69. 酒井郁子 (2023). 千葉県看護協会 令和 5 年度生涯教育計画に基づく研修会「高齢者を支える看護と高齢者虐待予防研修」. (オンライン)
70. 天井響子 (2023). 市川市教育委員会 養護教諭夏季研修会. 他者に助けを求めない子どもの心の理解と支援.
71. 酒井郁子 (2023). 多職種連携教育(IPE)を理解する・始める. 順天堂大学医療看護学部 FD 講演会.
72. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). 千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター 特定行為研修 チーム医療 多職種協働 演習.
73. 酒井郁子 (2023). 特別講演② これからの看護師に必要な多職種連携教育の進め方について. 第 35 回日本看護学校協議会学会. (8/3)
74. 孫佳茹 (2023). スカウティング研究フォーラム 台湾におけるスカウト運動の現状. (オンライン)
75. 下井俊典 (2023). 全国視能訓練士学校協会第 16 回教員研修会 学生を「巻き込む」授業をどう作るのかー教育設計理論に基づいた授業の設計ー.
76. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. 専門職連携の基礎知識.
77. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. IPE カリキュラムマネジメント基礎編.
78. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. IPE と組織改革.
79. 孫佳茹 (2023). 群馬大学大学院 第 10 回群馬大学 IPE トレーニング 2023 西太平洋地域を中心とした途上国での多職種連携教育のカリキュラム確定並びに改善を目的とした教育者向け IPE トレーニングコース 講師. (オンライン)
80. 井出成美 (2023). 静岡県看護協会 専任教員養成講習会. 看護教育方法論 専門職連携教育「専門職連携教育の基礎知識」.
81. 井出成美 (2023). 静岡県看護協会 専任教員養成講習会. 看護教育方法論 専門職連携教育「カリキュラムへの実装, IPE の教育事例・教育効果」.
82. 酒井郁子 (2023). 千葉県看護協会 第 22 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル「統合演習Ⅱ」講師(9/11)
83. 酒井郁子 (2023). 青森県看護協会令和 5 年度介護施設看護力推進事業 介護施設の為の看護力推

進研修 高齢者施設で働く看護部門の責任者のマネジメント.(オンライン)

84. 井出成美 (2023). IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. 対立の解決のためのストラテジー.
85. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編①職種間の理解. (オンライン)
86. 酒井郁子 (2023). 宮城県看護協会 高齢者ケア施設で働く看護管理者研修. (オンライン)
87. 酒井郁子 (2023). 青森県立八戸北高等学校 講師の専門分野に関する模擬講義.
88. 下井俊典, 笠井大 (2023). 岐阜大学・岐阜薬科大学・平成医療短期大学・岐阜市立女子短期大学・朝日大学・朝日大学歯科衛生士専門学校共同授業 「多職種メディカルケアチーム医療教育(MMeCTE)」. (オンライン)
89. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編②チーム内の効果的なコミュニケーション. (オンライン)
90. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). 令和 5 年度 新規採用者研修(年度中途採用者向け)「専門職連携(IPW)」. (学内)
91. 酒井郁子 (2023). 回復期リハビリテーション病棟協会 2023 年度回復期リハ看護師認定コース 第 16 期 講師「看護とリハビリテーションの考え方」「QOL の考え方と評価」「生活の再構築と自立支援」. (オンライン)
92. 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹 (2023). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編③チームワークの促進スキル. (オンライン)
93. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹 (2023). 千葉県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレベル ヘルスケアシステム論Ⅱ ヘルスケアサービスにおける多職種連携.
94. 井出成美 (2023). IPERC 主催 IPE カリキュラムマネジメント & 授業開発研修. 授業開発 インストクショナルデザインと授業設計. (オンライン)
95. 酒井郁子 (2023). 千葉県看護協会 第 22 回認定看護管理者教育課程セカンドレベル「ヘルスケアシステム論Ⅱ」. (対面)
96. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編④多職種カンファレンス. (オンライン)
97. 酒井郁子 (2023). 神奈川県看護協会 令和 5 (2023)年度介護保険施設等看護研修Ⅲにおける講師「介護保険施設での看護管理者としての役割と責務」.
98. 酒井郁子, 井出成美, 下井俊典, 孫佳茹, 臼井いづみ (2023). IPERC 主催 IPE ベーシック研修実践編⑤対立の解決. (オンライン)
99. 孫佳茹 (2023). 北京師範大学・オンライン絵本講座. (オンライン)
100. 酒井郁子 (2023). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 多職種連携に必要な考え方と基礎的知識.
101. 下井俊典 (2023). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 カンファレンスの基本動作. (オンライン)
102. 井出成美 (2023). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 仕事におけるコミュニケーション. (オンライン)
103. 孫佳茹 (2023). 千葉県受託事業 認知症にかかわる専門職の多職種協働研修 アイスブレイク 私の仕事紹介. (オンライン)
104. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. 専門職連携の基礎的知識.
105. 酒井郁子 (2023). IPERC 主催 IPW ベーシック研修 & マネジメント研修理論編. チームについて.
106. 酒井郁子 (2024). IPERC 主催 IPW マネジメント研修実践編. プロジェクトの基本的知識と進捗管理.
107. 酒井郁子 (2024). 千葉県看護協会 看護師の特定行為研修制度と研修修了者の実践.
108. 酒井郁子 (2024). 日本プライマリ・ケア連合学会 研修会 「薬剤師と看護師の協働の推進」
109. 酒井郁子 (2024). エーザイ株式会社 医療安全と不眠症診療セミナー 身体拘束縮小に向けた取

り組みと不眠症診療の治療の向上.(オンライン)

110. 酒井郁子 (2024). エーザイ株式会社 印旛地区医療安全セミナー 身体拘束縮小と不眠症治療薬の適正使用ー当院での取り組みの実際と効果.(オンライン)
111. 酒井郁子 (2024). エーザイ株式会社 不眠症診療 Web セミナーin 船橋 身体拘束縮小に向けた取り組みの実際と効果ー不眠症治療薬の適正使用を含めてー.(対面)
112. 下井俊典 (2024). 令和健康科学大学 専門職連携教育Ⅲ研修会「IPE における教員(教育者)の役割とその背景理論」

2. 科研費・競争的資金取得一覧

※千葉大学看護学研究科に所属する教員等（＊は大学院生）が研究代表者となっているものに限りません。
研究種目・代表者氏名による五十音順です。

1) 文科科研・厚労科研

【新規】

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
斉藤しのぶ	文科科研 基盤研究(B)	看護のリアリティとバーチャル融合型シミュレーション プラットフォームの構築
田上美千佳	文科科研 基盤研究(B)	精神科外来の可能性を探究するパンデミック下をふまえた 包括的看護支援方法の開発
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究(C)	Impact of listening video logs for extensive viewing on the English spoken fluency of undergraduate Japanese nursing students
植田満美子	文科科研 基盤研究(C)	「潜在看護師の復職準備状況自己評価尺度」の開発とそ の有効性の検証
雨宮 歩	文科科研 基盤研究(C)	カテーテル自己抜去予測アルゴリズムとケア方法の開発
木村佳代子	文科科研 基盤研究(C)	助産ケア DX による包括的シミュレーション教育の開発
飯田貴映子	文科科研 基盤研究(C)	アジア諸国の高齢者長期ケア施設における緩和ケア開 発：マッピング調査
大内 基司	文科科研 基盤研究(C)	消化器官における糖代謝の調節因子としてみた 1,5-AG 機能の解明：加齢随伴性を念頭に
小川 俊子	文科科研 若手研究	食品添加物を利用した栄養カテーテルの衛生的管理方法 の検討
佐伯 昌俊	文科科研 若手研究	医療施設の職種間協働に着目したタスクシフト／シェア モデルの構築
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患をもつ幼児の主体的な発達を支える包括的 援助指針の開発
田原裕希恵	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の運動機能の変化と関連因子の解 明

【継続】 期間延長による継続を含みます。

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
正木 治恵	文科科研 基盤研究(A)	リアルタイム生活情報の AI 解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立
森 恵美	文科科研 基盤研究(A)	妊娠期から産後 1 か月にわたる初産婦夫婦へのオンライン子育て支援方法の開発と検証
石橋みゆき	文科科研 基盤研究(B)	Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発
石丸 美奈	文科科研 基盤研究(B)	認知症を有する人中心のケアリング・コミュニティ協働デザインのツール作成と検証
池崎 澄江	文科科研 基盤研究(B)	特別養護老人ホームにおける看取り介護の定着を目指した組織学習プログラム
酒井 郁子	文科科研 基盤研究(B)	回復期リハビリテーション病棟における EBP 実装プログラムの検証
眞嶋 朋子	文科科研 基盤研究(B)	心不全患者の退院後の心理的安寧を支える看護支援方法の開発
中山登志子	文科科研 基盤研究(B)	研究指導能力向上に向けた看護系大学院修士・博士課程教育連動型 FD モデルの開発
増島麻里子	文科科研 基盤研究(B)	With コロナ時代の ICT ツールによる高齢者主体型の終生期対話プログラムの構築
宮崎美砂子	文科科研 基盤研究(B)	予防活動の持続・発展のための地域看護実践技術の普及・定着に向けた実用化促進研究
下井 俊典	文科科研 基盤研究(C)	医療保健福祉分野における多職種間教育が卒後専門職行動に与える短・長期的教育効果
井出 成美	文科科研 基盤研究(C)	学生の専門職間連携能力の発展を促進する IPE プログラムの実装に有用な学習理論開発
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	看護業務基準の基礎教育における活用
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育
田上美千佳	文科科研 基盤研究(C)	精神疾患患者の家族へのエンパワメントと希望につながる支援の構築
佐藤 奈保	文科科研 基盤研究(C)	重症心身障がい児を養育する家族への地域ケアロードマップとケアモデルの開発
飯野 理恵	文科科研 基盤研究(C)	住民との共働による生活習慣病予防活動のための教材開発と普及に関する研究
カズノブ ダビッド	文科科研 基盤研究(C)	Assessment of a new nursing English curriculum focusing on intercultural competence
富岡 晶子	文科科研 基盤研究(C)	思春期・若年成人がん経験者の性の問題への支援に関する教育プログラムの開発
木村佳代子	文科科研 基盤研究(C)	後期早産児とその母親の母子相互作用を促進する看護介入の開発
岡田 忍	文科科研 基盤研究(C)	介護支援専門員が活用可能な口腔アセスメントアルゴリズムの作成と評価

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
小宮山政敏	文科科研 基盤研究(C)	前腕における皮神経の位置を体表から推定する方法の開発－安全な点滴注射のために
楠 潤子	文科科研 基盤研究(C)	がん患者への効果的な補完・代替療法利用支援に向けた看護継続教育プログラムの開発
佐々木ちひろ	文科科研 基盤研究(C)	急性期病院のプライマリナースによる退院支援に内在する臨床知識
遠山 房絵	文科科研 基盤研究(C)	第2子誕生を迎える第1子のレディネスを高める夫婦協働型子育て支援プログラムの開発
岩瀬 靖子	文科科研 基盤研究(C)	災害時の公衆衛生看護実践における倫理的意思決定能力育成の教育手法モデルの検証
飛世真理子	文科科研 基盤研究(C)	看護基礎教育における感染予防技術の教育プログラム開発と学習効果の検証
手島 恵	文科科研 基盤研究(C)	持続可能な開発目標 (SDGs) の看護継続教育への普及促進と評価
高木 夏恵	文科科研 基盤研究(C)	夜間交代制勤務による看護師への影響と概日適応を促進する健康教育プログラムの開発
前原 邦江	文科科研 基盤研究(C)	不妊治療後の夫婦の親役割への適応を促すオンライン産褥期看護介入プログラムの開発
仲井 あや	文科科研 基盤研究(C)	非侵襲的呼吸補助療法を受ける早産児の Early Warning Score の開発
野崎 章子	文科科研 基盤研究(C)	包摂的パンデミック・レジリエンス構築を志向する精神障害者の地域生活継続支援法開発
諏訪さゆり	文科科研 挑戦的研究 (開拓)	近未来の介護ロボットの開発と社会実装のための Ethical Platform 構築
宮崎美砂子	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	原発被災地域住民の安心・生きがい・尊厳を支える超学際的地域包括ケアシステムの構築
増島麻里子	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	死生観涵養に向けてよりよく生きることを考えるシティズンサイエンスの創発
森 恵美	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	リモート夫立ち会い出産に対するハイブリットケア方法の開発
正木 治恵	文科科研 挑戦的研究 (萌芽)	医療機関で活用する多文化対応ケアコミュニケーションツールの開発
坂井 文乃	文科科研 若手研究	育児を対象としたヘルスリテラシー概念の解明とその発展を促す支援指針の開発
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症療養者の日常生活上の困難を改善する訪問看護ケアモデルの開発
雨宮 歩	文科科研 若手研究	ウェルナー症候群患者の下肢実態調査と潰瘍予防フットウェアの開発
中水流 彩	文科科研 若手研究	先天性心疾患手術を受ける幼児のレディネス発達を促進する看護支援プログラムの開発
宇田川友佳	文科科研 若手研究	看護学生健康自主管理における腸内細菌叢の変化測定の効果

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目
鈴木 美央	文科科研 若手研究	セルフモニタリングに基づいたクライシスプランの作成・実施の有用性の検討
佐野 元洋	文科科研 若手研究	ICT を活用したシームレスな心不全管理と地域連携強化に関する研究
湯本 晶代	文科科研 若手研究	レビー小体型認知症者と家族の困難を改善する包括的訪問看護モデルの開発
飯田貴映子	文科科研 研究活動スタート支援	当事者・市民の視点を反映した高齢者施設における緩和ケア教育プログラムの開発
犬山 彩乃	文科科研 研究活動スタート支援	認知症高齢者が読みやすく理解しやすい文書構造の解明
山崎由利亜	文科科研 特別研究員奨励費	日本の高齢者向け住まいで活用できる認知症フレンドリーな環境評価ツールの開発
佐藤 太一	文科科研 特別研究員奨励費	事例検討会による保健師の職場内教育 (OJT) を推進するガイドブックの開発と検証
天井 響子	文科科研 特別研究員奨励費	青年期の非援助要請者を対象とした精神的健康の予防的支援：社会実装に向けた実証分析
宮崎美砂子	厚生労働科学研究費補助金	自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究

2) その他研究助成金

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目 (助成期間)
大内 基司	公益財団法人痛風・尿酸研究財団 2022 年度研究助成	1,5-anhydro-D-glucitol と尿酸関連の検討 (2022 年 12 月から 2024 年 3 月)
大内 基司	一般社団法人日本痛風・尿酸核酸学会 2023 年若手研究助成	ヒト皮膚細胞における尿酸の至適濃度探索 (2023 年 6 月から 2025 年 2 月)
雨宮 歩	受託研究費 (JST 創発的研究支援事業)	在宅介護を支えるポイントオブケア AI (2023 年 4 月から 2026 年 3 月)
小川 俊子	2023 年度「医食同源生薬研究財団」 研究助成	非経口摂取の療養者に対する食用ゴマ油を用いた口腔清拭手法の確立と効果の評価 (2024 年 2 月から 2026 年 1 月)
佐伯 昌俊	公益財団法人笹川保健財団 2023 年度笹川保健財団研究助成	特定行為研修終了看護師を含む多職種連携に関する研究：タイムリーなケア提供の実現に向けて (2023 年 4 月から 2024 年 2 月)
佐野 元洋	勇美記念財団助成 2023 年在宅医療推進のための多職種 連携研修会への助成	千葉心不全多職種ネットワーク設立とミーティング開催(2023 年 8 月から 2024 年 9 月)
石井 彩	日本糖尿病教育・看護学会 研究助成 B	CGM を使用する 2 型糖尿病患者支援のための評価ツールの内容妥当性の検討 (2023 年 7 月から 2024 年 11 月)
山崎由利亜	特別研究員奨励費	日本の高齢者向け住まいで活用できる認知症フレンドリーな環境評価ツールの開発 (2022 年 4 月から 2024 年 9 月)

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
姚 利	文化看護学会 2021 年研究助成事業	ビデオカンファレンスを活用した在留中国人 高齢者の老いへの準備教育プログラム原案の 作成および妥当性の検討 (2022 年 4 月から 2024 年 12 月)
姚 利	公益財団法人在宅医療助成勇美記念 財団 2021 年度（前期）一般公募「在宅医 療研究への助成」	ビデオカンファレンスを活用する在留中国人 高齢者の老いへの準備教育プログラムの実現 可能性と有用性の検討 (2022 年 4 月から 2024 年 3 月)
有松 夏子*	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 全方位イノベーション創発博 士人材養成プロジェクト	外来化学療法患者の身体活動促進のためのア プリケーション開発と効果検証 (2023 年 4 月から 2026 年 3 月)
石井 柚衣*	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 全方位イノベーション創発博 士人材養成プロジェクト	オンライン面会における NICU・GCU 児とそ の親へのボンディング形成を促進する看護実 践マニュアルの開発 (2023 年 4 月から 2026 年 3 月)
岡本 聡美*	山路ふみ子専門看護教育研究助成基 金	一般病棟における認知症フレンドリーな環境 づくりのためのガイドの開発と有効性の評価 －アクションリサーチによる看護師の認識と 実践の変化に着目して－ (2023 年 5 月から研 究終了まで)
上元 達仁*	公益財団法人フランスベッド・ホーム ケア財団 令和 5 年度（第 34 回）助成事業費	訪問看護管理者のリーダーシップの概念分析 と尺度開発によるモデル検証 (2023 年 6 月から 2024 年 3 月)
上元 達仁*	テキックス株式会社 なな－の訪問看 護デベロップメントセンター 2023 年度なな－の訪問看護研究助成 プロジェクト	訪問看護管理者のリーダーシップ行動の尺度 開発と信頼性・妥当性の検討 (2023 年 8 月から 2024 年 8 月)
後藤 智美*	公益財団法人フランスベッド・ホーム ケア財団 令和 5 年度（第 34 回）助成事業費	在宅領域で活動する特定行為研修修了者の自 立した看護実践に関する質的研究 (2023 年 6 月から 2024 年 3 月)
後藤 智美*	テキックス株式会社 なな－の訪問看 護デベロップメントセンター 2023 年度なな－の訪問看護研究助成 プロジェクト	特定行為研修を修了した訪問看護師の臨床判 断モデルの開発 (2023 年 8 月から 2024 年 8 月)
坂本 明子*	科学研究費助成事業 若手研究	心不全終末期患者へのエンドオブライフケア： 苦痛緩和への実践内容・評価の明確化 (2020 年 4 月から 2024 年 3 月)
周 璐*	公益財団法人木村看護教育振興財団 2022 年度看護研究助成	施設入所高齢者の睡眠と夜間排泄ケア方法の 改善のための取り組み (2022 年 3 月から 2023 年 9 月)
花井 詠子*	山路ふみ子専門看護教育研究助成基 金	自治体保健師の災害時セルフマネジメント能 力向上のためのゲーミングプログラムの開発 と有効性 (2023 年 5 月から 2025 年 3 月)

研究代表者	研究助成金の名称 または科研費の研究種目	研究題目（助成期間）
吉田 佳世＊	2023 年度文化看護学会研究助成事業	地域包括支援センター保健師が在宅認知症高齢者の個人の文化的側面を捉えて援助する様相（2023 年 11 月から 2026 年 12 月）

3. 共同研究

1) 国際共同研究

【地域創成看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：在宅介護ロボットの開発と社会実装における倫理的課題

①本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）：

教授／諏訪さゆり、教授／石丸美奈、教授／兪文偉、准教授／高橋絵里香

②海外におけるパートナー（国名／所属機関／氏名）

アイルランド／アイルランド国立大学ダブリン校／小舘尚之、Sarah Donnelly、フィンランド／セイナヨキ応用科学大学／Helli Kitinoja、Jaakko Hallila、Marika Toivonen

③実施期間：2018 年以降

④プロジェクトの概要

在宅介護ロボットの開発と社会実装に高齢者、家族介護者、在宅ケア専門職の倫理的認識がいかに影響するのかについてモデル開発に取り組んでいる。

⑤資金・助成等

ファイザーヘルス振興財団国際共同研究助成金

⑥主な成果

国際ジャーナルでの原著論文公表

【高度実践看護学講座】

(2) 研究プロジェクト名：

日本とインドにおける慢性疾患をもつ高齢者の QOL および生活満足度：2 国間比較研究

①本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）：

教授／酒井郁子、特任講師／孫 佳茹、准教授／井出成美、講師／野崎 章子、
特任准教授／天井響子、助教／佐伯昌俊、特命助教／西宮 岳、
大学院博士後期課程／後藤智美、大学院博士後期課程／廣田和人

②海外におけるパートナー（国名／所属機関／氏名）：

インド／シンバイオシス大学／Dr Jasneet Kaur ; Dr S G Joshi ; Dr Sheela Upendra ;
Ms Sheetal Barde

③実施期間：2023 年以降

④プロジェクトの概要

インドと日本の2 国間において、慢性疾患を持つ高齢者の Quality of Life、人生の満足度を2 国間で共通の尺度を用いて調査することで、その実際を明らかにするとともに、2 国間で得点を比較する。

⑤資金・助成等

なし

⑥主な成果

2023 年1 月末にデータ収集を完了し、公表に向け準備中

2) 民間共同研究

【健康増進看護学講座】

(1) 研究プロジェクト名：

限られた人材で非拘束ケアを実現するリスク行動早期検知システムの開発

①本研究における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）：講師／雨宮 歩

②パートナー（企業名）：株式会社アイ・メデックス

③実施期間：2022 年10 月1 日～2024 年3 月31 日

④プロジェクトの概要：

認知機能低下のある高齢者の身体拘束最小化に向けて、接触センサシステムを用いた脱衣予防システムを開発中である。

⑤資金・助成等：ちばぎん研究開発助成 2022

【地域創成看護学講座】

(2) 研究プロジェクト名：

自律走行型ロボットを医療・介護施設で認知症の人が使用するための最適ケアの知識構造化

①本研究院における研究代表者および研究メンバー（職名／氏名）：

教授／諏訪さゆり、教授／岡田忍、准教授／飯田貴映子、助教／湯本晶代、
助教／アモス・ニヤマザオ、特任助教／犬山彩乃

②パートナー（企業名）：JUKI プロサーブ株式会社

③実施期間：2022 年 10 月～2023 年 10 月

④プロジェクトの概要：

自律走行型ロボットを高齢者病院および介護施設で認知症の人が使用するための最適ケアを明らかにし、その知識を構造化することを目指して、本研究では第一段階として高齢者病院や介護施設において自律走行型配送ロボットおよび自律走行型消毒ロボットを使用するための実践知と効果を明らかにする。

⑤資金・助成等：1,923,130 円

⑥主な成果：

介護施設において消毒機能を有するタイプと配送機能を有するタイプの 2 機の自律走行型ロボットを実装しデータ収集に取り組んでいる。

IV. 社会貢献活動

1. 学協会等への貢献

学協会の役員等について、就任した教員（教授、准教授、講師、助教、助手）ならびに特定雇用教員（技術専門職員・技術職員を含む）の延べ数。

(延べ数)

	件 数			
	学術団体役員 (理事、評議員)	学術集会長	学術団体等委員会 委員	計
2023 年度	121	4	143	268

2. 国及び地方公共団体等への貢献

国及び地方公共団体等の機関等が設置する審議会委員・科研費審査委員などに学識経験者として参加した教員（教授、准教授、講師、助教、助手、特定雇用教員）の延べ数。審議会については名称を記載。

1) 国の機関等

(延べ数)

	件 数			
	審議会委員	科研費審査委員	その他	計
2023 年度	8 件 (★)	12	14	34

★ (50音順)

- ・医道審議会
- ・医道審議会保健師助産師看護師分科会委員（2名）
- ・経済産業省「リスクリングを通じたキャリアアップ支援事業非補助金」
審査委員（分科会座長）
- ・厚生労働省
- ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
- ・日本学術振興会「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育
推進事業委員会」専門委員
- ・文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会」委員

2) 地方公共団体等の機関等

(延べ数)

	件 数				
	審議会委員	医療保険等の 審査委員	財団等の役職 (理事、評議員)	その他	計
2023 年度	19 件 (★)	0	8	8	35

★ (50音順)

- ・印西市予防接種健康被害調査委員会
- ・せたがやインクルージョンプラン策定に向けたアドバイザー会議委員

- ・世田谷区立施設の指定管理制度に係る公募に向けたあり方検討委員会
- ・千葉県
- ・千葉県医療審議会
- ・千葉県国保連合会保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員
- ・千葉県循環器対策推進協議会
- ・千葉県男女共同参画苦情処理委員
- ・千葉県地方精神保健福祉審議会
- ・千葉県保健師現任教育推進会議
- ・千葉市健康づくり推進協議会
- ・千葉市高齢者保健事業評価部会員
- ・千葉市社会福祉審議会
- ・千葉市新基本計画審議会委員
- ・東京都精神医療審査会
- ・東京都世田谷区障害者推進協議会
- ・習志野市健康なまちづくり審議会委員

3. メディア・報道等を通じた貢献

一般メディア及び報道機関等に取り上げられた件数。

	件 数					
	全国紙 (ネット上含む)	地方紙等 (ネット上含む)	テレビ	ラジオ	その他	計
2023 年度	0	1	0	0	3	4

4. 公開講座

日 程：令和5年10月28日（土）13:30-15:30

場 所：千葉大学亥鼻キャンパス 看護学部第2講義室

テーマ：「地域での居場所づくりのためのコミュニケーションゲーム」

ケアリング・コミュニティを住民と協働デザインするツールとして制作・開発された「地域での居場所づくりのためのコミュニケーションゲーム」を、一般に公開し、このツールの有用性やどのような場で活用できるかについて参加者から意見を求める機会とする講座内容を企画した。

講演者：石丸 美奈教授（千葉大学大学院看護学研究院）

参加者人数・感想：

新型コロナウイルス感染症拡大以後、対面での公開講座を再開し、参加者は19名であった。初めにゲーム開発者である講師の石丸教授より世代を超えた交流の場づくりの変遷と意義、「認知症を有する人との共生を目指した居場所づくりのためのコミュニケーションカードゲーム」の開発プロセスの紹介をした。その後、1グループ5～6人として受講者同士でカードゲームを行った。カードゲームを通して、初対面の人とも未来の地域社会について話しをし、楽しみながら学ぶとなっていた。

事後アンケートには、19名の参加者全員から回答が得られた。回答者の年代は、20代2名、40代5名、50代6名、60代4名、70代2名で、満足が18名、やや満足が1名と参加者には満足いただけたと考える。実際に、カードゲーム中は、活発なやり取り、笑い声が各グループから上がっており、有意義な公開講座になっていたことがうかがえた。

自由記載欄にあった主な感想は以下の通りである。

- ・楽しく初めてお会いする方々と未来の地域社会について話をすることができました。

- ・参加できて大変嬉しく、勉強になりました。
- ・楽しみながら学ぶ、意見交換する、情報交換することができるのだと実感しました。
- ・今の自分が何を大事にしているのか、そのこともふまえつつ、何を今後やっていくべきなのか、あらためて考えるいい機会になりました。マンション生活では地域のコミュニケーションが難しいこと、積極的に地域の活動に参加していくことが、結局は自分に今後必要なことが見えてくること、集う場を提供してもやり方によっては閉鎖的になってしまうこと（子育てグループなど）など、一緒にゲームをした方々から非常にためになる知見を得ることができて、とても勉強にもなりました。地域の居場所づくりだけでなく、今後の自分の生活にも生かしていきたいです。



V. 国際交流

1. 海外への渡航者数

教員			大学院生			
研究 研修等	学会参加	その他	研究 研修等	学会参加	留学	その他
5	24	17	2	12	3	0

2. 海外からの来訪者数

国名	所属機関名	来学目的	人数	受入日数
インドネシア	UNIVERSITAS GADJAHMADA	表敬訪問	2	1
イギリス	コベントリー大学	表敬訪問	1	1
アメリカ	Washington State University	本学主催セミナー の講師	2	5
アメリカ	アラバマ大学	表敬訪問 留学プログラム 打ち合わせ	3	1
中国	大連医科大学	表敬訪問	6	1
アメリカ	シンシナティ大学	視察	2	8
アメリカ	シンシナティ大学	学生交流	10	8
イギリス	ランカスター大学	研究	1	21
イギリス	レスター大学	学生交流	5	8
インド	シンビオシス大学	学生交流	10	8

3. 海外の大学との協定

1) 大学間協定

2023年12月現在で41か国284件の大学間協定があり、そのうち看護学研究院が締結に関係した協定を掲載する。

国	大学	締結年
アメリカ	アラバマ大学タスカルーサ校 (アラバマ州タスカルーサ)	1984
タイ	プリンス オブ ソンクラ大学 (ソンクラ)	1996
フィンランド	セイナヨキ応用科学大学 (セイナヨキ)	2000
中国	安徽医科大学 (安徽省合肥市)	2010
韓国	ソウル国立大学 (ソウル市)	2011

国	大学	締結年
中国	中国医科大学 (遼寧省瀋陽市)	2013
中国	大連医科大学 (遼寧省大連市)	2015
カナダ	プリンスエドワードアイランド大学 (プリンスエドワードアイランド州 シャーロットタウン)	2016
タイ	コンケン大学 (コンケン)	2017
イギリス	コベントリー大学 (コベントリー)	2020
インド	シンビオシス大学 (マハーラーシュトラ州プネー)	2022

2) 部局間協定

(1) 現在の協定大学

国	大学（場所）	締結年
アメリカ	アラバマ大学バーミングハム校看護学部 (アラバマ州バーミングハム)	1990
アメリカ	サンディエゴ大学看護学部 (カリフォルニア州サンディエゴ市)	2011
タイ	コンケン大学看護学部 (コンケン)	2015
韓国	ソウル国立大学看護学部 (ソウル市)	2016
中国	大連医科大学看護学部 (大連市)	2016
中国	復旦大学看護学院 (上海市)	2017
中国	香港大学看護学部 (香港)	2018
イギリス	アルスター大学看護学部 (北アイルランド)	2019
中国	大連医科大学附属第一医院 (大連市)	2019

(2) 過去に協定があった大学

国	大学（場所）	協定期間
アメリカ	ミシガン大学看護学部 （ミシガン州アナーバー）	1996-2018
中国	北京大学看護学院 （北京市）	2007-2012
中国	天津医科大学看護学院 （天津市）	2007-2017

編集後記

「千葉大学大学院看護学研究院年報 2023」を刊行いたしました。本年報は、千葉大学看護学研究院の教育・研究および社会貢献活動の1年間の内容を発信し、データベースとしての役割を強化することを目的としています。

社会は COVID-19 以前の状況に戻りつつありますが、病院実習などが多い本研究院では、教育・研究・社会貢献活動に COVID-19 の影響が続いており、教職員は細心の注意を払って取り組んでいます。

看護学部では 2023 年度入学生から新しいカリキュラムを導入し、看護学研究科では 2021 年度からの新カリキュラムの評価を実施して、より良い教育・研究を目指しています。また、看護実践・教育・研究共創センターは文部科学大臣認定教育関係共同利用拠点として4期目の認定を受け、「次世代育能力強化のための看護系大学 FD 推進拠点」事業を開始しました。

本研究院は、グローバル社会のリーダー育成と人々の健康かつ安定した生活への貢献を目指して歩み続けており、今後もその発展に努めてまいります。

このたび、図書・年報委員として本年報の発刊に尽力された小宮山政敏教授が退官されました。これまでのご貢献に深く感謝申し上げます。また、発刊までの事務業務を円滑に調整くださった菊本係員をはじめ、事務部の皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

図書・年報委員会 委員長 田上美千佳

2023 年度 図書・年報委員会委員

井出 成美（副委員長）、小宮山政敏、高木 夏恵、遠山 房絵、正木 治恵（五十音順）

千葉大学大学院看護学研究院年報の沿革

1979(昭和 54)年 3 月 千葉大学看護学部紀要第 1 号発行

2010(平成 22)年 3 月 千葉大学看護学部紀要第 32 号発行

2011(平成 23)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究科紀要第 33 号発行

2019(平成 31)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究科紀要第 41 号発行

2020(令和 2)年 3 月 千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2019 発行

2021(令和 3)年 3 月 千葉大学看護学部・千葉大学大学院看護学研究科年報 2020 発行

2022(令和 4)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2021 発行

2023(令和 5)年 3 月 千葉大学大学院看護学研究院年報 2022 発行

千葉大学大学院看護学研究院年報 2023

2024（令和 6）年 3 月発行

発行者 千葉市中央区亥鼻 1 丁目 8 番 1 号

千葉大学大学院看護学研究院

Tel : 043-222-7171（代）

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

